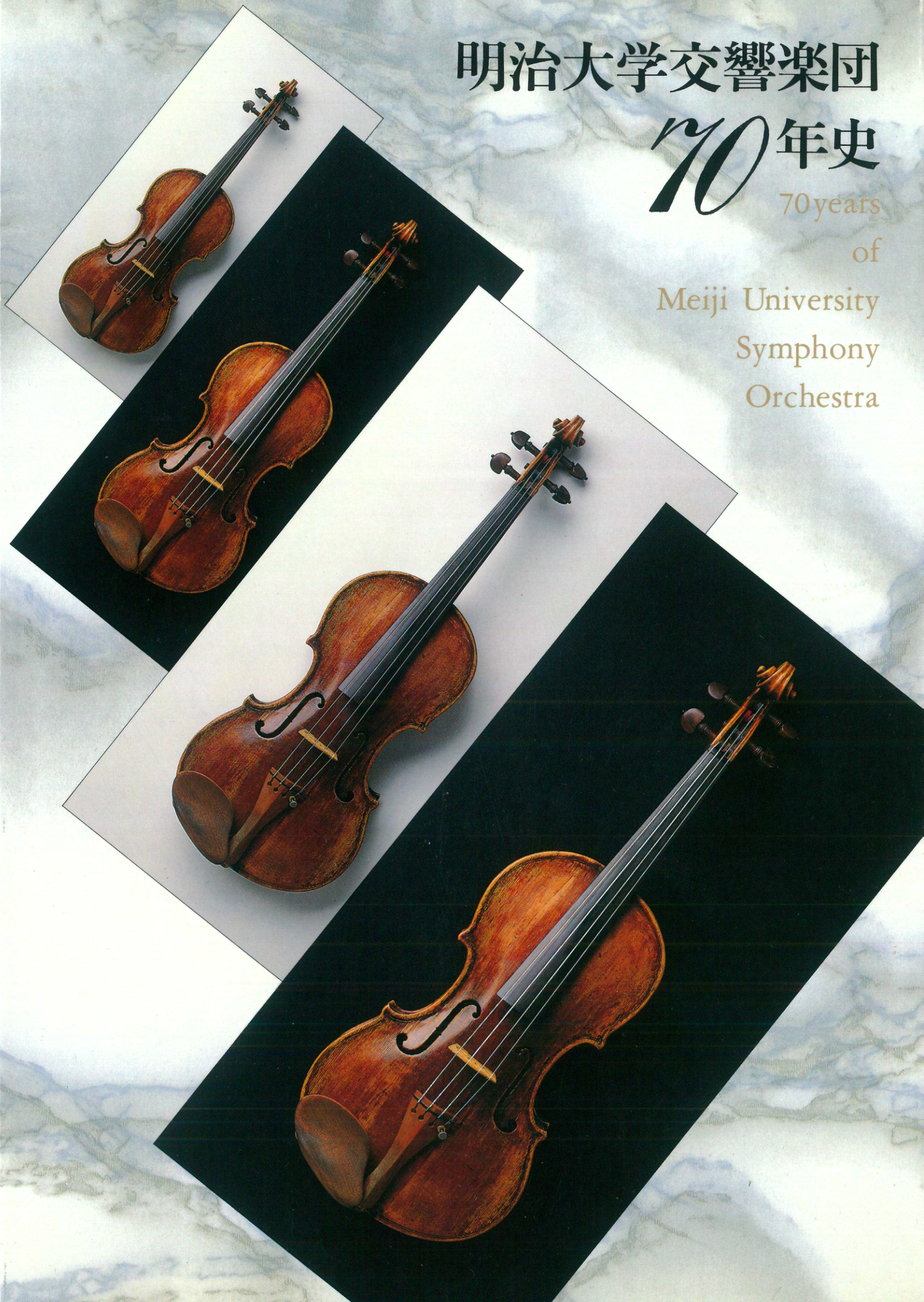
明治大学交響楽団 70年史

70years of Meiji University Symphony Orchestra



校　　歌

作詞　児玉花外
作曲　山田耕筰

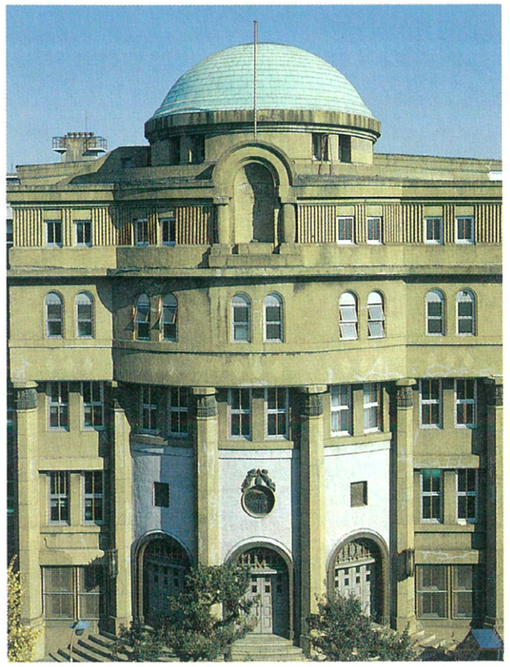
白雲なびく駿河台
眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘
文化の潮みちびきて
遂げし維新の栄になふ
明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校

権利自由の揺籃の
歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり
独立自治の旗翻し
高き理想の道を行く
我等が健児の意気をば知るや
我等が健児の意気をば知るや

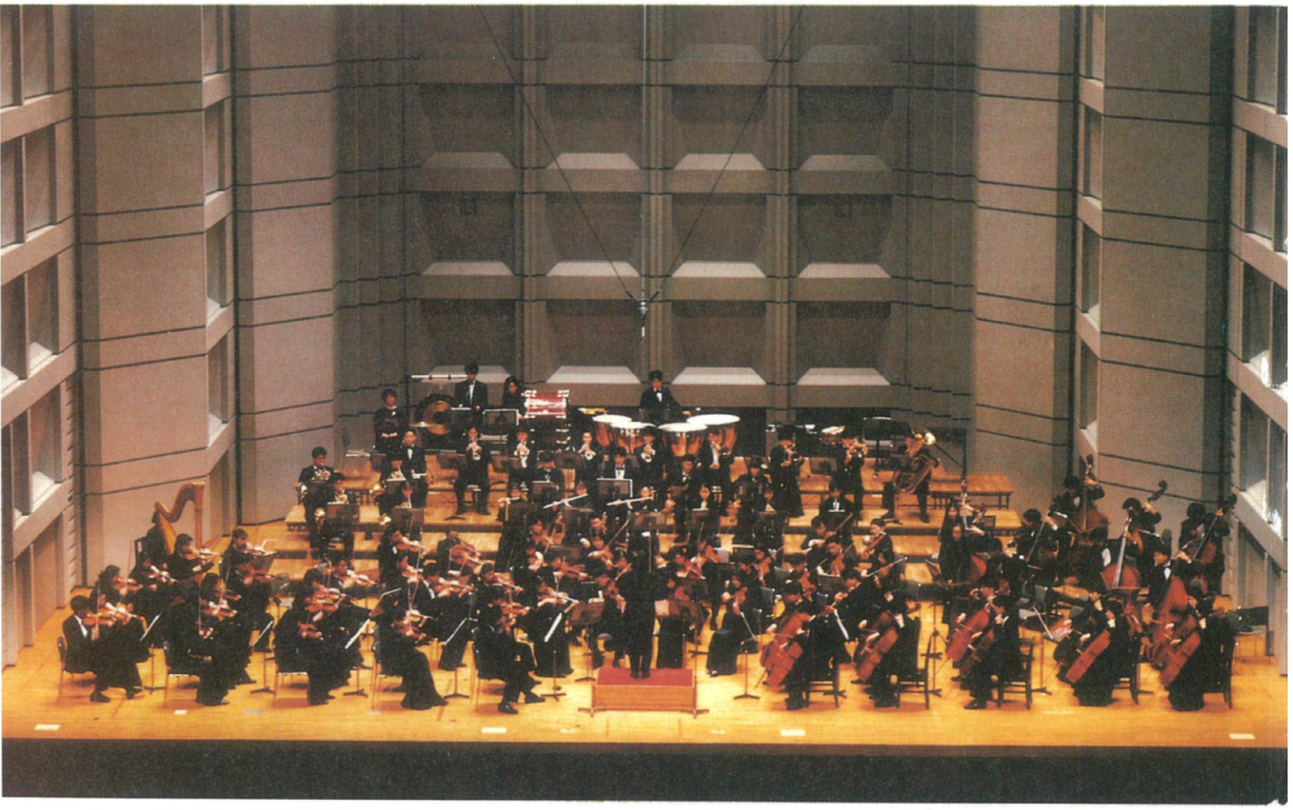
霊峰不二を仰ぎつつ
刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり
いでや東亜の一角に
時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

明治大学交響楽団 70年史

70years of Meiji University Symphony Orchestra



明治大学交響楽団OB会



第70回定期演奏会（平成５年12月10日）

目　　次

挨拶／祝辞　5

座談会「明オケを語る」

尾原勝吉先生を語る　21

創立～昭和30年までを語る　36

昭和30年～50年までを語る　50

昭和50年～現在までを語る　60

七十年のあゆみ　69

記録／資料　97

全団員名簿　121

明治大学交響楽団

●

創　立

1923年（大正12年）４月

●

創立者

尾　原　勝　吉

菊地雙三郎　中川　　亮

塚田道三郎　林　　慶旺

他

挨　拶／祝　辞

第９回定期演奏会（昭和７年11月４日）

七十年史発刊にあたって

明治大学交響楽団ＯＢ会会長
木元尚男

明治大学交響楽団創部七十周年を記念し、「明治大学交響楽団七十年史」の編纂が計画され、全国のＯＢが力を結集してこのたび発刊する運びとなりました。資料の収集及び編集に尽くされた関係者の方々の大変なご努力に対し、深く敬意を表するとともにその労に心より感謝申し上げます。

日本に於いて日本人の手で交響楽が演奏されたのは、東京音楽学校の管弦楽団を例外とすれば、山田耕筰がドイツ留学から帰国した直後、大正４年に彼が結成した東京フィルハーモニー会管弦楽部によるものでした。しかしこの管弦楽団は短期間で演奏活動が中止され、本格的なオーケストラが日本に登場するのは、大正14年、山田耕筰の日本交響楽協会であり、翌年これを母体として組織された近衛秀麿の新交響楽団です。

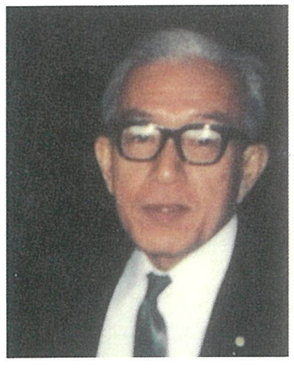
明治から大正へのわが国は、急速に西欧化、近代化への道を走り続けた時代であり、大正の半ばを過ぎた頃は、音楽界も大きく飛躍の時を迎えていました。わが明治大学交響楽団は、このような時代背景の中で、大正12年、尾原勝吉先生をはじめとする数名の同志によって誕生したのです。

その後の70年は、オーケストラにとっても、日本の国にとっても平坦な道程ばかりでなかったことは皆様ご存知の通りです。特に第二次世界大戦中は、個人の生活も儘ならぬ時代であり、演奏活動も制限された中で、明治大学交響楽団の灯をひたすら守り続けられた方々の苦難の日々を、われわれは決して忘れるものではありません。また戦後の混乱期に、オーケストラ再建に奔走された故緒方孝太郎氏をはじめとする多くの先輩の方々の労苦を思うとき、只々頭が下がるのみです。「明治大学交響楽団七十年史」発刊に当り、戦禍に倒れられた先輩、物故された諸先輩に感謝と敬意を表し本書を捧げます。

なお、本書が音楽を愛する次なる世代に受け継がれ、明治大学の文化活動振興の一助となるよう念願してやみません。

七十周年史発刊を祝して

明治大学交響楽団ＯＢ会名誉会長
児島敏彦



明治大学交響楽団七十周年史御発刊心よりお喜び申し上げます。

私が明治大学交響楽団へ入団した昭和６年頃は、団員20数名で、新響（現Ｎ響）や他大学の応援を得て、何とか演奏会を開いてまいりましたが、今では団員も100名を越える立派な楽団になりました。これも若手ＯＢや現役の皆様の御努力の賜物と感謝いたしております。尚且つ、大先輩の尾原勝吉先生の御熱心な御指導と、他の人にはできない五十余年にわたる指揮者として、我々に真の音楽を滲透させて下さったおかげと、いまさらの様に感激いたしております。

今回の記念史刊行については、（故）緒方孝太郎さんの団への貢献を忘れる訳にはまいりません。彼は音楽に精通し、ＯＢと現役のパイプ役として御尽力されました。ＯＢ会の育成と後輩の指導に熱心に取り組まれ、七十年の歴史を築くのに、病をおして活躍され、非常に御立派でした。その御努力が今日実って、記念史発刊へ至ったことは間違いなく、彼が生存しておられたら、あの優しい顔でにこにこと万歳を叫ばれたことと思い、誠に残念に耐えません。

今後もＯＢ及び現役の方々の御努力により、益々立派な交響楽団をめざして頑張って頂きたいと念じて、お祝いの詞と致します。

役員はじめ皆様がたの御健康と御精進をお祈り申し上げます。

祝　　辞

学校法人　明治大学理事長
岡 村 了 一

明治大学交響楽団創立70周年に当り、その記念誌が刊行されることになりました。先には記念音楽会が成功裡に行われ、今またこの出版の実現をみましたことは楽団発展の有力な証しであり、まことに慶賀に堪えません。

たまたま私は、本学理事長就任の前日迄、ある音楽大学の理事長と、兼ねて教員を致しておりました。その時代に色々考えてきたことではありますが、音楽は絵画等と共に社会の諸文化現象の中で極めて高い次元に位置するもので、人類文明発展史の中で、その各時代相とそこにこもる哀歓とを如実に明示してきたように思います。

「三分の人事、七分の天」と云われますが音楽のことは七分が天分、その資質豊かな人々が楽団を結成、修練を相受け相継いでされてきた、そして大正の末交響楽団を結成してより70年、この間この国の歩み、人心の動きを顧みればそれは容易ならぬ道程であったと思います。

しかし今日、半世紀来打ち続く泰平の中で、全き自由の中に日本の音楽が置かれていると云うことは実に愉快に存じます。交響とは同時に響くとか音の協和とかいう意味があるのでしょう。その演奏が音楽の最高形式に位置することを自覚する楽団が発展することは、明治大学にとりましても調和が発展の王道であることを示すもので崇高な付帯する使命を有せられることを覚えます。

一両年前早稲田ではカーネギーホールでの演奏会を成功させたと聞いております。並び立つ本学においてもかゝる快報世を駆け回ることを念じて止みません。

人生至高の理想である、真・善・美は、また音楽家ないしその集団にとりまして夫々自己に直結するところの大目標であります。

百家争鳴、人心漸く波動を見る秋、わが明治大学交響楽団創立70年の意義と使命を思いつゝ心よりお祝いの辞を申し述べます。

七十年史の発刊に寄せて

学校法人　明治大学総長
宮 崎 繁 樹

明治大学交響楽団が創立70周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

また、これを記念して、この度「明治大学交響楽団七十年史」が発刊されますことを、お祝い申し上げます。

本学は、岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の三氏によって明治14年（1881年）に明治法律学校として創設されてから今年で創立114年を迎えますが、その間建学精神に支えられ、多くの有能な人材を社会に送り、文化の発展に寄与しつつ、大学の使命を果たしてまいりました。

そのような中で、明治大学交響楽団が大学の歴史と並行して、創部70年の年輪を刻んでこられたことは、幾多の喜びと苦難を乗り越えてこられた人々の思い出と共に、輝かしい歴史でもあったと考えます。日本にとってもこの70年は、まさに激動の時代でした。

特に、戦後は、今までの価値観を根底から覆す模索の時代であり、明治大学交響楽団にとっても受難の時代であったと思います。

しかし、その時々の社会の変化に影響を受けながらも、厳しい練習と懸命の努力を積み重ねた事実は、何時の時代にも変わりはないものと思います。この研鑽の積み重ねが明治大学交響楽団の輝かしい伝統を築き、歴史を刻み、偉大な足跡を残してこられたものと信じております。

美しい旋律と情熱溢れる演奏は、音楽を聴く人の心に爽やかな安らぎと暖かい励ましを与え、そして新たな気力と深い感動を与えてくれます。

今後とも、先輩諸氏から受け継いだ貴重な伝統を守り、そして人々の心に喜びと活力を与える演奏が100年、200年といつまでも続く事を念願して、発刊の祝辞と致します。

祝　　辞

学校法人　明治大学学長
岡野加穂留

明治大学交響楽団の「七十周年史」発刊を心からお祝い申し上げます。

この記念すべき七十周年史を発刊することは、新たな飛躍を目指す意味からも極めて意義深いことだと思います。

現役の学生のみならず卒業生、そして広く一般社会に音楽をとおして、明治大学らしい伝統の気風を吹き込んできたことは、キャンパスを明るくする偉大な原動力となるものであり、これまでの交響楽団の実績を高く評価するものであります。

普段、私たちは生活の中の音楽を、何気なく楽しんでいますが、団員一人一人は、地道な努力の積み重ねによって得た、音の持つ素晴らしさを、70年間にわたって伝えてきたことと思います。また、私たちは音楽に心の安らぎと豊かさを求めますが、常に団員たちは、情熱を賭けたフレッシュな演奏で、この期待に応え、音楽を共有してきました。

言うまでもなく、明治大学は創立以来115年の伝統を誇りますが、交響楽団は、その伝統の３分の２近くを担ってきました。日本の中においても70年の歴史を持つ交響楽団は、極めて数少ないものと思われます。

ここに、明治大学交響楽団が、明治大学の栄光とともに、70年にわたる輝かしい歴史と伝統を築きあげてきたことは、卒業生・現役学生諸君らが一体となって非暴力・平和主義の手段としての象徴である音楽を、心から謳歌してきたからだと思います。

今後とも、精神のハイマートである明治大学において、豊かなキャンパスライフのために、素晴らしい音楽を創造していかれることを期待いたしております。

おめでとうございます。明治大学交響楽団の未来のために万歳。❗

七十周年及び同史の発刊を祝して

明治大学交響楽団元部長
明治大学教授 奥 隅 栄 喜

明治大学交響楽団70周年及び同史の発刊おめでとうございます。私が、元、当クラブの部長林久吉教授から依頼されて当クラブの部長になりましたのは、昭和42年でした。同部長就任後初めての定期演奏会は、同年11月29日、杉並公会堂で午後６時30分開演でした。それから昭和59年迄、約17年間部長としてお手伝い致しました。当時は、常任指揮者の尾原勝吉先生は御健在で（昭和56年３月逝去）、毎年恒例の定期演奏会には必ず奥様がお出でになられ、楽屋で、かいがいしく先生の「支度」のお手伝いをされておられることが印象的でした。O．B．の方々（児島敏彦さん、武市二郎さん、緒方孝太郎さんなど）もとても熱心で定期演奏会には必ずお見えになられました。演奏曲は重厚な「クラシック」音楽で、団員も数多く、学生諸君も熱心に演奏し、いつも聴衆を魅了致し、聴衆からは「アンコール」の喝采でした。

演奏会が終わってからのパーティでは、先輩諸兄の音頭で乾杯し、演奏会についての尾原先生からの御忠告、アドバイスがあり、学生代表からの演奏会についての反省の辞があり、O．B．諸兄からの御忠告や祝辞があり、その後は懇談会に入り楽しい和やかな演奏会の夕べで幕が下ります。

古い歴史と伝統をもち、学生諸君もよく学び、よく遊び、誠に学生らしい音楽団体として団員一同誇りをもっておりました。

明治大学交響楽団が70年、人間ならば古希（古くして希なり）の年輪を重ねたこと誠に慶賀に絶えません。益々の御活躍と一層の御発展を祈念して御祝辞と致します。

創部七十年を祝う

明治大学交響楽団前部長
明治大学教授　松本　　穣

明治大学交響楽団がこのたび創部70年を迎えられたとのこと、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

数年前、商学部の鈴木義夫先生より部長を引継ぎ、２年間、部長を務めさせて頂きました。その間、定期演奏会等に出掛け、美しい交響曲の調べを堪能させて頂きました。日頃の猛練習の賜物かすばらしい演奏でありました。

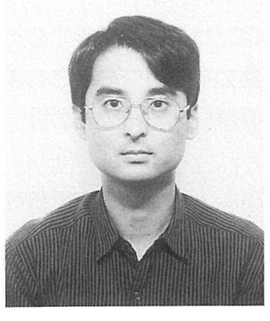
その後、同じく商学部の上田泰先生に部長を引継いで頂き、現在に至っているものと思います。

団員も交響曲の演奏という大学の部活動を通じて生涯の素晴らしい友人を沢山に得られたものと思います。共に研鑽し、寝食を共にした部活動の友人はその後の社会人としての生活にも掛け替えの無いものとなっているものと信じます。大学の部活動の目的は、その部の目的としているスポーツなり音楽なりの練習にあることは当然のことでありますが、それと同時に「その活動を通じて友人を得る」ことにあると思っております。

明治大学交響楽団が今後ますますご発展されますことを心よりお祈りいたし祝辞といたします。これからも大いに頑張って下さい。

創部七十年を祝して

明治大学交響楽団部長
明治大学助教授　上田　　泰



この度、平成５年をもちまして明治大学交響楽団が創部70周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。この慶事を迎えるに当たりまして、現在、部長という大役を仰せつかっている喜びを噛みしめております。70年間という月日は決して短いものでなく、楽団がここまでくるには、多くのご苦労があったことと存じます。時々の危機的状況を乗り越え、今日の慶事を迎えられましたのは、偏に歴代部長やＯＢの諸先輩方の力に負うところが多かったのではないかと思います。

私は明治大学に勤務して７年足らずの若輩ですが、学校側も、また一般学生の意識としても、ラグビーや野球などの体育系の部の活躍には非常に注目し、そのためにスポーツ推薦入試なども積極的に行なっているのと比較すれば、文科系の部の活躍には余り関心を示してくれないことをしばしば感じております。明治大学の部活動史の中でも、明大交響楽団は少なからず大きな位置を占めているのですから、学校側や一般学生が今以上にその活動に注目してくれてもよいのではないかと思います。

もっとも、そのためには交響楽団側も、自分たちの活動や自分たちが演奏している音楽がどんなに素晴らしいかを、もっと積極的にまわりに伝えていかなければなりません。クラシック音楽については、その魅力を知らない人間にとっては近づきがたい音楽と感じることも多いのですから、交響楽団が率先して音楽と学生との橋渡しになるよう一層、努力することが必要ではないでしょうか。

バロックから現代音楽まで数百年間にもわたる期間の音楽をレパートリーにする交響楽団にとって、この70年は単なる節目に過ぎないのかもしれません。今後、交響楽団が100年、200年とますます輝かしい歴史を積み重ねることができますように、心から祈願申し上げます。

七十年は全ＯＢの勲章

明治大学交響楽団ＯＢ会理事長
杉山　茂

吾等明治大学交響楽団創団70年の記念すべきコンサートが去る平成５年12月10日、わが国有数のコンサートホールであるオーチャードホールに、満員の聴衆を集め華々しく挙行されました。後輩達の晴れ姿を客席から眺め感慨一入であったのは、私ばかりではなかったと思います。

私が明治大学交響楽団へ入団したのは、大学２年の昭和42年の春でした。５歳から始めたヴァイオリンは、岩船雅一先生という大恩師に個人指導を受けるのみで、アンサンブル等ほとんど未経験でした。オーケストラの事など全く分からなかった私でしたが、この入団は、終生における自分と音楽の拘り方に、一筋の道標を提供してくれたと感じております。

団では尾原先生が熱心に御指導される姿に感銘し、一方多くの同輩達の音楽に取り組む姿……正に情熱と純粋さによって、不可能が可能となって行く過程を共有させて頂きました。その情熱と純粋さを目の当たりに体験できた事は、私にとりまして掛け替えのない人生の財産を得たように思います。

学生時代、尾原先生の御好意で、度々ソロを弾かせて頂くという名誉な機会に恵まれた事を感謝いたしております。現在生業の他、一人でも多くの方々に音楽の楽しさを味わって頂きたく楽器と接しているのは、この大学時代に得た貴重な体験があったからこそと思っております。

この度七十年史が編纂され、明治大学交響楽団70年の足跡を顧みる時、各時代の輝かしい活動と栄光がしのばれ、それを支えた全団員に深く敬意を表すると共に、一人の仲間として、一時期歩みを共にしたことを誇りに思うものであります。

70周年という長い道程は、全てのＯＢが団と音楽に捧げた情熱と純粋さによって打ち樹てた“勲章”であり、現役学生諸君も又この情熱と純粋さによって、この“勲章”を継続していくことを間違いなく確信するものであります。

終りにＯＢ諸兄、並びに明治大学交響楽団の益々の隆盛を祈念し、お祝いの詞とさせて頂きます。

祝　　辞

元ＮＨＫ交響楽団ヴァイオリン奏者
尾原　恒

明治大学交響楽団創立70周年お目出度う御座居ます。

私はＮＨＫ交響楽団に36年在籍いたしましたが、音楽大学へ進まず個人的に勉強しましたので、戦争が烈しくなる前の中学生時代にＭ響を手伝わせていただいたのが唯一の貴重な合奏経験でした。

当時の部室は駿河台地下体育館入口わきの三畳？ほどの所で一管編成にもならない小人数で、とてもオーケストラと言える代物ではありませんでしたが、大変懐かしい思い出です。本番では駆り集めた学生服をＮ響から手伝いに来たおじさん達にも着せて大変面白い光景でした。でも『子供が我が校の制服を着たり一体ありゃー何だ』と校友会のコワーイおじさんからクレームがついたり「すったもんだ色々ありました。」

聞くところによると現在は団員百数十人とかで本番は３交替制だとか。吃驚です。今後の御発展確実です。お目出度う御座居ます。

北海道演奏旅行の思い出

元ＮＨＫ交響楽団オーボエ奏者
似鳥健彦

私の芸大在学中、明大オケからよく声をかけていただきました。ですから沢山の思い出があるのですが、一番の思い出は、再三にわたる北海道への演奏旅行でした。もしも、この明大オケとのつながりがなかったら、北海道については、何も知らないといっていい位で、あちこちの名所を知ることが出来て、本当に感謝しております。

登別温泉の大きな浴槽、長万部で腹一杯食べた毛ガニ、屈斜路を望む雄大な眺め、アイヌ部落を訪れた事等、次々とスライドの幻燈を見る様に浮かんでまいります。きれいに見渡せた摩周湖に、思わず滑り落ちる様に下りて行き、20人位だったと思いますが、風呂へ入る様な格好で冷たい湖を泳いだ思い出も、今は懐かしく、得難い体験でした。

この様々な演奏旅行の思い出も、結局は尾原先生の指揮で演奏した、網走刑務所での感激に尽きるのです。刑務者に聴かせる事も初めてだったのですが、尾原恒さんのヴァイオリンソロで、サラサーテ作曲のチゴイネルワイゼンを演奏した時、一人二人と涙を拭く人が増えて、演奏の見事さ、オケの音の美しさと、私にとって、生涯忘れられない感激でした。ですから、明大のオーケストラというと、いつもそのシーンがオーバーラップして来て、懐かしい青春の一ページならぬ十ページの思い出となりました。

祝　　辞

ヴァイオリニスト
外山　滋

70周年を迎えられたことを、お慶び申し上げます。その間、幾多の学生さんが軌道を通って行かれ、その集積が現在のオーケストラにあらわれている、と思います。只今、私も学生オケを指導している立場にありますので、その感を深くしております。

40年程前、かけ出しの独奏者として、尾原勝吉先生のもと、貴オーケストラと共演したのを、なつかしく憶い出します。若々しい演奏だったことを（私も含め）忘れてはおりませんが、それでも当時オーケストラとしての歴史は、30年を越えていたわけで（私より年上！）…。

学生オーケストラは、常に新陳代謝ですから、歴史に関係なく、常に現場では若々しいことになります。しかし、長い歴史の中では、目に見えない伝統が、いつの間にか根付いている、と私は信じております。

伝統を生かしながら、さらにレベルアップされている貴オーケストラに、大きな期待を寄せております。

尾原先生のシャガレ声を、しのびつつ。

明大学生服の思い出

元ＮＨＫ交響楽団ホルン奏者
千葉　馨

Ｎ響がまだ新響と言っていた頃、私と新響の仲間４，５人位が、尾原先生に呼ばれて、明大のオーケストラの手伝いに来ていました。

私と尾原先生とは、新響以前に関係があった、というのは、先生の御令息の恒さんとは上野にあった児童音楽院という所の、いわば同級生であったのです。私も当時ヴァイオリンを習っていました。しかし、どうも馴染めなくて、高校へあがる前あたりから、ホルンをはじめたのでした。

明大のオーケストラの手伝いでは、度々借りて来た学生服等を着せられ、演奏会に出たものでした。学生服を着ると、妙に緊張したそんな思い出も、今は懐かしく思い出されます。

その後、だいぶ年を重ねた頃、今度は尾原先生の指揮で、ホルンコンチェルトの独奏者として呼んで頂き、明大オーケストラをバックに演奏させて頂いた事など、今は楽しい思い出です。

明治大学交響楽団70周年、誠におめでとうございます。益々の発展を祈っております。

尾原勝吉先生と東京工業大学オーケストラ

東京工業大学管弦楽団ＯＢ
半澤重信

東京工業大学の管弦楽団が尾原先生の指揮を仰ぐようになったのは昭和26年（1951年）正月からである。当時伝統ある大学のそれと同じように当大学オケもその前年に戦後第一回の演奏会が復活し、さて愈々本格的な指揮者を選ぼうということになった。意気軒昂にして自惚れだけは一流の我々学生一人一人にとって、仰ぐ指揮者は心底敬服できる、誇れる、人格者であらねばならぬ。そんなことを息巻くうちに友人の一人が「尾原の親父に限る」といいだした。その少し以前、筆者は偶然にも、仙台からのラジオ放送で尾高尚忠指揮・Ｎ響の演奏が突然止って、アナウンサーの「一寸お待ち下さい。指揮は尾原勝吉氏に替ります」と絶叫、再び曲が何事もなかったように続けられたのを聞いた。そして翌日「尾高氏が斃れ、即交替した副指揮者による演奏は一層素晴しかった」と報道されたことを鮮明に覚えていた。だから「何と突飛な！雲の上の人を！」と一笑に付したのだった。ところがその１週間程後、大尾原先生が本当にみえたのである。ビックリした。頼みに行った友人に当初先生は「明治大学以外はやらぬ」と固く断られたという。実際に現れられた先生の風貌は、いかにもトツトツとしてまさに好々爺であった。また年令的に丁度私達の親父と同じ位であった。だから、学生全員が忽ちにして先生に傾倒して了った。

昭和27年（1952年）６月１日。当日は尾原先生の棒による第３回目の定期演奏会が開かれる筈であった。Beethovenの「運命」他。しかし学生は特に第３楽章の中間部が弾けぬ。とにかく曲が難し過ぎた。――突然先生は「１４１～２３６小節はとばそう。聴いている方は判りはせん。もっとも終ってから大体の人は変だと気がつくがね」ビックリする学生に「他（？）でも一度やった」と助け舟を出された。お人柄というものであろう。一同はこれで気が楽になった。そこで先生は一発、「演奏会を２週間延ばせ！」本番の前日夜、ゲネプロの最中での仰せである。――結局、６月１日会場に集まった聴衆に「本当に残念です。私達の力が足りなくて申し訳ありません。私達自身も悲しいのです。しかし６月15日は是非お出かけ下さい。」とガリ版刷りのチラシを丁寧に、一生懸命に配ったのだった。そして遂に６月15日。奇妙な「運命」は先生に「上出来だった」と誉められた。先生も学生も大満足であった。但し、動員された先生の息・Ｎ響の恒氏のおかげが大きかった。先生の御命令で恒氏にも随分お世話になっていたのである。

東京工業大学に先生が来られたことが「明治大学以外はやらぬ」との考え方を変えさせたことは間違いない。しかし、先生を親父と呼んだ筆者らよりも、20年以上も若い各大学のオケのメンバーが“オジイちゃん”と呼んだようである。昔のＯＢはそれを聞く度毎に、先生の「明治大学以外」にも棒を振られた意義が計り知れぬ程大きく拡がっていることを痛感したものだ。年令を問はず先生に指揮・指導をして頂いた者、皆が、先生の人格に魅せられ、自らの誇りにしてきた大きな証左であるといえぬだろうか。

＝ＯＢの思い出＝

■児島敏彦（Ｖｎ；昭和11年卒）

今から60年前の昭和10年８月に行なった東北・北海道演奏旅行は、明オケ初の本格的なそして15日間という長期に亙る大変画期的なものでした。曲目の一つにグリーグ作曲の「ペール・ギュント」を持っていきました。ナレーターは団員でもあった（故）菊地行雄さんで全曲を演奏しました。歌手は河原喜久恵さん。初日の演奏会場は秋田で、彼女が「ソルベイグの歌」を歌い出すと、会場のあちこちからすすり泣きが聞こえて来ました。私はその時、音楽は人の心をゆさぶるものであるとつくづく感じました。

秋田公演の後青森で演奏し、北海道に渡って、北海道各地（函館、砂川、札幌、釧路、室蘭、登別、帯広）を演奏し再び本州へ戻って、盛岡で演奏会を持ちました。その盛岡で団員の大倉謹二君が発熱しましたので彼を旅館に残し、最終演奏地である仙台へ向かいました。仙台の演奏会終了後、私は盛岡の大倉君が待っている小田島旅館へ急遽戻り、彼を連れて東京へ帰り自宅迄お送りしましたが、薬石効なく約一カ月後に急逝されました。彼の葬儀に我々は楽器に喪章をつけて、護国寺の墓前で涙ながらの葬送行進曲を演奏し御冥福を祈りましたが、今だに心に深く残っております。

私達の頃は、卒業後プロの音楽家へと進まれた方も多く、10年卒の大島喜一さん（現、日本パーカッション協会会長）がＮＨＫ東京放送管弦楽団に、９年卒の（故）前野繁雄さんがＮＨＫ大阪管弦楽団に、11年卒の（故）岡田和夫さんが京都市管弦楽団へ入団されました。又13年卒の（故）北村一郎さんはジャズクラリネット奏者の北村英二さんの実兄です。その他明治へエキストラとしていらっしゃっていた、三田平八郎さん（Fg）は一橋商大を卒業してＮ響へ、ヴァイオリンの徳永さんは東洋音大卒後Ｎ響のコンサートマスターに（御子息もＮ響のコンマスでした）、スターダスターズを結成された見砂直照さん等多数いらっしゃいました。

在学中は演奏会の他にレコードの吹き込みや、放送等もありました。昭和７年にはポリドールで校歌及び応援歌の録音を、その他７年にＮＨＫ東京、９年にＮＨＫ名古屋、10年にＮＨＫ札幌から校歌や応援歌の放送がありました。

■Ｋ・Ｈ・生（昭和13年卒）

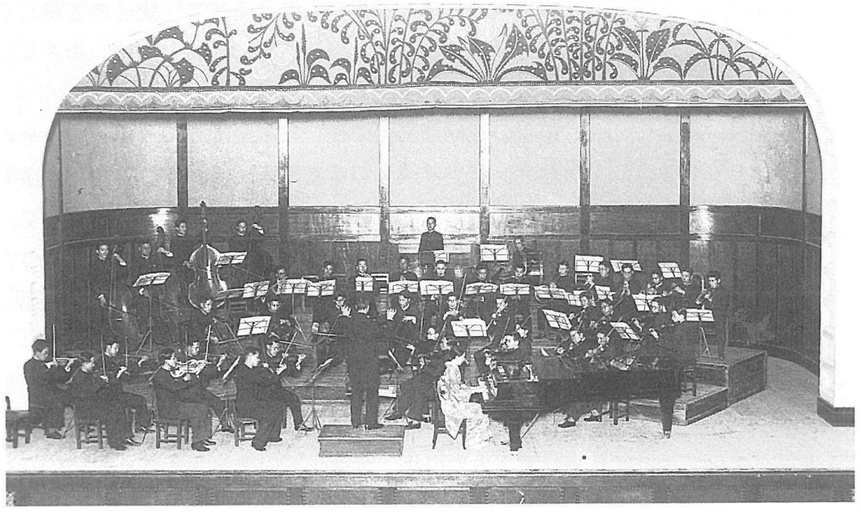
―― 昭和28年第29回定期演奏会
プログラム掲載から

私が入学と同時に管弦楽団員となったのが昭和８年でしたから今から丁度二十年前になります。音楽部長の林久吉教授と指揮者の尾原勝吉氏も管弦楽団の創立当初から引き続き明大管弦楽団のために盡力され両氏共当楽団の生みの親であり育ての親であります事を思へば随分古い思い出も沢山あります。

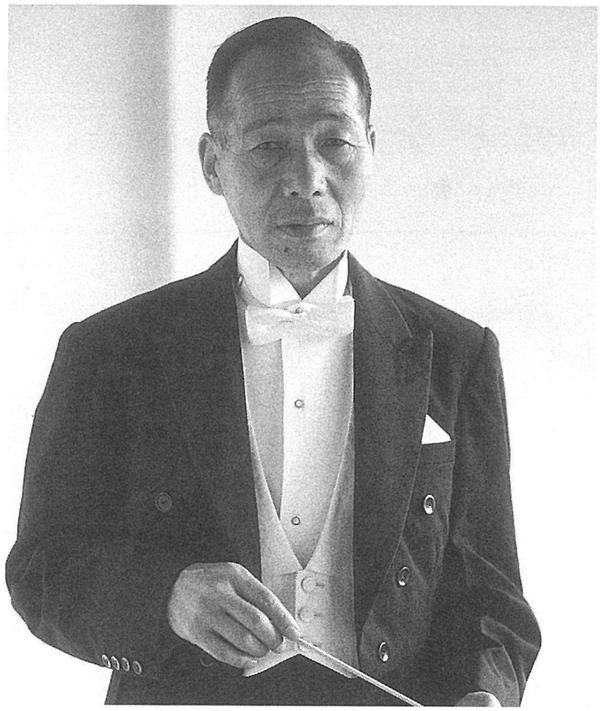
当時の楽壇は現在の様に軽音楽、ジャズは差程盛んではなくクラッシックもの全盛時代でした。又当時もやはり各大学とも同じ様に団員相互の親睦、団結に力を入れ、演奏旅行、合宿練習など毎年行ないました。その結果が演奏の上にも反映してピッタリ皆の呼吸が合って優秀な演奏が出来ました。

私の時代の思い出は沢山あり枚挙に遑がありませんが、一行40名で東北、北海道に新世界交響曲とペールギュント組曲を持って演奏旅行をし各都市で絶讃を拍したことが挙げられます。又千葉県岩井海岸の夏期合宿で岩井駅長、町長等の要請によって町の集会所で無料演奏会を開いて大いに感謝されたこと、先日他界されたアレクサンダーモギレフスキー氏のベートーヴェンの提琴協奏曲の練習で寒かった為同氏が風邪を引かれ二日後に控えた定期演奏会に出演不能となり急にポーラック氏に変更した時には全く周章狼狽しました。又仙台、名古屋放送局からラジオ放送した事等終生忘れ得ぬ思い出です。

座談会「明オケを語る」



第12回定期演奏会（昭和９年11月20日）



明治大学交響楽団は大正12年、尾原勝吉、菊地雙三郎等の諸氏によって創設された――と語られています。

以来平成５年に70周年を迎えるまで、幾多の苦難にも阻まれず、学生オーケストラ界屈指の団体として、めざましい活動を続けてまいりました。

毎年の定期演奏会の他、日本全国への演奏旅行、その他の演奏会、青少年達への音楽教室、式典への列席、合宿等を主に、学生団体としての誇りをもって活動しております。

その長い歴史をここに振り返り、それぞれの時代のさまざまな出来事をＯＢに語り合って頂き、明治大学交響楽団の変遷をみていきたいと思います。

まず初めに、50年の長期にわたり明治大学交響楽団を指揮し、団員を指導してくださいました尾原勝吉先生にスポットを当て、その81年…音楽一筋の御生涯を振り返りたいと思います。

座談会「明オケを語る」

●尾原勝吉先生を語る

明治大学交響楽団70年の礎を築かれた尾原先生が亡くなられて、十数年が経ようとしています。大正12年の創設から昭和54年名誉指揮者となられるまでの五十数年、明治大学交響楽団の核として、数百人の団員とともに過ごされた先生の足跡を、その時代々々お世話になったＯＢ達の話と、残された様々な資料をもとにたどってみたいと思います。

■自宅で特訓する尾原先生

新村　浩(S11年卒) 私は昭和８年頃の入部でしたから、尾原先生もまだ非常に若くて活動的でした。私どもの練習は相当激しいものがありました。新大久保のお宅へ呼ばれまして、パート練習等ご指導頂きました。大変厳しい方で、ものすごくしごかれた事を覚えております。

島田栄吉(S19年卒) 私は尾原先生にヴァイオリンのレッスンをつけて頂きました。新大久保のお宅へ通って個人レッスンを受けましたが、非常に情熱家でものすごく我々を引っぱって下さいました。

毛塚隆之(S39年卒) 私は管楽器でしたので、弦の人ほどしぼられたという記憶はないんですけれど、弦の人達はよく自宅へ呼ばれていたようです。木管も一回だけ先生の家へよばれた記憶がございます。

山陰の片田舎、島根県の草深いタンボの中の一軒屋に生まれたという、どうしようも無い悪い環境で埋もれていた音楽性、生来好きだったらしい音楽が、都会の空気にふれて始めて発芽したものの如く狂気の如く音楽の勉強をした。

とにかく一度やり出すと徹底的にやらなきゃ気が済まない性質なんだ。気違いみたいに練習していたよ、毎日８時間位。（先生のお言葉）

■鋭い耳の尾原先生

平野幹夫(S32年卒) コントラバスという楽器は音感が一番大切な楽器ということで先生の得意のポーズ、親指を上げたり下げたりで音程についてよく注意をうけました。

金子和子(S32年卒) 「青きドナウ」の冒頭のハープの代役をピアノでやったんですが、ポロンという出だし、自分では先生の指揮を見てパッとやったつもりがなかなかＯＫが出ないんです。何回もやり直して、

まあいいだろうということになりました。たしか一年生のことだったと思いますが、六大学交歓演奏会が東大の教室であったんですが、その折「青きドナウ」を演奏しました。何度も練習した冒頭の私の出だしが、はっきり自分でも狂ったと自覚して、きっと後で先生に「何をやっているんだ、あんなに言ったのに」と、かんかんに怒られると小さくなっていたんですけれど、先生は何もおっしゃらなかったことを覚えております。

小林富次郎(S42年卒) 例えばブラームスの交響曲をやった時など、トロンボーンでハーモニーをつくる時に細かく注意して、「２番ちょっと気持ちふくらませて」とか、「もっと上げて」とか的確な、専門的な指導をうけた記憶があります。

増 永 浩 司(S43年卒) 今もお話しがありましたが音程には非常に厳しい先生だったと思います。例えば変な音がしますと、すぐ我々にわかるんですよ。皆さんも記憶があると思いますが、先生がすぐ耳をこうやって、指揮を振りながら確か左手で耳を思わず塞いじゃうんですよ。それでしかめっ面をするんですよ。それをみて我々は、いろいろと反省したのを記憶しています。

小 野　　学(S46年卒) 大編成の中からピッチが違う楽器を指定して、その違ったピッチを正して、この音だよと言って口で音程を示していらっしゃいましたが、すごいなと思いました。

尾原先生若かりし頃
(昭和７年信州旅行にて)

尾原先生は明治大学を卒業後プロの道へ進まれます。大正14年近衛秀麿や山田耕筰の主催による日露交歓交響管弦楽演奏会に、日本側約30名の楽員の一人として加わり、プロとしてデビューされます。以後、山田、近衛の日本最初の民間交響楽団の組織に加わり、初めは「日本交響楽協会（大正12年）」、次に「新交響楽団（大正15年10月）」「日本交響楽団（昭和17年４月）」、最後に「ＮＨＫ交響楽団（昭和26年８月）」と名称は変わりましたが、主体は終始一貫同一団体で文字通り日本の交響楽団と共に歩み続けられます。

明大在学中から指揮も振っていらっしゃいましたが、昭和初期新響の小編成オーケストラを指揮されます。―― 昭和の初期に近衛秀麿氏の斡旋で新響の小編成オーケストラの指揮を月１回の割合で５・６回ラジオ放送し続けたが、楽団員は指揮をしないという内規が出来て止めた。（先生のお言葉）――

尾原先生は昭和18年、新響の常任指揮者として来日中のローゼンシュトックについて指揮法を学ばれます。―― 戦争が激しくなるにつけ、専任指揮者以外に楽団員から指揮者を出す必要から私が選ばれ、当時の指揮者ローゼンシュトックに師事する様要請され、無月謝で約１年間レッスンに通い続けた。戦時中、楽団は国策に依り軍隊や軍事工場等の慰問演奏をやらされその指揮は大抵私などがやらされた。（先生のお言葉）――

■忍耐強く練習を続けられる尾原先生

後 藤 定 治(S26年卒) 私は戦後の混乱期でしたので学生も非常に少なく、団の活動も大変な時代でした。地下の相撲場の横の部室で、古いオルガンを一つ置き、尾原先生がその前へ座って部員５～６人、多くても10人位が並びまして、キコキコと乏しい、情けない音を出しながら練習をしました。戦前の先輩方のお話しでは、大変厳しい先生のようだったのですが、もう諦めておられたのか、「もう一回やってみましょう」とか「ボーイングはどうだよ」とか教えて下さいました。尾原先生にとってみると、ここにいる後輩は何と情けない連中なんだと、何とか後へつながなくては、というお気持ちだったろうと思います。

●音楽活動30周年記念
尾原勝吉指揮による特別演奏会

〔日時〕昭和32年５月10日（金）
〔会場〕第一生命ホール
〔指揮〕尾原勝吉
〔独奏〕外山　滋
〔出演〕ＮＨＫ交響楽団有志
〔曲目〕
モーツァルト作曲
歌劇「フィガロの結婚」序曲
ベートーヴェン作曲
交響曲第６番「田園」
チャイコフスキー作曲
ヴァイオリン協奏曲　二長調
シベリウス作曲
交響詩「フィンランディア」

木 元 尚 男(S29年卒) 昭和26年の第27回定期で「新世界」をやりたいと先生に申し上げた所、最初は渋っておられましたが、まあしょうがないと許可して頂きました。それで後藤さんと同じ様に５～６人を前にしての練習が始まったのですが、それでも余りにひどい音なので、当時江古田に住んでいらっしゃった先生のお宅へ何回か通わされまして、レッスンをしていただきました。

海江田一郎(S35年卒) 大学に入ってチェロを始めたんですけれど、卒業するまでチェロは私一人で、誰も教えて下さる人がおりませんでした。尾原先生のお宅で先生に教えて頂き、悪戦苦闘しながらベートーヴェンの７番をやった思い出があります。出来ない所を何度も何度もテンポを落としてやったことを覚えています。

岡 崎 義 典(S44年卒) 演奏会の直前迄なかなか人数が集まらず、歯抜けの状態での練習が続くわけですが、先生が旋

律を口で歌いながら楽器のない部分を補うという、先生も大変苦労されたんではないかと思います。

杉山　茂(S45年卒)「マイスタージンガー」を選曲した事がありました。先生に「なんでこんな難しい曲を選ぶんだ。出来るわけないだろう。」と言われましたが、先生に頼み込んで練習をして頂きました。先生も「練習して駄目だったらボツにするぞ」と言われ、めでたくボツになりましたが、「せっかくここまで練習したのだからアンコールでやらせてあげる」と言われ大変有り難かったという思い出があります。

昭和24年尾原先生の名声を不動のものとするある事柄が起きます。ＮＨＫの青少年音楽会公開放送の折、プロコフィエフ作曲「ピーターと狼」の日響初演に際しまして、山田一雄氏が急病となり、リハーサルなしのぶっつけ本番で指揮を行ないます。

―― 楽団は演奏会の他にラジオ放送のＮＨＫとの契約がありそのスケジュールの消化はなかなか難事であった。山田一雄が担当であった「ピーターと狼」の初演に病気の山田君の代わりに練習なしで指揮したのはいかにもつらかった。演奏旅行で仙台で尾高君が病気のために代役をやらされ、小倉市では山田君の代役も務めた。（先生のお言葉）――

明治32年４月	島根県簸川（ひかわ）郡久木村（現、斐川町美南）に二人兄弟の次男として生まれる。
大正７年３月	上京し、明治大学商学部予科へ入学。
大正８年	宮内庁音楽部の山井基清氏にヴァイオリンの手ほどきを受ける。山井氏のフランス留学後は多久寅氏に師事する。この頃１日８時間の猛練習をする。
大正12年	明治大学交響楽団設立。
大正13年３月	明治大学卒業。
大正14年	近衛秀麿、山田耕筰等と「日露交歓交響楽大演奏会」に日本側楽員約30名の一員として参加。以後、近衛氏等と日本交響楽協会→新交響楽団→日本交響楽団→ＮＨＫ交響楽団に昭和32年勇退迄貢献する。この頃ケーニッヒ、シフェルブラット両氏に師事する。
昭和５年	日比野愛次、大村卯七等とクリスタル・カルテットを結成。
昭和18年	日響の常任指揮者として来日中のローゼンシュトックに就いて指揮法を約１年間学ぶ。ローゼン師の行なうラジオ放送では本番テストの棒を毎回振る。
昭和24年	山田一雄氏の急病で、代役として日響を指揮し、「ピーターと狼」の日本初演をぶっつけ本番で振る。
昭和26年	東京工業大学管弦楽団常任指揮者に就任。

■Ｍ響＋Ｎ響＝尾原先生

岡野弘志(S35年卒)　その頃尾原先生はＮ響スカウト係もやっていらっしゃって、外山滋（元Ｎ響コンマス）をＮ響にいれたのは尾原先生だったと聞いております。私達の頃は尾原先生の顔で、演奏会本番というとＮ響からごっそりとエキストラが来るというものでした。

後藤定治　第25回の定期の時はエキストラはほとんどＮ響、当時はまだ日本交響楽団でしたが、素晴らしいメンバーが来ましてですね、我々の音は何処へやらで、まあＮ響の小編成のオーケストラみたいな音がでました。

木元尚男　先程の「新世界」をやった時も本番は御多分に漏れず、Ｎ響がパッと並びまして、ホルンの千葉さん、ファゴットの三田さんを初め錚々たるメンバーが揃いまして、素晴らし

昭和27年	Ｎ響の朝日文化賞受賞に際し、先生の功労に対しＮ響より表彰される。
昭和28年	交響楽団員としての活動30周年を記念して第一生命ホールにて特別演奏会が開かれ、その模様をニッポン放送が全国放送する。
昭和32年５月	永年の音楽生活に対し記念演奏会が開かれる。Ｎ響の定年制により勇退。一橋大学管弦楽団常任指揮者
昭和38年	お茶の水管弦楽団常任指揮者
昭和41年６月	常任オケ４団体合同演奏会開催。
昭和48年６月	第１回五大学ジョイントコンサート開催。明治大学交響楽団創立50周年。
昭和49年１月	指揮者生活50周年記念祝賀会。
昭和50年６月	第２回五大学ジョイントコンサート開催。
昭和51年10月	第３回五大学ジョイントコンサート開催。
昭和52年７月	明治大学交響楽団常任指揮者を勇退され名誉指揮者に就任。
昭和52年秋	先生の功績を称え、明治大学より感謝状が贈られる。
昭和53年	永年の学生オーケストラ指導に対し、勲五等双光旭日章の栄に浴す。
昭和53年６月	白金迎賓館にて五大学による叙勲パーティーが開かれる。
56年３月16日	８１歳の御生涯を閉じられる。
56年９月13日	日本教育会館にて「尾原勝吉先生追悼演奏会」を五大学のＯＢＯＧが開催。

函館ＨＢＣホールにて（昭和27年演奏旅行）

い音の演奏会が出来ましたけれども部員は16人でございました。

昭和32年尾原先生は自らＮ響に定年制を導入して勇退されます。その間にはＮ響より表彰されたり、特別演奏会が開催されたりと、大変華々しいご活躍でした。第一線から退かれた尾原先生は、それまで行なっていらっしゃった後進の指導に専念されます。明治の他昭和26年からは東工大、32年一橋、38年からお茶管等、大学オケの指導に携わっていかれます。昭和28年には第１回六大学定期演奏会（慶応、東大、法政、明治、立教、早稲田）等も指揮されます。

■心温かく指導される尾原先生

平野幹夫　尾原先生から、お前は指が太くて大きいから何とかつかいものになるようにしてやるということで、当時Ｎ響のベースのトップをやっておられた久保田さんに師事する様に計って下さり、「最近の出来はどうだ」と常々心掛けて下さいました。

松島一匡(S38年卒)　オーケストラへ入るまでは練習曲ばかり弾いておりましたが、先生に目新しい曲をどんどんやって頂いたので、オーケストラは面白いなと教えて頂いたように思っております。

毛塚隆之　ある時本番を終わりまして、「毛塚、今日一小節早かったな」と言われドキリとしました。グリーグのpf協奏曲で、木管の受け継ぎでフルートから出る所だったんですが、皆つられまして、先生に指摘されるまで気がつきませんでした。

本間次郎(S40年卒)　大学へ入ってヴァイオリンを始めたんですが、尾原先生にレッスンを受けたんです。習い始めたばかりなのに夏の演奏旅行へ連れていって頂きました。まだほとんど弾けなかったんですが、先生に習っていたお陰だと思います。

小林富次郎　１年生の時一橋の演奏旅行のエキストラで行った初日、「運命」の４楽章の途中で４小節早く、ffで飛び出してしまいました。途中で止めるわけにいかずそのまま続けました。終わってから楽屋で土下座して先生にあやまりましたが、怒られませんでした。「終わってしまったことはしょうがない。明日から気をつけろ」ということだけでした。

杉山　茂　東工大へエキストラに行った折、夜の練習ということで学校の近くで食事をしてから行きました。既に練習が始まっていたのですが、休憩の時尾原先生に「何故遅れて来たのか」と聞かれました。先生も同じ電車で学校へ来たのですが、改札口で先生は練習場へ直接向かい、私は反対の方角へ。御覧になっていたらしいのです。「助っ人だからと勝手な真似をしてはいけない、もっと責任を持って行動しろ」とプロの厳しさを教えられた思いがしました。

毛塚隆之　尾原先生とアルバイトに行った事があるんです。ベースを持ってちょっとついて来いと言うんです。部室からベースを持って、タクシーに乗せ丸の内の、確か日本工業会館だったと思ったんですが、そこでパーティーの生演奏を先生方がするんです。途中でサンドイッチが出て来るんですよ。先生が毛塚お前も食え、我々もまだ学生でお腹が空く頃だったので、大変美味しかったですよ。

私が三十余年前在学中、二三の同志と語らい、音楽部創立した時の趣意書にうたったのも、学生の情操教育と人格向上であった。而して指導的地位に立った私は、一貫して、香高い芸術的名曲を克服する努力に依り、養われる情操教養を主目標にして来たつもりである。

創立三十有余年、幾多教養豊かな紳士を学窓より巣立たせた誇りを持つ私は幸福である。(先生のお言葉)

―― 第30回定期演奏会プログラムより

■明オケをこよなく愛した尾原先生

杉山　茂　私は他の大学へエキストラでよく行ったんですが、先生が明治で指揮をされるのと、他の大学で指揮をされるのとちょっと違うんです。明治では練習も可能な限り出られたし、合宿等も最初から最後まで出られた。母校という事もあるかと思うんですが、大変率直な練習をしていらっしゃったように感じました。

小野　学　私達の頃、毛塚先輩が手助けに来て下さった事があるんですが、そんな時は先生もニコニコされながら指揮していらっしゃいました。その時の姿印象的で今でも記憶に残っています。

新村　浩　ちょっと記憶が定かではないんですが、私たちの頃も、練習には毎回来ていたと思います。

昭和41年６月尾原先生が常任指揮をしている五大学（お茶の水女子大、東京医科歯科大、東京工業大、一橋大、明大）による、合同演奏会が開かれます。以後数回にわたって尾原先生に拘った大学オーケストラが交流を続けます。又昭和48年には明治大学交響楽団が創立50周年、第50回定期演奏会を迎えます。翌昭和49年１月16日には東京駅大丸ルビーホールに於きましてＯＢ会の主催する創立50周年祝賀会が開かれました。この祝賀会は尾原先生御夫妻の金婚式も兼ねておりました。祝賀会へは大学より加藤理事長、小牧総長等が御臨席され、総長から尾原先生に感謝状が贈られました。

■愛妻家尾原先生

小林富次郎　３年の時東北・北海道への演奏旅行がありました。私が丁度マネージャーだったんですけど、３週間以上という今までで一番長期の演奏旅行だったんではないでしょうか。その演奏旅行が終わりましてですね、最終日に先生、奥様をお呼びになっていらっしゃったんですね。網走の方とか何ケ所かお二人で廻られたようです。私達も何人かと遊んで帰ったんですけれど、途中でバッタリと尾原先生と奥様にお会いしました。まあ大変仲睦まじく、本当に愛妻家だったというふうに覚えております。

尾原先生と日本の交響楽団

尾原勝吉先生は、交響楽団40年の歴史そのままであると言って過言でない。N響のヴァイオリニストではあるが、オーケストラの指導、それが音楽そのものであろうが、又経営の部門であろうが、そのいずれもの、隅の隅まで知り抜いている人である。

先生のN響勤務時代は遥かに10年の昔となったが、戦前、戦中、戦後を通じて、私は同先生をどんなに「たより」にしたことか。NHK交響楽団の指揮者の位置は、病気その他の都合で、突如として穴があくことが屡々であった。そんなときに「いつでもこい、尾原がいる」という安心感が、吾々を勇敢に前進させた。而も穴埋めの「尾原の腕前」は例外なく完璧であった。

それでいてその尾原なる人物は、よくあることだが、はしたなくも指揮者たらんとする野心を持っていなかった。ここにこの人の測り知れない深さがあり、同僚、後輩の信望を一身に集める理由があるのである。

今日のような機会に、私は、尾原勝吉先生の徳を称え、謝意を表したいと思う。

NHK交響楽団副理事長　有馬大五郎

―――― 五大学合同演奏会プログラムより（S41. 6. 30）

ります。

島田栄吉　尾原先生と奥様は恋愛結婚でした。尾原先生がしょっちゅう話してたことですが、先生の弾くベートーヴェンのロマンス、あれを聴いて涙をこぼし感激して、一緒になりたいということになって結婚したそうです。奥様は生け花の先生で方々で教えていらっしゃったそうです。又御子息の恒さんはN響のメンバーで、私達も毎回応援に来て頂きました。

増永浩司　演奏会の後は必ず奥様同伴ですね。本番の時は必ず奥様がいらっしゃっていて、演奏会の後は先生の横に奥様が座っておられる、レセプション会場でもですね。それがいつも記憶にございます。

■学生と楽しまれる尾原先生

新村　浩　先生は大変お酒が好きな方で、練習が終わりますと、もうすぐ酒盛りという事になります。それから演奏旅行等も夜になりますと、すぐ酒盛りをしておりまして大変親しみやすい、いい先生だなと感じておりました。

島田栄吉　本当にお酒の好きな先生でしたね。

平野幹夫　本当に穏やかで、練習を終わりますと山の上ホテルに行って、皆なでもって先生にまずビールをとってさしあげて、それを目を細めながら飲んでいらっしゃるという様な光景

演奏旅行先で奥様と尾原先生

明大へ進学して、ヴァイオリンへの精進が始まる。「何時間も弾いていると脛に蚤が上がってくるんだなあー。」なんて話されたが、真夏にパンツ一つでエチュードと戦う青春時代が目に見えるようだ。同時代のＯＢが勝ちゃんを下宿に訪ねたら、お嬢さんが来て、いそいそと掃除をしたりするので妬けたなあ…。その娘さんこそ先生の奥様となられた方だ。（武市次郎）

―――― 尾原先生追悼演奏会プログラムより

昭和50年第２回五大学ジョイントコンサートで先生は、前日亡くなられた奥様の写真を内ポケットに入れられ、ショスタコビッチの交響曲第５番を指揮されます。

が今も思い出されます。

岡崎義典　江古田へおじゃまする時には、先生は日本酒の辛口しか飲まないという事を先輩から申し渡しがあり、菊正宗の超特級を１本持って伺いました。

栃本賢一(S54年卒)　私の時代は剣菱でした。（笑）

本間次郎　先生のお宅でレッスンを受けたのですが、私の家のすぐ側に住んでいた飲み屋の女将が、昔デパート嬢をやっていた時、尾原先生がヴァイオリンを教えたという話しを、レッスンそっちのけで話され、楽しく聞かせて頂きました。

金子和子　岩井で合宿を行なった時、女性の部員は２人なものですから、男子と同じ部屋では困るという事で、尾原先生と奥様と私達２名は特別に別の宿をとって頂き過ごしました。そんな事で奥様とも思い出深いものがいろいろあって、若さ故に非常に恥ずかしい思い出も沢山あります。

増永浩司　八ヶ岳で合宿をした時なんですが、野球をやったんです。普段は野球等は指に悪いというので禁止だったんですが。尾原先生が突然我々がやっている間へ入って来て、ノックバットを始めたんです。尾原先生さすがに元甲子園球児という話の通り、バットを握ると腰がシャンとしましてですね、もう確実に狙い定めてスパーン、スパーンとノックするんですよ。突然年が若返るんですね。大したもんでした。

中学は生家から約20キロ離れた、出雲大社の所在地大社町にある県立中学、通学不能とあって校庭にある寄宿舎へ放り込まれた。その関係で放課後から夕食までは専ら運動で、晴天なら野球、テニス、雨天なら柔道、剣道と相手には事欠かぬ、面白くて堪らず、此等に熱中した。御陰で今日の頑健な身体と不屈の精神が出来上がったものと確信している。

実は中学の時甲子園へ出たんだよ。僕がキャプテンをしていたんだ。そしたら山陰で初めて準決勝まで進んだんだよ。御褒美だ、遊んで来いって言われ一日遊んだ所が宝塚なんだね。歌劇を観たんだ。初めてオーケストラといっても７，８人しかいないやつだけどカッコいいなって魅せられちゃってね。（先生のお言葉）

昭和52年１月14日尾原先生最後の定期演奏会、明治大学交響楽団第53回定期演奏会が杉並公会堂で開かれます。―― うーん、そうだなあ。もう終りだからねえ。今まで何度も終りだと言って、ここまでやって来たんだけれども、ここへ来てもう本当に終りだという気がするねえ。今度の明治の演奏会も本当に一生懸命でね、記念に残るくらいの演奏会にしたいと思っているんだ。チャイコの５番は僕の好きな曲だし、僕に合っているんじゃないかな。ただ、なかなかくっついて来てくれないからなあ。僕に関する限りは、他のことを考えずに全力を曲に尽くすほかないし、またそれが僕の生きる道であってねえ。この頃ますますその感が強くなってきたよ。（先生のお言葉）――

ユニホーム姿も似合う尾原先生（昭和27年）

■情熱を燃やし続けた尾原先生

栃本賢一　私が２年の時の定期演奏会が尾原先生最後の演奏会だったと思います。すでにその少し前の、春の演奏会とか、演奏旅行等の指揮は他の先生が振っていらっしゃいました。団員達の間でも様々な意見が出ていて、明オケの移行期で大変な時期でした。先生は皆から「勝ちゃん」という愛称で呼ばれ、好好爺という印象でした。

境田　薫(S55年卒)　私が１年の時が尾原先生最後の演奏会だったんですが、私オーケストラを生で聞いたのは、明治の練習が初めてだったんです。尾原先生という方がどういう方か全く知らなかったんですが、聞いた時感動したというのは、チャイコの５番の終楽章のテンポというか、すごく力強かったなという記憶があります。レコード等で聞いたのとは全然違ったもので、感動しました。

尾原先生は昭和52年７月明治大学交響楽団の常任指揮者を退かれ、名誉指揮者に就任されます。52年には明治大学より永年の功績を称え、感謝状が贈られました。翌昭和53年には永年学生オーケストラを指導した功績に対し、勲五等双光旭日章の栄に浴します。これを記念しまして、関係五大学による叙勲記念パーティーが盛大に開催されましたが、その後健康を害され昭和56年３月16日音楽一筋、81才の御生涯を閉じられました。関係大学は先生の御冥福を祈り、追悼演奏会を同年９月13日執り行ない、先生の遺徳を偲びました。

尾原先生引退の頃のことなど

高橋幸秀（昭和54年卒）

私が大学に入りましたのは1975年（昭和50年）の４月でありまして、２年生の時が先生最後の定期演奏会となりました。この間 '75年の演奏旅行及び '76年の夏の演奏会は河内良智氏の指揮で行なわれましたから、２回の定期演奏会と東工大、お茶管とのジョイント・コンサートでの計３回振って頂いたことになります。短い期間ではありましたが、悠揚迫らざる先生の芸術に接することが出来たことは、貴重な経験でありました。

そして、３年生の時は幹事長をやりましたので、先生の健康上の理由からの引退と、それに伴う名誉指揮者就任という、明オケにとって重大な節目に接することとなりました。私たち役員が桜台のお宅へ伺った際、先生の好物と聞いていた日本酒をお持ちしたところ、「最近もうあまり飲まないんだ。」とおっしゃられたため、お体のことを案じていたところ、その後ご家族も心配されており学生の指導から引退したい、とのご意向を承ったと記憶しております。それからはこれからどうしたものかと、無い頭を大いに悩ませたものです。なにしろ、オケが出来て半世紀余り、例外を除いて、先生のお世話になっていたということで、これはギネス・ブック級の、他にあまり聞かない話しであります。

後任の指揮者の件は、どのような方にお願いをしたらよいのか五里霧中の状態で、他校の実情を聞いたり、お亡くなりになった緒方氏をはじめ諸先輩にもご相談をする等、役員がこの問題に取り組みました。音楽性・人間性・指導力・人脈・相性・ギャラ・コネ等何が何だか分からないことをずいぶん考えたものです。結果としては、明大卒業後ウィーン・アカデミー指揮科で学ばれた久保田孝氏に客演指揮をお願いするということとなりました。久保田氏については、学生時代マンドリン・クラブに所属しておられたという経歴から、一部で違和感を持つ向きがあったことは事実でありました。しかし、氏の音楽に対する真摯な姿勢と献身的な御指導については当時のメンバー、感謝して余りあるものがあります。

さてそれはそれとして、後任の指揮者については具体的にどう考えていくのか、あるいはオケをどういう方向にもっていくのか、という明確な方針は出せなかったわけです。先生を中心として動いてきた明オケにとっては、先生が引退されるということは、その大きな特色を失うということでありました。いろいろ考えてみるのですが、先生が引退されるにあたり、我々は過去のことを整理し、オケの将来のことなどもう少し考えてもよかったのではないか。このような言い方は各方面に対し大変失礼にあたるかもしれないけれど、演奏の中身はともかくあれだけの演奏会の積み重ねがあったのだから、何かその蓄積を生かす方策がなかったのか等々。しかし、そんなことを考えだしたのは昨今のことで、学生のときは明日のことをどうするか、ただ走り回っていただけのことでありました。

あの時、一部のＯＢの方には大変ご尽力を頂いたものの、どうもオケを支える力は弱いものであったと思います。また、学生の一部には尾原先生の指導方法について、オケの機能性向上の観点から（？）、不満の声も出ていましたが、そのような諸君においても新しい方向性を唱えることはできなかったのです。ほっといてもなんとかなるさといった雰囲気もあったかと思いますし、それはそれで良かったと言えばそうなのかもしれません。それにしても、その場その場で頑張るといった、明大流の大らかさはよいのですが、どうも書いていて情ない話になってきて恐縮です。

まあ、その後現役諸君の頑張りにより、オケの活動は隆盛を極めているようで、これはとても頼もしいことであります。しかし、いま『オケの歴史』といったものが、現役の諸君にとってどのような意味を持っているのかといったことはよく分かりません。本来ならば有形無形の何かがあってこそ『オケの伝統』といえるのだと思うのですが、この団体にそのように胸を張れるものがあるのかどうかと考えてしまいます。ただ、少々遅くなった感はありますが、今回多くの皆さんのお力により、ＯＢ会が再建されたこともあり、これを機会に関係者の親睦が深まり、このことがオケの発展に寄与できれば喜ばしいことと思っております。

なお、つけ加えますと先生に対して感謝の気持ちを表すため '77年７月９日「尾原先生名誉指揮者就任祝賀会」を学生・ＯＢ会の主催で、また先生の芸術普及の功績に対する叙勲（'78. 4. 29. 勲五等双光旭日章）に際し '78年６月10日「叙勲祝賀会」をお世話になった大学オケ関係者の主催で、ともに白金迎賓館（現東京都庭園美術館）に於いて開催いたしました。多分、名誉指揮者就任祝賀会のとき先生が指揮をされたのが、明オケとの最後の演奏ではなかったかと思います。また、永年の学生指導の功績に対して、明治大学から先生に感謝状が贈呈されております。

まとまりの無いことを書きましたが、かつての経緯については、正直云ってよく覚えていないことも多く、それぞれの立場でいろいろな見解もあるかと思いますので、他の方のお話なども又お聴きしたいと思います。

尾原先生最後の指揮　（昭和52年７月９日　尾原先生名誉指揮者就任祝賀会）

■尾原勝吉先生追悼演奏会

（期　日）昭和56年９月13日（日）午後２時開演
（会　場）日本教育会館大ホール
（曲　目）ベートーヴェン作曲；交響曲第３番「英雄」
　　チャイコフスキー作曲；交響曲第５番
　　Ｊ・シュトラウス作曲；ポルカ「狩」
　　Ｊ・シュトラウス作曲；ポルカ「鍛冶屋」
（役　員）実行委員長：児島敏彦（明治）
　　実行副委員長：武市二郎（明治）
　　中田　孝（東工）
　　会　　計：緒方孝太郎（明治）
　　半澤重信（東工）
　　委　　員：岡野弘志（明治）
　　杉山　茂（明治）
　　丹野秀図（明治）
　　石井善明（東工）
　　升水正夫（東工）
　　尾見　裕（東工）
　　中西達郎（東工）
　　柏田晃夫（一橋）
　　高岡慶四郎（一橋）
　　三輪全三（医歯）
　　吉岡晶子（お茶）
　　石井純子（聖心）
（出　演）明治大学：３５名
　　東京工業大学：３１名
　　一橋大学：１３名
　　医科歯科大学：　３名
　　お茶の水大学：　６名
　　聖心女子大学：　６名
　　そ　の　他：　１名（合計９５名）
（指　揮）石井善明（東工）
（コン・マス）杉山　茂（明治）

1981年(昭和56年)8月12日　水曜日

東京

指揮者じいさんを送る「英雄」

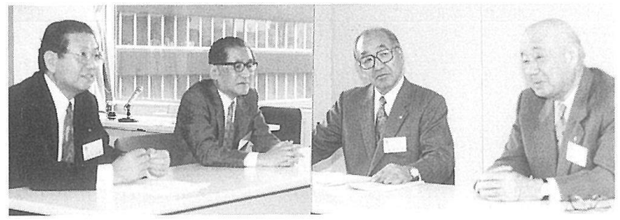
学生指導60年の故尾原さん追悼

教え子が演奏会

タクトを振るありし日の尾原勝吉さん

■ＯＢ座談会「明オケを語る」

（期　日）平成６年９月25日（日）
（会　場）明治大学大学会館
（出席者）新村　浩（S.11年卒）
　　島田栄吉（S.19年卒）
　　後藤定治（S.26年卒）
　　木元尚男（S.29年卒）
　　金子和子（S.32年卒）
　　平野幹夫（S.32年卒）
　　海江田一郎（S.35年卒）
　　岡野弘志（S.35年卒）
　　松島一匡（S.38年卒）
　　毛塚隆之（S.39年卒）
　　本間次郎（S.40年卒）
　　小林富次郎（S.42年卒）
　　増永浩司（S.43年卒）
　　岡崎義典（S.44年卒）
　　杉山　茂（S.45年卒）
　　小野　学（S.46年卒）
　　栃本賢一（S.54年卒）
　　境田　薫（S.55年卒）
　　丹野英図（S.55年卒）
　　菅野　真（S.56年卒）
　　長谷川嘉彦（S.59年卒）
　　阿部　崇（H.５年卒）
　　井村京子（H.５年卒）
　　大西哲史（H.６年卒）
　　須釜　敦（H.６年卒）
　　白石一弘（H.６年卒）
　　上原　学（学生４年）
　　長嶺賢史（学生４年）
　　蒲田　明（学生２年）



座談会「明オケを語る」

●創立～昭和30年までを語る

明治大学交響楽団は大正12年４月末、尾原勝吉、菊地雙三郎、中川亮、塚田道三郎、林慶旺、島村などの諸氏によって創設された、と伝えられていますが、創設当初の詳細に関しては、残念ながら何も語り継がれて来ませんでした。

この記念誌を編纂するにあたり、各方面に資料の提供をお願いしたところ、昭和10年発刊、『明治大学校友会音楽部管弦楽団機関誌創刊号』という本が送られて来ました。70頁よりなるその機関誌は、ＯＢ会の設立を兼ね、現役学生とＯＢ相互の交流を深め、音楽に関する論文等を掲載した小冊子であります。その内に「吾が管絃樂團の昔を顧みて」と題する一文が載っていました。筆者は創設者の一員でもあります、中川亮氏でその後改姓された樋口亮氏（既に御逝去されております）です。

創設者の一員ということで、大変詳しくその当時の事が述べられていますので、以下に転載してみたいと思います。

先輩組團体の基礎愈々確立し曩に會則の制定をなし此處に引續き會誌の發刊に至りたるは御同慶に堪えないところである。顧るに大正十二年四月本樂團が組織されてより幾多の障害と困苦とに闘ひつゝも各員の懸命なる努力と絶大なる犠牲的精神と相俟って其目的に邁進し現在の進歩發達、名實ともに赫々たるものあるは全く今昔の念に堪えない。

此處に想ひを創立當時に起し逐年の状況を記録して見るのも發刊に際し意義あることゝ思ふ。

始めて組織された大正十二年四月と云へば御承知の大震災の直前である。余が丁度予科へ入學したばかりの時でそれから數へると既に満十二年あしかけ十三年になる。今こそ部室あり樂器の倉庫あり預算なるものがあって若干の援助迄あり実に至れり盡せりだが一時は大學當局から管絃樂團なんてどんなものか音樂會開催は罷成らぬと嚴しいお達しのあったこともあり実に苦い経験を経たものである。當時の發起人と云へば現在の指揮者尾原勝吉氏と中途退學された菊地雙三郎氏であった。尾原氏は云ふまでもなくその時のコンサートマスターであった。其の同氏を始めメンバーと云へばヴァイオリンばかりの七八人に過ぎない管絃樂團と名をつけるのもはずかしい位のものであったのである。

ヴァイオリン合奏團と云った方が相應しかったかも知れないこのメンバーが毎日二コライ堂の一室を借り受けて練習を始め出したのが五月上旬だったであらう。當時一等樂手だった和田小太郎氏（現在立教大學指揮者）が熱心に指導されたものだった。追い々々氣候も暑くなって來るに從い練習にも油がのって來る六月に入って練習が夕方になり涼しい風に吹かれながら二コライの一室で依然ヴァイオリンのみの練習が續けられてゐた。曲目はシューベルトの軍隊行進曲カーツ作曲の樂人の夢、何と云ってもパートが全然揃ってゐない練習なので馴れるにつれて嫌氣のさして來ること又甚しい。演奏會が切迫したと云ふのに一人減り二人減り甚しい時には二人か三人かの練習になったこと數知れない。第二ヴァイオリンの末席にあった自分は熱心に練習に出たものだ。

演奏會の前夜始めて總練習なるものが行はれ集ったメンバーの大部分と云へば應援の陸軍々樂隊員、三越音樂隊の一部の人々だった。その前夜までヴァイオリンのみの練習だったものが急にほんものらしいオーケストラなるもの〉練習となったので調子の悪いこと自分の音が聞えないので閉口したものだ。

第一回演奏會も無事追分の帝大青年會を借りて催された。プログラムは別稿記載の筈だから省略する。

無論大缺損だったことは云ふまでもない、發起人が後始末されたとか後で聞いてお氣の毒に思ってゐる。それから間もなくあの大震災に遭遇した。

菊地氏も震災の打撃をうけ中途退學さるるの余儀ない事情となり其のまゝお會ひすることが出來なかった。そこへ尾原氏の卒業となり管絃樂團も自然消滅となって終った。

其の後機会あれば樂團の再興を計畫して見たが大學よりの援助は更になく寧ろ反對を受たものだ。集って來るメムバーは依然ヴァイオリンのみの而も未熟者ばかりだったが其の時毛色の変った高椋秀夫氏のコールネット、同氏のコールネットは相當達者なものだったので全く力を得たものだった。それから間もなく部員中の守屋徹太郎氏がセロを紀平三郎氏がバスを各々自費で買入れてこれに転向大いに犠牲的精神を發揮されたものだ。

それから間もなく鷲尾義男氏のクラリヲネット平野鉄太郎氏のフリュートに目新しい樂器が増えて賑やかな練習が始った。

これが再興の樂團であったのである。其の時予科大會が始ると云ふので和田氏指導のもとに猛練習が開始された。オーバチュア、バクダットの酋長の十八番となった仰も々々の始りである。予科大會に人氣をとったのに勇氣を得て其の秋第二回演奏會なるものをバラック教室の二室をぶち抜いて華々しく開催した。ステージは教壇の幾つかを積み重ねた貧弱なものだった指揮者はこの時から山口常光氏（陸軍三等樂長）となった。曲目ははっきり記憶にないがパストラルだったことだけは覺えてゐる。

團体生活には一定の中心たる場所を必要要件とする如く本樂團にも事務所所謂部室の必要に痛切に迫られてゐたが適當なる場所とて勿論バラック建物の中にある筈はなく、剰さへ大學公認團体でなかったゞけに學内に於ては事務所設置さへ許可されなかったので実に悲惨なものだった自然學外に物色するより外なかった。時に駿河台郵便局向側にある玉突屋の二階を無償貸興してくれる特志家のあったことも忘れずには居れない。

管絃樂團らしい基礎を固めたのは愈々この時からである。樂譜も少しづゝ買ひ集めることが出來たが其資本も各部員出資によるのみであったので思ふ様には捗取らなかった。春

秋に開催すべき筈の演奏會も適當な場所のないことは云ふまでもなかったが財政困難が第一原因としてそれから當分は公開演奏會も開けさうにもなかった随って各方面からの演奏依頼を受けると云ふことも無論ある筈はない當時ハーモニカソサイティー、マンドリンクラブが全盛時代だったし又流行の絶頂であった。

吾々の指揮者は吾々の先輩より迎へるべきであると當時日本交響樂協會に活躍中の尾原氏を引張って來た。そして華々しく練習を開始した。定期演奏會としての演奏會は開けなかった小學校の同窓會から招聘を受けたこともあれば逢々神奈川縣藤澤町に出張演奏したこともあった。

それから間もなく愈々記念館落成も近いと云ふので一同の期待も大したものとなり記念館開きは必ずや吾々の手に依って之を爲すべきであると捲土重來の勢を以て練習に猛進した。そして記念館開き演奏會を兼ね確か第五回か第六回かの大演奏會を盛大に開かれた。その時のコンサートマスターは伴宗一氏である。

當日は横田總長も珍らしく臨席され最後まで熱心に聴かれた。岸本監事も吾々の為めに絶大なる御後援を下すったので一同面目を施したのであった。

愈々本樂團も大学に認めらるゝの端緒となり學友會入部の期熟せりと見るや猛烈なる入部運動を單獨之に〇頭した効成り其の翌年學友會音樂部に管絃樂團として入部することが出来た。間もなく余は卒業となり置土産となって終った。

余の卒業後は高椋氏、守屋氏の努力に依り野球部より若干の寄附を得樂器の一部購入することが出来逐次發展の域に達せんとせしに高椋氏、守屋氏の卒業、平野氏の長逝に遭ひ再び又中絶の状態となった。

昭和六年に至り假眠の状態から現在の管絃樂團隆盛の絲口を切り開きたるは井田富之氏の獻身的努力に俟つこと少なくはない。又同氏の盡力によりブラスバンドの設立を見、尾原氏の血の出る様な指導により愈々堅実なる發達を遂げ現在に至ったのである。

昭和７年５月に結成されたブラスバンド

明治大学交響楽団が創設された大正末期、東京の大学オーケストラ界は未だ黎明期でした。最も歴史のある慶応大学の「ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ」は明治33年の創設でした。次いで東大のオーケストラが大正７年の創設。早稲田大学は大正初期という事ですが、初めは弦を早稲田が、管を戸山学校が担当するという合同体で発足し、大正末期に単独のオーケストラとなりました。他に立教と法政が大正末期から昭和初期にそれぞれ発足しています。

―― その頃、慶応と早稲田にはオーケストラがあってね。慶応はずいぶんと盛んで、その頃からワグネルと言っていたなあ。僕はそこの準部員みたくなっていて、演奏旅行でも何でもくっついていったんだ。だけど、いつまでもよそへ行ってたって仕方が無いので、ひとつ明治にも作ろうと思ってね。人を集めて同じようなのを作って演奏会も開いてね。その頃原宿に下宿していたんだけど、そこのおばさんが愉快な人で、一緒になって応援してくれるんだ。うれしかったなあ。（先生のお言葉）――

母校の管絃樂團は最近其技術に目覺しき進境を示し、今や都下随一の堂々たる學生管絃樂團たるの榮誉を擔ふ。是一に熱心なる指揮者尾原勝吉氏並びに諸先輩の指導後援の然らしむる所であり、團員と共に深く感謝せざるを得ない所である。
學友会音樂部長　林　久吉
（機関誌掲載文より）

■華やかなりし昭和10年代

新村　浩　私の入部は昭和８年頃になりますが、戦前のある程度明大オケの一番華やかな時代だったのではないかと思います。楽しき良き時代で、アルバイト等という言葉は必要なかった時代でした。尾原先生がヴァイオリニストでしたから、特に弦については厳しかったです。私達も暇さえあれば、楽器の練習をしていました。当時映画の「未完成交響曲」が全盛でしたので、未完成と運命を演奏すれば、必ず超満員となりました。定期演奏会では、まず初めに校歌の演奏をします。すると待っていましたとばかりに、聴衆から猛烈な拍手とエールが巻き起こります。喚声が鳴り止むのを待って「美しき青きドナウ」か軽いオーバチュアを演奏し、次に組曲、歌をいれて最後にシンフォニーを演奏します。演奏終了後尾原先生に花束と一升瓶数本が贈られます。入場料はいくらだったかちょっと覚えていませんが、メンバーが何枚づつか割り当てられて売りました。当時なんといっても最も印象に残ったのは、昭和10年に行なった東北・北海道の演奏旅行でした。河原喜久恵のソプラノでペールギュントを演奏しました。菊地先輩（故人）が絶妙なナレ

ーションで雰囲気を盛り上げる中、彼女が歌い出します。小樽の八千代座（芝居小屋でしたが）で演奏した時は、聞きに来ていた芸者を泣かせる程の好演奏でした。一曲ごとに幕が引かれる、そんな演奏会でした。

東北・北海道演奏旅行（昭和10年８月）

昭和７年９月には、おそらく明オケ初めての演奏旅行を信州地方へ実施しております。昭和９年には名古屋方面への演奏旅行が行なわれＪＯＣＫよりスタジオ演奏が放送されています。残念ながら詳細な資料がなく日程、規模等不明です。

この翌年昭和10年８月に行なわれた東北・北海道演奏旅行は２週間という、当時としては画期的な大演奏旅行でした。その頃の東北北海道地方の旅行、まして演奏しながらという悪条件下、さぞ苦労が多かったと察します。

前述の機関誌に、昭和９年11月に行なった第12回定期演奏会の詳細が載っています。丁度その演奏会のコンサートマスター更に委員として活躍された、中西芳文氏（既に故人となられていらっしゃいます）の寄稿文ですが、当時の演奏会の模様やオーケストラをとりまく様々な様子が伺われ、大変貴重なものとなっています。以下へ転載してみたいと思います。

春の演奏会を中止して備へた秋の演奏会は最早過去って二ケ月以上になって終った。顧みると嬉しい亦苦しいスーベニールが頭の中で混合して一体何から書出して良いのか解らなくなって終ったから筆の進む儘順序顛倒手當り次第書いて見様と思ふ。

私は一体に無口の方なので他の方々には口に出して言はなかったが、實際を云ふと今度の演奏会は丁度自分が委員の時の会であったので内心何の位心配したか解らなかった。幸にして大体期待して居た通りに終って呉れたのでホッとした次第である。何故其んなに心配したかと言ふと、其れは次の四點なのである。

一、難曲を果して立派に演奏し得るや否や。
二、不足パートの補充問題。
三、経濟上果して収支賠うや否や。
四、部内が大した波乱もせずに演奏会迄持續し得るや否や。

大体以上四つが責任者の委員として私の頭痛の種だったのである。幸ひにして第三問題を除き豫期の通り行ったので、今回の演奏会は成功したものと見て良いと思ふ。

次に以上の四問題に就いて少し詳しく説明して見様。

第一問題は勿論新世界交響樂及皇帝協奏曲を指して云ったのであるが、皇帝協奏曲は春行ふ積りでいたのが中止されたので、春に練習を行っていたから非常に助かったのである。何故かならば皇帝の練習は秋に於ては殆んど數へる程しか行はず、全部と云っても良い位新世界の練習己行へたからである。

正直な話未だ我々には新世界は少々重荷であったのである。之加プログラムが餘りに豪華過ぎたので、外部にセンセイションを起し、明治大学交響管絃樂團の面目にかけても、人々をアッと云はさずには濟まないと云ふ氣持が多分に部員及尾原先生に在ったと思惟する。之が亦必然的に第四問題も解決したと見て差仕へないだらう。其故必死の氣持で練習を行ったのでどうやら演奏会迄には兩曲共大体に於てマスター出来たと見て異論はないだらう。此點尾原先生には涙ぐましい許りに指導して下され只々感謝の念に堪へない次第である。

第二問題は毎度の事乍らウンザリする。我々は下手乍ら充分に練習するので、演奏会迄には何とかする自信は有るが、他より補充する者は経濟的に充分な練習を行ふのは不可能な現在の状態なのである。其故演奏会の十日位前から来て貰ったが、優秀な技術の所有者は別問題として其以外の方々には今回の曲目は餘りに數回の練習では難曲過ぎるので、果して當日足や頭を出さずに無事演奏して呉れるかと随分心配したのである。演奏会の數日前の練習に於ける此等の人々の演奏技術たるや全く御話にならず、折角之迄に纏めた曲を破壊されるのかと思ったら何だか泣き出し度い様な氣持に衝られた事も有った。其為云ふべからざる事も云ったが、演奏会にはどうやら無事やって呉れたので有難かった。

第三問題之は何時も乍ら厭な問題で、今回も亦赤字御難に墜ち入り、北村君には色々御心配になり、其為指揮者、獨奏者獨唱者には充分な御禮も出来ず心苦しく感じてゐる次第。何はともあれ厭だ厭だ。

第四問題演奏会となると部員が何となく殺氣立つ。其れは会が近づけば近づく程に正比例して増加して行くのである。私も亦御多分に漏れず随分ふくれたものだ。今から考へると可笑しい位まるで出来たての饅頭みた様に湯氣を立てゝふくれ、其為口喧嘩は絶へずやり、今更皆様に済まなく思っている。御恥ずかしい次第であった。然し兎に角演奏会迄大した波乱もみずに纏って行ったので此點皆様に深く御禮申上げる。

どうも私は心配性なので困る。年中心配ばかりしていて、一日に昆布茶一杯や二杯ぢゃ頭が段々薄くなるのも無理はないかも知らぬ。此度の演奏会は一つ大々的にやらうと云ふのでポスターを取りに出た。森永に御百度をふみやっと獲れたが、其間他の商店会社に約十軒ばかり當ってみて皆刎られた時には全く落膽した。最後に森永に頼み込んで兎に角出して貰ふ事になった時にはホッとした。ポスターが片付けば次はチラシだ。チラシは數は多くても値が安いので數回足を運んだ丈で、須賀樂器店から二千枚ピオバ樂器社から六千枚刷らす事になり之は割合簡單に纏った。最後

に難関のプログラムが残っている。之はヘーフエ菌を多分に含む「わ可もと」事榮養と育児の会から出して貰ふ事に話がついたが芝の大門迄約十回位市電に揺られて往復するのは仲々忍耐の要る仕事だ。御蔭で私は芝の大門附近なら隅の隅迄知って終った。

さて愈々演奏会の日の事を書かう。當日は三時に日本青年館に行って練習する事になっていたので學校の倉庫に最後に鍵を締めて日本青年館に行った。何だかざわゞゝして人が多い。もう聴衆が來たのかしらと講堂の扉を開けると何事ぞステージでは綺麗な衣装をつけた女の子が舞踏をしているではないか。約束が違ふ。皆の者に対して何と辨明したらよいのか全く御恥ずかしい次第だった。五時から六時迄濾てゝピアノ協奏曲の練習を行った。既に聴衆がちらほらやって來るのに未だ印刷屋からプロが届かない。六時十五分になってやっと來た。すぐ入口を開いて聴衆を中に入れた。まあ之でどうやら開演の運び迄行った。忙しいゞゝゝ。七時愈々最後の決算をする時が來た。ベルを合圖に皆ゾロゾロステージに上る。客の入りはどうかなと横目で睨むと夥い容りである。

之あ有難いと胸をなで下ろす。さて難関の皇帝だ。指揮者の手がサーツと下りたから力の限り最初のコードを彈いた。遠見嬢のカデンツァが始まった。トタンに一つ鍵を叩き違えたのでハッとした。しかし其後は心配した事も無くすっかり落付いて練習場にでも居る様な氣持になり聴衆なぞ眼中には無くなった。氣持の良い位スムースに曲は運んで何の波乱も見ず曲は終った。今迄になく一番皇帝は良く行った。遠見さんも實に良く彈いて呉れて實に助かった。個々の些細な間違ひは別として此の位良く出來たら今迄の苦心も報はれたと云って良く亦恐らく日本に於ても一二の樂團を除き決して出來ない位の出來だらう。尤もピアノ協奏曲は指揮が難かしいから日本に於ては新響及宝塚交響樂團と明治大学交響管絃樂團位しか出來ないが之はあながち私一人の自負心ばかしではないと思ふ。次の中村淑子さんの獨唱は總練習の時と違って餘り良好ではなかった。獨唱さへ慥して居れば指揮者は名人だからオーケストラ伴奏は容易な筈なのにえらい苦勞をして終った。

愈々新世界交響樂をやらねばならなくなった。致方がないから悲壯な決心をした。之こそ死物狂ひだ。第一ヴァイオリンのトップが間違へば夏の名古屋の二の舞を演ずる事になる。御隣りさんは名人だ。何とかなるだらう。と思ったら糞度胸がついて來た。第一樂章はどうやら無事、第二樂章で今は故人の平野さんが失敗したのでドキンとした。私の獨奏は全く御恥しい限りだ。第三樂章、之こそ大変だ。下手をすれば目茶苦茶になる。案ずるより易くどうやら終った。尾原先生は汗だくだくだ。氣の毒みた様な感じだ。第四樂章は大した事もあるまいとたかを括っていたら半ば頃ホルンが失敗した。がっかりした。終ったゞゝゝ。拍手が鳴り響くあゝやっと之で終ったか。長い間の練習が二時間半で決算されて終ったのだ。然し新世界も自分の豫期していた以上の出來であった。もっと私は混乱するかと思ったら失敗は部分的な各人のミスで總体的に何の失敗もなく終った。

技術は違ふが十一月中旬に行はれた新響の新世界より良く纏っていた。況んや先頃演奏された東京シンフォニーオーケストラや立教の新世界等とは格段の相違だ。良くまあ尾原先生はあれ迄纏めて引張って行って下さったものだとつくづく感じる。私が明治大學管絃樂團に入ってステージに出る事百回以上當日程氣持ち良く亦立派に出來た日は未だ嘗て無かった。之は自分が委員時代の事なので一入其の感が深いのであらう。

戦時下の第22回定期演奏会（昭和17年12月６日）

■学徒出陣昭和18年、戦時下の交響楽団

島田栄吉　私の入部は昭和15年の４月です。昭和16年12月８日第二次世界大戦が勃発し、日本は戦時体制下に入り、全てが戦時一色になりました。

戦時下と言う厳しい状況の下でしたが、活動は活発で、昭和16年～18年には、毎年２回の定期演奏会を開催していました。時代的背景からか音楽が少なく、特に交響曲は珍しかったので演奏会は常に満員でした。我々部員は銀座に出てよく切符を売りましたが、1,500枚程の切符が売れ過ぎるほど売れ、１回の演奏会では入場者が溢れてしまうので、昼夜２回のステージを行なったほどです。

定期演奏会は、昭和16年までは日本青年館で、その後は明治大学記念館講堂で開催しました。演奏に先立ち「君が代」を必ず奏しました。舞台では向かって左に第１ヴァイオリン、右に第２ヴァイオリンを配し、学生は全員が坊主頭でした。

当時は日独伊三国以外の曲は敵性音楽として追放されていましたので、ベートーヴェンやシューベルト等の曲をよく演奏しました。ベートーヴェンの交響曲は３番、５番、７番、８番。エグモント序曲やピアノ協奏曲の「皇帝」等。シューベルトの未完成や、アルルの女、カルメン等が中心でした。

当時の部室は現在とは違って、記念館の左へ入って行った地下にある小部屋でした。練習はほとんど、生協売店横の部屋で行なっていました。クラブ所有の楽器として、ティンパニー、コントラバス、チューバ、ドラム、ホルン等が各１ずつあった様に記憶しています。因みに私が使っていたヴァイオリンは、当時のお金にして60円で買い求めたものでした。

私は中学時代に渡辺先生という方にヴァイオリンを習っていたのですが、明治の法学部へ入学して、昭和16年卒の（故）榎本晃一郎先輩に誘われ交響楽団へ入団しました。講義にはあまり出ず、専らオーケストラでヴァイオリンを弾いていましたが、そんな事で幹事もやらせて頂きました。

夏の夏期休暇を利用して軽井沢へ演奏旅行しましたが、その時は、昭和11年卒の中西芳文先輩が指揮を代行されました。

私の思い出で大変悲しい事だったのですが、昭和16年に１st Vnの矢作博さんの、軍隊に入営するのを見送った事です。その矢作さんは戦地へ持参されたヴァイオリンで、部下に名曲を聞かされたそうですが、残念ながら戦死されたと聞いております。

私も昭和18年12月に学徒出陣で召集されました。そこで後輩の野田納君に部の後をお願いし出征しました。

当時は交響楽団と吹奏楽団とが併設されていて、交響楽団の部員もブラスバンドに参加し、昭和18年10月21日の学徒出陣壮行会が明治神宮競技場で行なわれた時は、他大学の楽員と共同で行進曲等を演奏してくれました。

＝ＯＢの思い出＝

■野田　納（Trb 昭和21年卒）

在学中の昭和17・18年頃は日増しに戦況も厳しくなり、部活動もままなりませんでした。学徒出陣前の演奏会は多分ベートーヴェンの交響曲第５番の「運命」だったと思います。記念館地下の練習場での夜間の練習が思い出されます。小生もトロンボーン（スライド）で参加させていただき、尾原先生には、音程、音色には特に厳しく、よく叱られたものでした。特にトロンボーンは楽器の性格上、正確な音程と強弱にはよく注意されたものでした。

戦時中のこととて、どちらかというとブラスバンドの方が忙しく、学校の行事には連日駆り出されたものです。ブラスバンドには尾原先生は干渉されませんでした。当時使用した楽器は使っていただければと部へ寄贈させて頂きました。

渡辺曉雄の指揮による第26回定期演奏会（昭和23年11月13日）

―― 昭和十六年、七年前後は日増しに戦局が激しくなり、やがて学内は配属将校室に占領された感があり、当時の日響も国民服と巻脚絆で演奏するという状況であったが、幸ひに楽團として不快な圧迫もなく過ごす事が出来た。ブラスバンドを育成して学内行事や軍事教練に協力していたためかも知れない。私自身野営の教練ではトラムペットが吹けるのを幸いに信号ラッパ手になって重労働を味あはなくて済んだ位である。（昭和18年卒Ｋ．Ｅ．生…第29回定期演奏会プログラムより）――

昭和20年８月の終戦を挟んで明治大学交響楽団も、他の全ての事と同様、厳しい状況下にあったことと思いますが、そんな条件の中、昭和21年６月には芥川也寸志の指揮でＮＨＫラジオより放送があり、同年９月には福島県三春町へ演奏に出かけています。更に同年12月７日と８日の２日間、第25回定期演奏会を開催しています。当時の団員達の音楽に対する情熱には、ただゝゞ敬服するのみです。

■戦後、そして明治大学交響楽団の再興

後藤定治　戦後の混乱期、食べる物にも事欠く時代でしたが、ぼつぼつ都内や近県各地の明大会等が主催する、文化会、音楽会、時にはお祭りの余興等に、私達の交響楽団にお呼びがかかる様になりました。尤も、人々はクラシックよりも手軽に聴ける音楽を求める、そんな時代でしたから、まともなクラシックではなく、流行歌、タンゴ等が主で、10人位のバンド編成で、流行歌手と共に出かけて稼がせて頂きました。演奏後は食事が出たり、僅かでもギャラが貰え、当時としては有り難いアルバイトでした。昭和21年４月に千葉県東金町へ行った時は、同じ旅館に山田耕筰氏が泊まっておられ、「僕は君達の校歌を作曲したんだよ」と声をかけて貰ったことを思い出します。

昭和21年９月29日福島県三春町で行なった演奏会では、モーツァルトの交響曲40番のメヌエットや、アイネ・クライネ等のクラシックを演奏する事ができました。これは地元の先輩、遠藤公さんの御尽力によるものでした。

明大生の団員として常時練習に参加したのは、多い時でも10名位で、少ない時は３～４名という状態でした。しかし演奏会を開きたいという一心で、尾原先生にお願いして第25回定期演奏会を昭和21年12月７日と８日の二日間、記念館で開く事が出来ました。本番の時には先輩の相沢さんの従兄弟の方が所属していた、帝国劇場に本部のあった東宝交響楽団の人達や、日響の方々がエキストラとして来て下さいました。

その他エキストラの中には、芥川也寸志、黛敏郎、福永陽一郎、鏑木創、大森盛太郎、千葉馨、橘常定、河野俊達、林リリ子等がいらっしゃいました。

第25回定期演奏会の翌々年、昭和23年11月に第26回の定期演奏会を開催しました。この時の指揮は渡辺暁雄先生でした。その時の練習でこんな思い出があります。夜になったので先生に食事をと思い、当時売り始めた折り詰めの寿司を、１つだけ買って来て先生に食べて頂きました。学生はそれを見ながらお茶だけを飲んでいました。先生もさぞ食べにくかったことと思います。

昭和22年頃から社交ダンスが復活し、若い男女の交際場所として爆発的に流行しました。我々もタンゴバンドで稼ごうと、タンゴバンドを編成した所、出演依頼が相次ぎ、幼稚な演奏でも結構小遣い稼ぎになり、クラシックの勉強どころではなくなりました。団員の中には、アコーデオン、ギター等の奏者としてプロに成ろうという者も出ました。次第にクラシック派と軽音楽派に分かれ、対立することになります。結局昭和25年11月13日に両派の代表が話し合い、軽音楽派は別に部を作って別れて行きました。クラシック派は伝統を守って行く事になりましたが、明治大学交響楽団にとって存続の危機だったかも知れません。

戦後団員が編成したタンゴバンド

■新たな飛躍と挑戦、そして緒方先輩のこと

木元尚男　私は昭和25年に明治大学へ入学しました。世の中はまだ戦後の貧しい時期で、外食券がないと食堂で米飯が食べられないという、そんな頃でした。

当時の交響楽団は、委員長が浦田弘さんで、部員は十人足らずだったと記憶しています。入部の年は、前年の定期演奏会で大赤字を作ったという事で、定期演奏会は開かれませんでした。それでも意欲だけは旺盛で、翌年部員が二十名近くなったのに気を良くして、その年の定期演奏会の曲目に分不相応な大曲を希望して、尾原先生を困らせたものでした。

昭和26年12月７日に行なわれた第27回定期演奏会は、我々の初舞台となりました。この演奏会が在学中３回行なった定期演奏会の中で、一番印象に残っています。理由の一つは、私にとって初めての定期演奏会であったことですが、もう一つは、明治の部員17人とＯＢ２名以外は、ほとんどＮ響団員のエキストラということでしたから、音の坩堝にはまり込んだというか、舞台の上で音の迫力にただただ圧倒されてしまって、それは表現しようもない体験であったからです。

又現在も使用されているM響のマークは、我々の時代に作ったものです。戦前にもあったそうですが、私が入部した時にはありませんでした。そこで、N響に対してM響でいこうと言うことになり、筒井正樹君が知り合いのデザイナーにお願いしてデザインしてもらい、以来現在まで団のマークとして使っています。

第29回定期演奏会（昭和28年11月20日）

戦後の混乱期に於ける、明治大学交響楽団の立て直しには、尾原先生のお力は言うまでもありませんが、私達の先輩、緒方孝太郎先輩の果たされた役割は大変大きいものがあったと思っています。

私が入部した当時、緒方さんは大学院生でした。音楽に対して並外れた知識と情熱を持っている方だなあ、というのが私の第一印象でした。人の面倒見が大変いい方でしたし、プロ、アマチュアを通じて音楽界に大変顔の広い方でしたから、何か困った

事が起こると、すぐ緒方さんの所へ相談に行ったものです。

緒方さんは、原理原則には決して妥協しない、人一倍頑固な方でしたが、その反面、全くアバウトな側面を奇妙に同居させておられ、それが不思議な調整力として発揮される方でした。私達は緒方孝太郎先輩を、「大方こうだろうさん」という愛称で呼びながら、とかくもめ事の多い楽団の雑事を、よく持ち込んだものでした。

ありし日の緒方孝太郎氏

私がＴＢＳに入社して、最初に配属となった事業部の課長が、ＯＢ交響楽団でヴァイオリンを弾いておられたもんですから、ＯＢオケに一緒に行こう、と誘われて行きました所、そこでまた緒方さんと御一緒することになりました。当時ＯＢオケは、明治から緒方さんと私の２人だけでした。

緒方さんからはその後も、後輩の就職問題とか、いろいろな人の世話の話でよく連絡を頂きました。17年前千代田区にオケを創るから手伝えといわれて、千代田区の住民が少ないものですから、駆り出されてお手伝いしましたが、その千代田フィルも今は立派なオーケストラに育っています。

緒方さんとは、三井記念病院のエレベーター前でお別れしたのが最後となりました。お亡くなりになる三日前のことです。私が海外に出かける前日、お見舞いに伺ったんですが、大変お元気で、病院の喫茶室で千代田フィルの話等をしながら、コーヒーを美味しそうに飲んでおられました。その時はまだ手術の日取りは決まっていなかったのですが、病室に戻ると、先生が３人入って来られ、「２日後に手術が決まりました」とおっしゃられたんです。緒方さんは「手術は五分五分だっていうからどうなるかわかんねえや。へへェ」といつもの口調でおっしゃられ、エレベーターの前まで私を見送って下さったんですが、その時には、私が帰国した時にお亡くなりになっていようとは、想像も出来ませんでした。

このＯＢ会をスタートさせたのも緒方さんでしたが、今緒方さんがいらして下されば、ＯＢ会の大きな力となって頂けたと思いますし、明治大学交響楽団の70年の中で、緒方さんなりに色々な思いを、又我々の知り得ないエピソードを書いて下さったのではないかと悔やまれてなりません。

心より御冥福をお祈り申し上げます。

●六大学交響楽団結成
第１回定期演奏会

〔日時〕昭和28年12月19日
〔会場〕日比谷公会堂
〔指揮〕尾原勝吉
中山富士雄
〔独奏〕野辺地勝久（pf）
〔曲目〕
ベートーヴェン作曲
エグモント序曲
高田三郎作曲
ファンタジーとフーガ
ベートーヴェン作曲
ピアノ協奏曲第５番
『皇帝』
ベートーヴェン作曲
交響曲第５番『運命』
〔団員〕
東京大学：２４名
明治大学：１７名
慶応大学：１５名
早稲田大学：１３名
立教大学：　９名
法政大学：　６名
（合　計）：８４名

■六大学交響楽団を結成する。

木元尚男　昭和27年、私と筒井正樹君が中心となって六大学交響楽団の結成を働きかけ始めました。早稲田とは演奏会の度に交流がありましたから、真っ先に賛成してくれました。早稲田から慶応に話をして賛同してもらい、東大は緒方孝太郎先輩が交渉して下さいました。法政へは、緒方さんの紹介で筒井君が行ってくれました。私は池袋の立教に何回か通って口説いたんですが、オーケストラの楽器は教会の持ち物で、スケジュール的にも教会の行事が優先するため、全く自由がきかないということが分かったものですから、最終的には個人参加の形で取りまとめました。

六大学関係者の下話が出来上がったところで、私は毎日新聞の田中香苗氏の所に御協力のお願いにお伺いしました。田中氏は後に毎日新聞の社長になられた方ですが、即座に私を伴ってラジオ東京（現東京放送）の八並編成局長の所へ行き、その場で「学生の時間」に出演を決めて下さいました。当時ラジオ東京の第１スタジオは、有楽町の毎日会館の中にあって、ここで未完成を録音したんですが、これが六大学交響楽団の初演となりました。昭和28年春のことです。

次は第１回の定期演奏会の準備ですが、一番頭の痛い問題は練習場のことでした。今でもそうですが、当時はもっと大変なことでした。そこで私は東京交響楽団の練習場に目を付けて、毎日新聞の森口忠造事業部長から東京交響楽団の橋本堅三郎氏に、練習場使用の話を持ちかけてもらいました。橋本さんは大分困った表情でしたが、森口さんから直接頼まれて、断る訳にはいかなかったようでした。練習場がなんとか確保されたので、私は最大の難関をクリヤー出来たという思いで、ほっとした事を覚えています。

日比谷公会堂使用申込の抽選会は、早、慶、明、東の４大学の学生が大勢で並び、12月19日を押さえる事が出来ました。

曲目についてですが、我々の演奏会には必ず日本人が作曲した曲を１曲演奏しようと決めたものですから、第１回定期演奏会は、高田三郎氏の曲をプログラムに入れる事になりました。

私にとって六大学交響楽連盟結成は、学生生活の中の良き思い出となりました。

座談会「明オケを語る」

●昭和30年～50年までを語る

昭和30年代に入り、戦後の混乱もようやく落ち着き、明治大学交響楽団も少しずつ態勢を整えて行きます。

社会は未だ戦後の復興期であり、人々の日常も決して満足といえるものではありませんでしたが、少しずつ生活に潤いを求めて、文化活動も盛んになってきます。

そんな中、明治大学交響楽団も徐々に活動が活発化し、充実して行くにつれ、団員も増え、それに伴って組織も固まって行きます。常任指揮者、尾原先生の円熟期でもあり、この昭和30年～50年にかけては、団にとって発展と成長の時期でもあります。

ここで、明治大学交響楽団の一年を、ＯＢに語り合って頂き再現してみたいと思います。

■某年４月　入学式典参列（日本武道館）

■某年４月　新入部員募集

「オケラへどうぞ」と声をかけたら「アラ私新入生に見えますか。」なんて喜んでいる。相変わらず女性の歳はわからんものである。それにしてもハンサム部員が多いせいか、今年は女性の入部が多かった。おかげでオケラマン達はヤッタルデとばかり鼻下…失礼！鼻息荒い。

■某年４月　新入生歓迎演奏会（記念館）

岡野弘志　私は昭和31年に明大へ入学しました。一年先輩に同郷の菅井源太郎さんがいらっしゃいまして、入学して１カ月目に和泉校舎で、フルートを小脇に抱えた先輩にバッタリ会い「岡野、お前確かヴァイオリンか何かやっていたはずだな」と言うんです。「ええ、田舎に置いてあります」と言うと、「一寸、学生オーケストラがあるからついてこい」と先輩に連れられ、食堂の方だったかな、あそこでやってました。丁度15,6人で未完成をやっていました。それを見まして、学生でもこんな事ができるのか、と感心しましてさっそく入部しました。入部しましたら、入ってすぐの私の後ろで、ここにいらっしゃる平野さん達４年生が、ズーッと聞いているんですよ。怖い先輩だなと思いました。

松島一匡　私は高校からヴァイオリンを始めてました。大先輩で緒方推隆さん（Vc）のお兄さんが、早稲田でヴァイオリンを弾いていらっしゃいまして、その方についてレッスンをしていました関係で、明治に入ったら明治のオーケストラへ入れと言われてました。そんな関係で入部したんですが、当時は弦が少なく、入学早々出させて頂きました。

新入部員募集

■某年５月　新入生歓迎ハイキング（神代植物園）

空が青いと風が強く、ホコリの舞うのが東京の悪い所。ホコリが舞ってはメシを食えぬというのでもなかろうが、弁当持参多からず。挙げ句の果て「１年生、パンと牛乳買って来い」これじゃ歓迎も何もありやせぬ。

■某年６月　ポピュラーコンサート（記念館）

（曲目）

美しき青きドナウ
金と銀
ベン・ハー
南太平洋
マイフェアレディー
チゴイネルワイゼン

杉山　茂　金子さんは昭和28年の入部だと思うんですが、その頃、オーケストラはほとんど男性ばかりだったはずですね。そんな中に女性一人で入って来るには、やっぱり相当勇気がいったでしょうね。

金子和子　私スカウトされたんですよ。先輩にも女性の方はいらっしゃったと思いますが、私の場合は、四年制では私一人、短大に遠田さんという方がいらっしゃいました。そんな具合でしたから、男性の先輩達が言うには、どうやって守ったらよいかって、とにかく守らなきゃっていう気持ちが強かったっていう話しです。その頃私は鴻巣から汽車で通ってたんですが、練習で遅くなると駅から自宅までが真っ暗な道で怖くて。ある時友達に話したらそれが尾原先生の耳へ入って、私の出る曲だけ先にやってくれて、早く帰してくれたり気を使ってくれました。

増永浩司　私達の頃定期演奏会はもう杉並公会堂等でやってましたが、春のポピュラーコンサートは記念館でやりました。マイフェアレディーとか南太平洋とか。

本間次郎　勝ちゃん。そんな曲知らないって言うんですよ。それで映画のキップを買って来て、先生に映画を見て来て貰うんです。先生ちゃんと振っていましたよ。

金子和子　私達の頃は先生は絶対ポピュラーは振らなかったですね。代わりに先輩を頼んで、ほとんど緒方孝太郎さんが振っていらっしゃいました。

毛塚隆之　杉山君、記念館でチゴイネルワイゼンやったよね。あれ覚えているよ。

杉山　茂　あれは尾原先生に引き立てて頂いてやらせて頂いた、私にとって初のオケを伴奏にしてのソロでした。そのポップコンで未完成をやったんですが、２楽章のVnの音程、嫌な所ありますよね。本番であそこ１度音程外したんですよね。先生にジロッと睨まれましてね。今でも未完成は怖い曲ですよね。

増永浩司　あそこいつも音気になるよね。怖い曲ですよ。杉山君はあそこの所、ノンヴィブラートでね。

海江田一郎　私もチェロ習いたてで、未完成やったんですよ。平野さんが卒業した年で、手伝いに来てくれて、ベースと音が全然合わないんです。チューニングし直せって言うんですが、

アガっちゃってて、もう弾けっこないですよ。

金子和子　筒井さんがやっぱりチェロで苦心してやっていましたよ。あの音耳に離れないですよ。

■某年6月　映画のアルバイト出演

■某年6月　部員総会

大学闘争が一段と激しくなり、学校がロックアウトになる見込み。夜間は大通りで、学生と機動隊による乱闘シーンが頻繁に見られるようになる。機動隊の催涙ガスで記念館の中は目も開けられない。部室の中も同様。夏行なう予定の演奏旅行をどうするか、部員総会が開かれた。

平野幹夫　僕マネージャーやってたでしょ。演奏旅行の下交渉に行くにも、クラブに金ないんですよ。自費になるわけですから、その為にアルバイトをしなきゃならなくなって。Ｉ君の紹介でダンスホールでベース弾いて、そのお金をためて北海道とか山陰へ交渉に行くんですよ。明治は体育会系には金出すけど、文化系にはなかなか出してくれなかったから。

小林富次郎　我々の頃は個人というより、オケの団員で希望者を募って映画のエキストラに行きましたよ。

増永浩司　私行った事あります。宇田川さんに誘われて。

小林富次郎　とにかく皆で、できるだけギャラを集めて部費に入れて、それをためてベース等を買ったりするんですよ。

平野幹夫　僕らもあったよ。六大学の中で協定が出来ていてトラで行くギャラは500円なの。だけれど、大船の撮影所で美空ひばりの伴奏すると3,000円になった。拘束12時間食事付き。その頃初任給が11,000円の頃だから、大変なギャラですよ。団が少しでも助かるっていうんで皆行きましたよ。衣装は衣装部屋で着せてくれるんですよ。我々はどうせアップで顔写らないし、音楽だけちゃんとやるだけで。美空ひばりが国際劇場で出世して歌っている、なんていうシーンで、アップで写るのは美空ひばりの顔なんだから。それで楽譜なんか買うのに、随分貢献しましたよ。

金子和子　楽譜といえば、私達の頃はコピーが無いので、一年生は写譜やらされるんですよ。スコアを渡されて、各パート全部書かなくてはならないんです。私は下手で遅かったので、先輩も見兼ねて私の分は代わってやってくれたり、助かりました。

増永浩司　私の頃は青焼きのコピーでした。だんだん黒ずんでくるんですよね。

毛塚隆之　法政にはよく楽譜借りにいった。あそこは結構揃っているんですよね。総てが不足していた時代だから、大学間の交流が非常にあった時代ですよね。

■某年7月　夏期合宿（明大信濃学寮）

信濃路はよきところなり空澄みわたり、白樺とゆたかな緑。吹きなでる風のそよぎに、自然と人のかもし出す快きハーモニー、これぞ合宿の意義なりしか。最終日の部内演奏会。なかなか聞きごたえがあった。「管楽器ト調清掃曲」「パーカッション狂死曲」など飛び出して笑いのうちにも音楽のムードに酔う。

本間次郎　ところで岩井の合宿はいつの頃からやっていたんだろうか。

金子和子　私の頃は岩井でした。

岡野弘志　私達の頃学生オーケストラで非常に難しい曲をやるので有名だったのが東大でした。後はどこでもベートーヴェンとかモーツァルトとかやっていた時に、明治で悲愴をやりたいと言い出しちゃって、やったんですが、その為に特別合宿をやった記憶があります。

小林富次郎　私達の頃はもう夏は八ヶ岳へいきました。

増永浩司　我々の時は富士吉田の明治の寮と信濃学寮。

本間次郎　八ヶ岳の合宿で、Ｙ君だっけ。リクレーションで山の上に上半身裸で登って、ひぶくれになって死ぬ思いをしていた。

杉山　茂　合宿では年がら年中練習してました？

増永浩司　練習は年がら年中だったね。Vcの久保寺なんかよく練習していたよ。合奏している最中眠っているんだ。チェロだから寄り掛かってね。先生、おいおいなんて言って。あれには笑っちゃいましたよ。

小林富次郎　先輩達もよく来てくれましたよね。

毛塚隆之　そうそう車でね。高速道路なんかない時だから、甲州街道、舗装してないんですよまだ、混んじゃってね。

■某年8月　東北・北海道演奏旅行

夏休みを利用しての、それはそれは楽しいドサ回りであった。強行なスケジュールで列車で夜を明かした日も数々あった。秋田で混声合唱団と共演してもらった。そのソプラノの声が男性部員のハートを泣かせたのだった。

本間次郎　夏の演奏旅行今でも一番印象に残っているね。僕等の時は東北・北海道に２週間半位行ってたね。

小林富次郎　本間さんが３年の時、私１年でしたけれど、その時が２週間半、翌々年の３年の時は３週間ですね。あの時は、均一学生周遊券ていうのがあって、１ケ月間東北・北海道をどうやって回っても5,000円というのがあったんですよ。それは個人負担でした。その他旅館代等は総て団持ちでした。エキストラは30人いましたがギャラは全日程で１万円だったそうです。その当時Ｎ響が３年か４年に１回北海道地方へ演奏旅行していました。明治も１年おきに行ってるんですけど、ちゃんと主催者が買ってくれました。校友会や何かがやってくれたんです。そしてちょっと出来ない所を、校友会の人に民音を紹介してもらったんです。ちゃんとギャラ言われて。

平野幹夫　僕がマネージャーやってた時の演奏旅行では、旅館代は一切向こう持ちだったね。校友会がね。演奏会の諸経費や、宿泊代、滞在費等、校友会が持つわけです。そしてギャラとしていくらか貰って、その分でトラ代等出すんですよ。

杉山　茂　昔は校友会がしっかりして、ほとんど校友会がやってくれたんですか？

平野幹夫　僕ら恵まれていたというか、オーケストラなんて地方に無いから、校友会も明大の交響楽団て言っても知らないわけですよ。

毛塚隆之　マンドリンクラブに時々間違えられたりしてね。

平野幹夫　地方の校友会の幹部には体育会系の人が多いんですよ。我々文化系のクラブにも大変歓迎してくれて、例えば、釧路支部長等に計画を話すと「よし分かった。それじゃ、阿寒湖一周する費用も出してやろう」なんて、やってくれるんですよ。その他、親父のコネで、十条製紙で演奏会やったんですが、そんな時は、校友会でやる倍位ふっかけて、交渉したんです。そしたら会社の社歌をやってくれなんていう条件で引き受けてくれるんです。そんな具合に交渉して、最後の上がりは、登別温泉で、○○旅館へ泊めてやる。ビール１本付きだ。その代り夜８時～９時まで旅館の玄関で、お前たちシュトラウスのワルツを３曲やれ、とかね。そうすると向こうの宿代がグッと下がる。そういう色々やりましたね。

金子和子　北海道の時私の他に女の子がいなかったもんで、涙を呑んで諦めたんですよ。ピアノが必要だったんですけど親が男の中に女一人でどうするんだって、絶対許可してくれなかったんですよ。そしたら男の方達摩周湖で泳いだんですってね。

平野幹夫　筒井さんが美幌の出でしょ。彼が大丈夫だっていうんで、ツタにぶら下がりながら、体中傷だらけにして降りて泳いだんです。冷たい水だった。でも記念になりましたよ。

本間次郎　長万部だかどこかで、飲んでて金がなくなっちゃって楽器演奏して許してもらった事あったよね。

小林富次郎　いや、あれは最初から楽器演奏すれば、ただで飲めるっていう話でしたよ。長万部のクラブで、ヴァイオリン弾けばただだっていうんで、当時のコンマスのＹさんが、お前ら付いてこいってね。４・５人で行って、Ｙさんが２・３曲弾いたら、本当にただになっちゃった。（笑）

毛塚隆之　長万部といえば毛ガニ美味かったですね。あそこの産科のお医者さん、明治に関係無いんですってね、そのお医者さんが必ず差し入れてくれたんですよね。あれが楽しみでね。山盛りでしょ。

平野幹夫　僕らも新聞紙に包んだ、こんな大きいの、小遣銭で買えるんですよ。それを列車の中で食べるんですよ。60人が食べるんで、すごい匂いになるんですよ。でも美味かった。

本間次郎　牛乳も出たよね。こんな大きなヤカンにはいってるの。濃すぎて飲めないんだよね。演奏会キャンセルになったことがあったんだ。それで自衛隊の宿舎に泊めて貰う事になって、あのカマボコ型の兵舎にね。そしたら外出にチェックが必要になって。夜だって宿舎じゃ酒飲めないでしょ。それでトロンボーンのケースを空にして、それを持って「ちょっと出てきます」なんて言って、その中にビールを一杯詰めて、帰って来るんです。

杉山　茂　その頃は現地解散だったんですよね。あれ凄く羨ましかったですよ。北海道なんて現地解散の方がいいですよ。我々は団体扱いだったから、嫌でも帰ってこなくてはならなかったですよ。

増永浩司　でも１・２年は楽器の運搬があったから、駄目なんですよ。３・４年だけなんだ、あれは。

杉山　茂　平野さんの頃は中国・九州へも行ってますよね。

平野幹夫　いや九州は大変でしたよ。暑くて、皆倒れちゃって。

小林富次郎　毛塚さんと杉山君は演奏旅行でコンチェルトやってますよね。

毛塚隆之　費用節約でね、仕方なくやらされたんですよ。結局ね、演奏旅行もコンチェルトあると楽なんですよ。それがあれば、後２曲でいいんですよね。時間つなぎという面もあったんじゃないんですか。

杉山　茂　今から考えるとよくやりましたよね。大変だったですよ。演奏旅行長かったし、十何回も、毎晩ソロ弾かなきゃならないんですから。

本間次郎　音楽教室は約束に入ってないって言う芸大のトラが居まして、皆で最後に釧路の川にブン投げちゃおうって相談したんですよ。それを彼聞いていて、ブルッチャッて「ちゃんと出ます」って態度が変わっちゃってね。おもしろかった。それから、青森で向こうのコーラスの団体と一緒に演奏した事があってね。その時、ソプラノの中に綺麗な子がいて、皆演奏しながら、そっちの後ろばっかり気になるんだよね。先生「おい、こっち向けこっち向け」って。（笑）

平野幹夫　演奏旅行の話は尽きないね。一生のうちにあんな楽しい事そんなにないよね。とにかく楽しかった。

■某年９月　定期演奏会の曲目の候補を先生に相談しに行く

■某年９月　定期の曲目の練習始まる

■某年10月　秋季親睦旅行

雲に包まれた山道をひたすら目的地に向かって歩いた。…が視界ゼロ。辺りが暗くなってもまだ。女性部員も来ていたがあの有名な諺の意味が初めてこの時理解できた。

『汝、強きものは女である』

増永浩司　尾原先生は難しい曲を我々がお願いする時、なかなかＯＫ出してくれないんですよね。チャイコフスキーの５番定期でやりたいって言いましたら、「駄目だ。この編成じゃ無理だ。お前達の実力じゃ無理だ」って言うんですよ。何とかやらして貰おうと思って、先生のお宅、桜台へ一升瓶持って行くんです。そして機嫌を直して貰って「じゃ、一応練習やって見よう。でも駄目だったら没にするよ」って。それから、我々は先生が練習に来るまでに、特訓するんですよ。

小林富次郎　なかなか選曲には厳しい先生で、いつも苦労しましたよね。

岡崎義典　私練習に行って１回も音出さないで帰って来た事結構ありましたよ。練習やってるんだけれど、先生弦の方に厳しかったので、弦だけをさらって終わっちゃうんで。

小林富次郎　管は割合しっかりしていましたからね。金管なんか何処へ出てもヒケをとらなかったですよ。

毛塚隆之　私が初めて練習にいった時に、あまりに人数が少ないんでびっくりしたんです。あれ、チェロ今日お休みですか。ファゴットはどうしたんですか。いろいろ事情を聞いてみたらなるほどなということで、徐々にわかってきました。

平野幹夫　僕の時はコントラバス僕１本だったから、練習絶対に休めなかった。休んだら、いなくなっちゃうんですよ。ベースがね。それが本番になると必ず４人になるんです。石田の均ちゃんが必ず来てくれて、後はＮ響から２人。もう大変な良い音がでるんですよ。

松島一匡　あの頃は明治の校舎も汚くて、今の大学院の向こう側の角に教室がありまして、その汚い教室でよく練習したのを覚えています。

■某年10月　部室を交換する

狭くて雨漏りのする現部室と、法学部学生会の部室と交換した。新部室は５階にあり以前の部室よりは広いし雨漏りはしない。窓から主婦の友やＹＷＣＡそして遠くには二コライの屋根迄見る事が出来る見晴らしの良い所。只、部室までは毎日登山でもしている様な気分である。

■某年11月　駿台祭出演（記念館）

■某年11月　明治大学音楽連合会演奏会出演（共立講堂）

金子和子　私達の頃は部室は４階の一番奥の所だったんです。だから記念館のステージの上、ステージの天井が部室だったんです。

海江田一郎　そうそう。よくマンドリンクラブとね。カッカ来てね。古賀政男が。

金子和子　マンドリンクラブがうちへベースを貸してくれってよく来るんですよ。古賀政男が、何故かわからないんですがカッカカッカと来ているのがよく分かるんですよ。それで上から、部室の床の隙間からゴミを落としてね。

本間次郎　僕達の時に部室代わったんですよ。

毛塚隆之　広くなった、広くなったって喜んだよね。

小野　学　僕の頃は、もうガタピシだったけれど。床なんかボコボコしていて、今もそのままなんですか。直してないんですか。扉だって木製の、結構壊れそうな感じでしたよ。

本間次郎　練習終わるとね、すぐ部室でマージャン。それが楽しみで練習する。麻雀よくやってましたよね。一杯でしたね。後ろ通れない。それで部室では麻雀禁止になったんですよ。僕達の頃は、酒を飲みに行く連中と麻雀をやる連中とに分かれてましたね。

海江田一郎　記念館で練習する時、冬なんかすごく寒いでしょ。Ｋ先輩なんかは、休憩の時サッといなくなってね。赤い顔して帰ってくるんですよ。勝ちゃんニヤッて笑うんですよ。

■某年11月　定期演奏会の練習が本格化
不足している楽器等のエキストラが練習に参加してくれて、曲が徐々に仕上がって行く。

■某年12月　定期演奏会直前ソロ合せ
ピアニスト野島稔氏が来てピアノ協奏曲の伴奏合せ。スバラシイ…

岡野弘志　我々の頃は演奏会というとN響からごっそりと、エキストラが来るんですよ。今まで楽器がなかった所に音が出るので、我々の演奏も上手に聞こえるんですよ。そんな事で今度は、芸大に行ってトラをスカウトして来るんですよ。そういう人達が今N響等で第一線にたってバリバリやっています。

平野幹夫　昔は何処でも楽員が不足していたので、大学間の交流が非常に盛んだったですね。演奏旅行等にもね、ついて来てくれるんですよ。東大のY君なんて、自分の学生服の詰襟に付いている東大のバッチを外して、明治の商学部のバッチを付けてね。大変健気なエキストラでしたよ。

毛塚隆之　エキストラが入ったり、ソリスト等が来ると、尾原先生も今までの練習と変わって、緊張していましたね。我々もがらっと変わるんですよね。ソリスト等が来ると大変でしたね。エキストラが来ると音が埋まってくるでしょ。嬉しいんですよ。こーんな音がしてたのかってね。

松島一匡　後ろの方が良い音するんですよ。エキストラは後ろの方だから。

平野幹夫　我々の頃には、尾原先生の紹介で凄いソリストが来てくれてたよね。一番易しいコンチェルトと言う事で、初めてブルッフのVnコンチェルト、植野（現服部）豊子さんに来てもらってやったんですよ。そしたら結構良い伴奏が出来て翌年ラロのスペイン交響曲をやっぱり植野さんにやってもらったんです。今植野さん東京音大の教授ですよね。

海江田一郎　僕の時は海野義雄だった。すごく親切でね。いいですよ、いいですよって何回もやってくれた。

小林富次郎　私の代は徳永二男でした。まだ高校生でね。次が野島稔、そして海野さん、久保陽子も来ましたね。

毛塚隆之　徳永さんの思い出なんだけれど、練習場へ行ったら、皮ジャン着て煙草吸っているんだよね。なんだ、こいつはって思ってたら、ヴァイオリン弾き出したら上手いんですよね。ビックリする位本当に上手い。モーツァルトの５番。あの２楽章なんてジーンと来ましたよ。ともかく顔と違和感あって。それが又いいんですよ。

小林富次郎　来た時の姿とギャップがね。あれはおかしかったな。でも尾原先生が良い若手を選んでくれましたよ。

毛塚隆之　野島稔が来た時ね、その年毎日コンクールで特別賞貰ったんだよね。寒い日でね、記念館のボログランドピアノでリハーサルしたんですよ。それが素晴らしい。フルートはピアノの真ん前でしょ。鍵盤がみえるんですよ。カデンツァなんて、見てたらビックリしますよ。あの指の動き、これが高校生かなって、本当に思いましたよ。

本間次郎　彼黒縁の眼鏡やっていたでしょ。演奏しているとズリ落ちてくるんですよ。あの忙しく指動かしている時に、ちゃんと１本指が余るんだよね。それでその余った指で眼鏡ヒョイっと直すんだよね。瞬間的に、あれ神業だよ。

■某年12月　第〇〇回定期演奏会（杉並公会堂）
この演奏会が１年間の活動を運営する我々にとって最も重要な課題である。その舞台裏には色々な苦難の道があった。『ローマは１日にして成らず』この演奏会を聞いている人々にそういう事があることだけ知ってほしいのです。勿論我々の演奏がローマの様に偉大であるとは言えないのであるが。

■某年２月　卒業生追出しコンパ（浅草どぜう屋）

■某年３月　卒業式典参列（日本武道館）

■某年３月　春期合宿（千葉県岩井）
新体制での初練習。４年生がいなくなったのでオケラもよくなるって？

毛塚隆之　お金がなかったので、記念館でずっと定期やってたんだけど、あそこどう見たって音楽会場じゃないですよね。反響板はないし、それで日本青年館へ出たんですよ。

増永浩司　それ以来しばらく杉並公会堂がメインでしたね。

平野幹夫　私達の頃は学生服でね。舞台衣装なんてなかった。エキストラも学生服借りたり、濃紺のスーツ着てたり。

金子和子　女の子は黒っぽいスーツ等を着て、今のようにロングスカート等着てませんでしたね。

岡野弘志　最近になって、もう定年でN響を退団した人達に会ったら、アマチュアのオーケストラをもう一度やりたいな、なんて話していました。音楽に対する情熱は学生やアマチュアが一番持っていると。

増永浩司　卒業の時に尾原先生が、メッセージ入りのテープをくれたんですよ。確かチャイコフスキーの５番でね。その定期演奏会の録音に、尾原先生が、「卒業おめでとう、増永君。こんなことがあったね。大変だったね。」とか吹き込んで一人ずつくれるんですよ。

一同　それは大変いいね。貴重だね。

本間次郎　明治大学交響楽団の一年間の活動、こう見て行くと結構バラエティーに富んでいて、本当に学生時代の強烈な思い出となったのも分かるような気がします。本日はお忙しい中、御足労願い貴重なお話しありがとうございました。

座談会「明オケを語る」

●昭和50年～現在までを語る

昭和51年１月14日明治大学交響楽団第53回定期演奏会が、杉並公会堂で開催されました。この演奏会は明治大学交響楽団にとって、尾原先生との最後の演奏会でもありました。

明治大学交響楽団の創設者でもあり、53年に亙り団の全ての面に拘って来た尾原先生の引退は、明治大学交響楽団にとっても、それはまさに激動の変革を余儀なくさせる事になります。

先輩であり、常任指揮者でもあった尾原先生という存在は、団員達にとって、明治大学交響楽団の大黒柱としての拠り所であったと言っても過言ではないと思います。

尾原先生の引退とともに、明治大学交響楽団は様々な変革を迫られて来ます。組織の事、運営の事、活動の事、そして最も重要な指導者の事、等々。

この昭和50年以降現在に至るまで、明治大学交響楽団にとって激動と変革の時代であったと思われます。

ここで、現在団員数１８０名を擁する明治大学交響楽団が、いかに今日の隆盛を迎えたか、どのような変革に迫られたか等々現役学生を交えながらＯＢ達に語ってもらい、検証してみたいと思います。

■指揮者に関する諸問題

□常任指揮者尾原先生引退後の、指揮者の招致の方法をどの様に考えて来たか。

◇各パートの責任者が知っている指揮者をピックアップして、その指揮者のメリット、デメリット等を検討し、総合的に決をとり、それを団員総会にかけて承認するという形をとってました。

◇インスペクターがいろいろなトレーナーの先生等から情報をもらい、何人か候補をあげて来るんですけど、最終的に一番折り合いのいい人になってしまう。

□指揮者を決定する時は、指揮者にどのようなものを求めて来たか。

◇役員会でインスペクター一任という形にしてもらって指揮者を探し、この指揮者にしたいと言って、役員会にかけて承認してもらう。

◇自分達の練習を重視する場合と、本番を重視する場合とで指揮者の決め方が違う様に感じる。

◇練習を重視する場合であれば、あちこちのオケに指揮者の様子を聞いて、会議を何回か設け先生を決める。

◇本番を重視する時は、メジャーな先生を呼ぼうと役員会にかけたら、会計が出て来て大変な騒ぎになってしまう事もあった。

□常任指揮者の設置についてどのように考えて来たか。

◇今のところ常任指揮者は考えられない。

◇常任を置くと、個性がやっぱり先生の方に行っちゃうという事もあるから慎重に選ばなければいけないと思う。

◇良い先生がいたら、何年かの単位でつかまえても良いと思う。

◇現在常任指揮者を置いている大学でも、いい加減にやめさせたいと言っている所もある。固定化されちゃうって。

□客演指揮者の場合、その継続性をどの程度の期間として考えて来たか。

◇今までで一番長かったのは２年半位だったと思う。その時も支持する側と、反対する側の両方が出てくる。ある程度長く一人の指揮者に決めると、そういう話しが決まって出て来るのは致し方ないと思う。

◇一時期等は、春の演奏会、夏の演奏旅行、12月の定期演奏会全てが違う指揮者になった事もあった。

□常任指揮者と客演指揮者の共存を考えたことはなかったのか。

◇定期演奏会は常任指揮者にやってもらって、春の演奏会や夏の演奏旅行等の時は、他の指揮者を呼んで来る、そんな方法を考えた時もあった。

□指揮者が練習に来ない時には、どのような方法で練習をしているのか。

◇指揮者の下振りが来て練習をして、その人に春の演奏会は振って貰った事もあった。

◇先生が来ない時は学生指揮が穴埋めをするんですが、学生指揮という役職は現在存在はしていない。
◇振れる人が振るという形で、特別に決めていない。
◇70回の定期の時は一度だけでしたが、ドイツ人の指揮者W．D．ハウシルトに来て頂いて練習を見て頂いた。団として桂冠指揮者の称号を授与してその功を称えた。

□指揮者が変わるという事の影響をどの様に考えているか。

◇指揮者が演奏会ごとに違うということは、継続性がなくなるという訳で、一回ごとに前のを壊し、又新しく始めるというような所があったりするんですが、それが良い悪いじゃなくて、学生オケの宿命の様な感じがする。

■練習に関する諸問題

□演奏会までの練習計画はどの様に設定しているのか。

◇演奏会までの練習計画を整備し、システム化した。具体的には、本番迄の練習回数を20回位設けるという基準を設定し、きちんと綿密な計画を立てる。
◇週２回位の全体練習を設けると、本番迄約20回の練習回数になる。その内指揮者が10回位の練習をし、後は下振りや代理の指揮者に見てもらう。
◇指揮者の契約制によって、練習回数も事前に決めてしまう。

□全体練習はどの様な場所を使用して行なっているのか。

◇以前は東京文化会館のリハーサル室等を使用していた。
◇現在は基本的には記念館を使用していますが、その他芸術劇場のリハーサル室等も使用している。
◇今の様に部員が増えると実際は記念館の舞台では乗りきれないんですが、無理してやっているのが実情。
◇セクション練習では大教室も使っている。

□個人練習はどの様な場所を使用して行なっているのか。

◇練習以外の個人練習は記念館のそれぞれの階でやっているが、学生課から苦情がくる。
◇屋上でやっているとうるさいと言われひっこんだりする。
◇１階でやってても図書館に聞こえるとか言われる。
◇現在も記念館の廊下で、４階が木管楽器とか５階の部室の前や中が金管楽器とか決めて、苦情をいわれながら練習している。

■曲目選定に関する諸問題

□演奏会の曲を決定する方法はどの様にしているか。

◇一応アンケートを出してもらい、希望を聞く訳ですが、初めから問題外の曲もあったりで最終的に投票で決める。
◇役員やパートリーダーの希望が強く反映する時もあった。
◇今は選曲会議という組織があり、選曲用紙に細かく編成等を記入して貰い、ＣＤを聞きながら候補を決めていく。

□曲を決める時何か障害となる事があるか。

◇技術的な事が問題になることもある。
◇学生だから難しい曲をやっても良いと言う事で難曲を選んでも、やっぱりそれ相応の完成度を要求されたりする。
◇ハープ等の楽器を使用する曲は敬遠される。
◇団員全員が演奏会に出られるように考える。例えばトロンボーン等多数いるので、少しでも多く出られるように考えて選曲する。

□時代の傾向、流行の曲が選曲に影響を与えることがあるか。

◇最近ショスタコービッチやマーラー、ブルックナー等やはり流行が強く意識される。
◇今の傾向はブラームスになって来た様だ。

□最終的な選曲の方法で注意している事は何かあるか。

◇最終的には技術的なもの、予算的なもの、そして沢山の部員が舞台に出られる様にする、昔から結局問題になる所は変わっていない気がする。
◇最後は多数決で決めるしかない。

■演奏会場に関する諸問題

□演奏会場はどの様に決めているか。

◇昔は杉並公会堂がホームグラウンドだった。
◇今は新宿文化とか、北とぴあ等が多い。
◇外務がホール探すんですが、抽選だったりで結局取れる所でやるしかない。
◇最近は結構良いホールでやっている。
◇オーチャードの時は最初断られたんだけれど２回目に行ったら、丁度キャンセルが出ていて運よく入れた。

□演奏会場によって入場者数は変わって来るか。

◇場所にもよりますが、切符をばらまいてもなかなか一杯にはならなかった。
◇それでも著名なソリストを呼ぶとお客の入りも良くて、立ち見も出る時もあった。
◇オーチャードの時は4000枚位入場券を刷って配ったんですが、満席になる位の入りで一時は入場制限をしなくてはならないかと心配した。

□演奏会場によって演奏に影響を受けることがあるか。

◇良いホールでやるとグレードがやっぱりちょっと上がって来る感じがする。
◇杉並でずっとやっていると杉並の音しかでなくなってしまうような感じがする。

■経済的な諸問題

□団を運営して行く経費はどの様にしているか。

◇最近は年間の団費の他に、演奏会に出る人は別に負担金が必要。
◇基本的に団費で楽器や備品を買って、演奏旅行、定期演奏会等はそれぞれ独立採算を考える。
◇外で練習したり、合宿に行く時等楽器を運ぶにもトラックをチャーターしたりしなければならない。

□70回定期の時の経費はどの様にしたのか。

◇オーチャードのホール代、指揮者の謝礼、その他楽譜の版権等々大変な費用だったんですが、先輩達が少しずつその為にと、経費を浮かして積み立ててくれたんです。

■演奏旅行に関する諸問題

□演奏旅行の主催は何処がやっているか。

◇今は校友会が主催したり、自主公演したりしている。
◇採算が採れないという理由で断られてしまう事が多く、隔年おきにやるのも難しい。
◇演奏旅行と呼べるほど長くなく、向こうで演奏会やって帰ってくるという事もあった。

□自主公演の可能性はあるか。

◇今は地方でもプロの演奏会があるので、学生が必要とされない。
◇その地方出身の役員がいて、そのコネで無理やり実行した。
◇校友会もスポンサー期待出来なくなって来たので絶対自力で出来なくては無理だと思う。

■活動に関する諸問題

□入学式典や卒業式典への参列はどうしているか。

◇以前はハーモニカソサエティとかマンクラ等との交替だった。
◇数年前からオーケストラ専任になった。
◇学生課があいう式典はオーケストラが最も適しているでしょう、という事でオケに決まった。
◇この時の指揮は学生が振っている。
◇その他楽器運搬等、自動車部がやったりしてトラブルが多くて困る事がある。

□明治大学音楽連合会の演奏会には参加しているか。

◇以前は音連の演奏会に参加していて、初心者の１年生がデビューするのがこの演奏会だった。
◇今各クラブの目標が全然違って来てしまったので、同一のものをやる意味が薄れてきてしまった。それで参加しなくなってしまった。

□他のオーケストラとの交流は行なっているか。

◇最近エキストラを入れないという原則があるので、個人的な交流が主となっている。
◇ジョイント等も以前はマーラーの９番やった事があった。
◇全日本大学オーケストラ大会というのをソニ

	ーが主催してやっているのに参加したりしている。 ◇ジュネス等へ参加する人はどんどん参加して個人レベルでの交流が主体となった。
□文化祭への参加はどうしているか。	◇和泉祭と生田祭は参加している。 ◇和泉祭は喫茶店ずっと続けている。 ◇最近は店名毎年変わりますけど。 ◇生田祭も出店出して、その収益で部室を綺麗にした。
■団員の諸事情	
□新入部員に対してはどの様な対応をしているか。	◇今は公開練習を行なって新入部員を募集している。 ◇公開練習を１時間位やって、その後一緒にコンパをやって積極的に勧誘する。 ◇トロンボーン等は各学年で５．６人づつ居るので、オーディションで落としたっていう時期もあった。 ◇昔は本当にそうだったみたい。だから新歓合宿で１．２名やめさせる。それが合宿の第一目的だったと、聞いた事があった。 ◇最近は金管楽器にも女性が多くなってびっくりしている。
□練習後の団員同志の交流はどんなことをしているか。	◇居酒屋等へ行ってコンパするのがほとんど。 ◇指揮者と飲みに行くことも多い。 ◇昔は喫茶店へ行って長時間粘っていたな。 ◇「丘」とか「ウィーン」クラシック音楽の専門店だったけれど皆無くなっちゃった。 ◇酒飲むって言うのは、イベントの時しかなかった。わざわざ名前無理やりつけて。 ◇喫茶店へ行く連中と、酒飲みに行く連中と分かれてた。 ◇最近は終わってからだいたい三省堂の裏にある居酒屋で追い出されるまで飲んでいる。

□合宿はどの様な状況で行なっているか。	◇現在合宿に参加する人員は120名位いるので大変です。 ◇バスも３台必要。 ◇以前は朝日が出る頃まで、徹夜で飲んでいた。 ◇この前新歓合宿に行ったら、午前２時頃にもう寝て下さいっていわれてびっくりした。 ◇昔は寝かしてくれなかった、今は寝て下さい。 ◇今見回り担当とかきちんとしています。役員がつらいから寝て下さいって。 ◇最近変わって来たのは、部内演を二晩やることです。 ◇各学年でオーケストラやったり、出演者が多いんです。 ◇普段出来ない曲とか、選曲で落とされた曲をこの際だからやろうという事で。

現在の明治大学交響楽団は、180名という団員を擁し、都内の大学オーケストラの中でも有数の団体となっています。

しかし、このように大規模化した団体にとって、同時に問題点をも多数抱えています。

例えば、練習場の問題一つをとっても、満足なものではありません。近い将来記念館も改築のため取り壊される予定です。１８０名の団員達の練習場所や部室を何処に確保するのか。

更に団員全てに演奏の機会を与える事は現在の方法で可能かどうか。問題点をあげれば様々な難問が残されています。

しかし今、70年の歩みをＯＢ諸兄に語って頂き、振り返ってみれば、決して順風満帆な航海ではなかった事歴然です。

必ずや、解決の糸口を見つけ、先達が築いた明治大学交響楽団の伝統を守り、より良きクラブに発展させて行ってくれると確信しています。

ＯＢ諸兄の話が、将来の団にとって何らかの指針になれば、これに勝るものはありません。

＝ＯＢの思い出＝

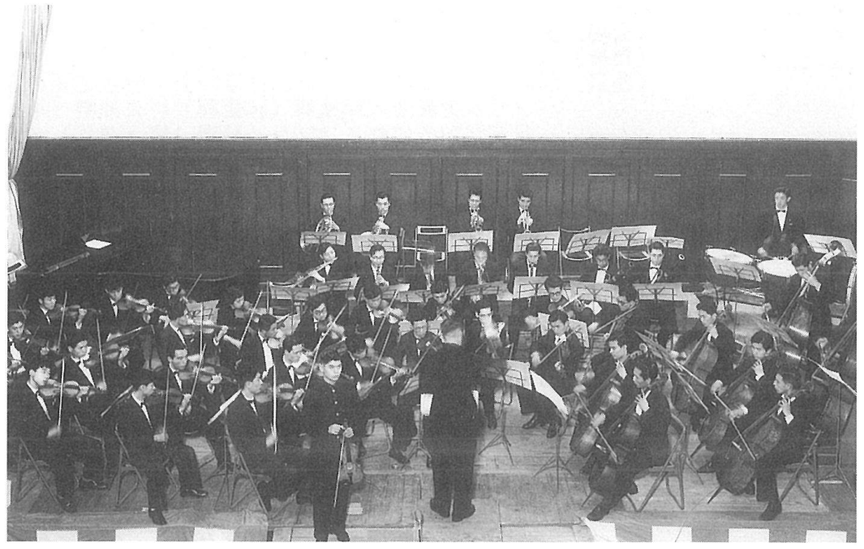
■島田栄吉（Ｖｎ；昭和19年卒）

私の入部は昭和15年。今より54年前でした。楽器はヴァイオリン。そして昭和15，16，17，18年12月学生すべてが徴兵猶予の突然の停止によって、私達はペンを捨て銃を担って戦地に引張られた学徒動員令が実施された時迄、３年有余の間在部しました。当時の部員は20数名程度、本学先輩明響創立者尾原勝吉先生の骨身惜しまぬ御指導の元、クラシック音楽に捧げる情熱により活発な活動をしてまいりました。演奏会は春秋２回の定期演奏会、夏期の休みを利用しての演奏旅行、これは軽井沢の小学校の訪問演奏会。又牛込にあった陸軍病院の慰問演奏会等。定期演奏会は昭和15年迄は日本青年館講堂、その後は明治大学記念館講堂。舞台は狭いので、教室より机を持って来て舞台を張り出したのを覚えています。手掛けた曲は順不同ですが、交響曲ではベートーヴェンの第３（英雄）、第５（運命）、第７、第８。シューベルトでは未完成交響曲。ドヴォルザーク新世界交響曲は第１楽章のみで未完成。これは学徒動員令発令で演奏会が出来なくなった為です。ヴァイオリンコンチェルトではベートーヴェンとチャイコフスキー両方行ない、独奏者は二度とも尾原先生の御紹介による巌本真理さんでした。当時江藤俊也氏に出演を交渉したのですが、学生団体であるからと言う理由で断られた事を覚えて居ります。ピアノコンチェルトではベートーヴェン皇帝（エンペラー）。独奏者は藤田晴子さん。曲名は思い出せませんが井口基成さんにも来ていただいた事があります。歌劇ではカルメン。劇音楽ではアルルの女。両方とも組曲形式で、長門美保、小森智恵子、滝田菊江さんに出演してもらった事を覚えております。他に序曲エグモントは大得意曲でした。交響詩フィンランディアも演奏しました。他に色々の曲を演奏しましたが、曲名は思い出せません。演奏会は明治大学記念館講堂になってからは昼夜２ステージで、1500枚程度の切符を売り昼夜満員の盛況でした。入場会員券は１枚50銭。独奏者の御礼は100～200円程度。演奏応援にはＮ響からの応援１名20円。東京音大学生５円。各大学より友情応援に２円程度。それでも演奏会は毎回大幅な黒字でした。部室は記念館地下にある小室であり、練習場は当時あった生協売店横の部屋で行ないました。演奏会は我々部員は皆坊主頭で、尾原先生は当初燕尾服、後は当時の国民服（黄色の服）。我々は学生服。演奏会初めには必ず君が代演奏をしなければなりませんでした。

■浦田　弘（Ｐｆ；昭和27年卒）

私は昭和26年４月より27年３月まで幹事長をやっており、当時の部長は林久吉教授でした。部員数は22名位だったと思います。当時は音楽研究部という名称で、私が予科から御茶の水の本校へ行きました時は、予科で作った合唱団（清水脩先生にご指導頂いていました）の団員が本校でも合唱団を作り、それらも一応この音楽研究部所属になっていました。私達のコンサート等の時には、切符の販売も協力して頂きました。行事としては定期演奏会を中心にして、学内行事（文化祭、予科祭等）には小編成でのポピュラーな曲や、合唱団などの形で参加しておりました。又当時は校友会の依頼で、各地で行なわれた六大学演奏会などへ、色々な形で参加しておりました。定期演奏会など大きなプロジェクトには、少ない部員でしたが色々役割分担して取り組みましたが、小編成では随時編成に合わせ、アレンジして演奏しておりました。野尻湖の合宿では、近くの小学校の生徒に楽器の紹介や、ミニコンサートで喜んで頂きました。昭和25～26年頃だったと思いますが、新橋駅前の仮設舞台で、未完成とシュトラウスのワルツ等を私の指揮で演奏した事がございました。電車が入るたびに音が消され「ホール以外の演奏は場所を選ばないと」など思ったことがございます。

七十年のあゆみ



第31回定期演奏会（昭和30年11月29日）

明治大学交響楽団活動史

大正12年４月末　■明治大学管弦楽団創立
尾原勝吉・菊地雙三郎・中川（樋口）亮・塚田道三郎・林慶旺・島村などの諸氏により明治大学管弦楽団が創立され、陸軍戸山学校の楽長補、和田小太郎氏の指揮で、ニコライ堂の一室を借りて練習を開始。

12年６月24日　■第１回演奏会
（会場）帝大基督教青年会館
（指揮）和田小太郎
（ピアノ伴奏）菊地雙二郎（慶應ワグネル会員）
（曲目）①管弦楽…シューベルト作曲ミリタリーマーチ②クラリネット独奏堀田慶喜（管弦楽伴奏）…ベルグソン作曲アリヤ③ヴァイオリン独奏尾原勝吉…マスネ作曲タイスの瞑想曲、ケラベラ作曲ハンガリアン④バリトン独唱猪飼正一（慶應ワグネル会員）…ドニゼッティ作曲歌劇ルクレチア＝ボルジアより⑤ピアノトリオpf梅本明Vn前田譏Vc松原與輔…ハイドン作曲ピアノ三重奏曲第７番⑥管弦楽…カーツ作曲音楽家の夢⑦ピアノ独奏菊地雙二郎…メンデルスゾーン作曲ロンド・カプリチョーソ⑧ソプラノ独唱奈良春枝…マイアベーア作曲歌劇ディノラより子守歌⑨ヴァイオリン独奏桂平太…ベリオ作曲第七司伴樂第二楽章アンダンテトランキール、ドルドラ作曲ハンガリアンダンス

14年５月17日　■第２回演奏会
（会場）上野自治会館
（指揮）和田小太郎
（曲目）ワーグナー作曲歌劇「タンホイザー」行進曲
ボワエルディ作曲「バクダットの大守」

15年１月16日　■埋れ木会
（会場）藤沢劇場
（指揮）尾村洋雄（尾原勝吉先生）
（曲目）校歌／Vn二重奏（中川亮、伴宗一）（管弦楽花の歌）／ハンガリア舞曲／Vn独奏（林慶旺）バス独唱（沼田利一）管弦楽かっぽれ／ソプラノ独唱（宮下春代）／管弦楽軍隊行進曲／ラパロマ／バクダットの大守
Vn独奏（尾村洋雄）ピアノ（今井虎雄－部員）

15年12月４日　■第３回演奏会
（会場）明治大学第４０番教室
（指揮）山口常光
（曲目）行進曲ボーイスカウト／Fl独奏（平野鉄雄）／弦楽五重奏組曲（絵の様な風景）／バクダットの大守／ベートーヴェン作曲交響曲第６番「田園」

昭和３年６月９日　■第４回演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ソプラノ）田中宣子、沢崎アキ子
（曲目）校歌／ハイドン作曲交響曲第６番／ソプラノ独唱ヴェルディ作曲「リゴレット」／パラレーズ／歌劇「サムソンとデリラ」より／シューベルト作曲「ロザムンデ」序曲／スッペ作曲「詩人と農夫」

昭和３年11月24日　■御大典記念
（会場）埼玉県粕壁中同窓会
（曲目）バクダットの大守／ドナウ河の漣／詩人と農夫／Vn独奏曲３曲／ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」
Vn独奏（尾原勝吉）ピアノ（堤　徳三）

■大学の公認となり「明治大学校友会音楽部管弦楽団」となる。

３年12月２日　■第５回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉／橋田　洋（ロマンス）
（メゾソプラノ）佐藤美子（ヴァイオリン）尾原勝吉
（曲目）スッペ作曲「詩人と農夫」序曲／ベートーヴェン作曲「ロマンス」ト長調、ヘ長調／ビゼー作曲歌劇「カルメン」よりジプシーのおどり、ハバネラ／ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」

４年６月30日　■第６回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）グリーグ作曲「ペールギュント」／ビゼー作曲「アルルの女」／シューベルト作曲交響曲「未完成」／ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲

６年10月16日　■第７回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）井田富之
（独唱）平井美奈子（舞踊）エオリア音楽院舞踊研究部員
（曲目）ハイドン作曲交響曲第100番「軍隊」／舞踊…砂山、二つの蝶々、サクマドロップの歌、兎のダンス、椰子の実、茅刈／独唱…トセルリ作曲嘆きのセレナード、カプア作曲オーソレミオ、アルディーティ作曲カルツソング／イヴァノヴィッチ作曲「ドナウ河の漣」／シューベルト作曲「ロザムンデ」

７年６月17日　■第８回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）井田富之
（ソプラノ）松原　操
（曲目）トマ作曲歌劇「レーモン」序曲／ハイドン作曲交響曲第１００番「軍隊」／独唱…マスカーニ作曲アヴェマリア、トセルリ作曲嘆きのセレナード、カプア作曲オーソレミオ／ビゼー作曲「アルルの女」よりファランドール／Ｊ．Ｆ．ワーグナー作曲「双頭の鷲の旗の下に」／ミーチャム作曲「アメリカン・パトロール」

７年９月　■信州演奏旅行
９月17日岩村田小学校で行なわれた演奏会の写真が資料にある。
（指揮）小松平五郎
（ヴァイオリン）尾原勝吉（ソプラノ）松原　操
その他、資料なく詳細不明。

７年11月４日　■第９回定期演奏会
（会場）日比谷公会堂

（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）尾原勝吉（ソプラノ）平井美奈子
（曲目）シューベルト作曲交響曲第５番（本邦初演）／ベートーヴェン作曲「ロマンス」ト長調、ヘ長調／ソプラノ独唱…ばあやのお里、あらたふと青葉若葉の日の光、鉾をおさめて／弦楽四重奏曲…モーツァルト作曲セレナード「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より第１楽章（第１Vn尾原勝吉、第２Vn深澤健、Vla岡田和夫、Vc森屋比佐雄）／イヴァノビッチ作曲「ドナウ河の漣」／ソプラノ独唱…ヴェルディ作曲歌劇「椿姫」より酒宴の歌、サデロ作曲「麦打ちの歌」

昭和８年６月２日　■第１０回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）尾原勝吉
（ピアノ）井上信子（ソプラノ）平井美奈子
（曲目）シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」／ベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲第３番／弦楽四重奏…ボッケリーニ作曲メヌエット、ハイドン作曲セレナーデ、チャイコフスキー作曲アンダンテ・カンタービレ（第１Vn尾原勝吉、第２Vn井田順次、Vla高辻威長、Vc前野繁雄）／ソプラノ独唱…グリーグ作曲「ペール・ギュント」よりソルヴェーグの歌、リムスキー＝コルサコフ作曲歌劇「サトコ」よりインド人の歌、ヴェルディ作曲歌劇「リゴレット」よりジルダの詠唱／シベリウス作曲交響詩「フィンランディア」

８年10月26日　■第１１回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）高　玉枝（ソプラノ）松原　操
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第１番／ヴァイオリン独奏…キュイ作曲「万華鏡」より子守歌／メンデルスゾーン作曲ヴァイオリン協奏曲より第１楽章／ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「美しき青きドナウ」／ソプラノ独唱…ビゼー作曲「カルメン」よりハバネラ、マスネ作曲「エレジー」、キアラ作曲「ラ・スパニョラ」／チャイコフスキー作曲「スラブ行進曲」

９年７月　■名古屋演奏旅行
資料なく詳細不明。

９年７月16日　■名古屋放送局
ＪＯＣＫスタジオより演奏が放送される。
スタジオでの写真が資料にあるが、その他詳細不明。

９年11月20日　■第１２回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）尾原勝吉
（ソプラノ）中村淑子　（ピアノ）遠見豊子
（曲目）ベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲第５番「皇帝」／ソプラノ独唱…ビゼー作曲「スパニッシュ・セレナーデ」、山田耕筰作曲「十六夜の月」、グノー作曲歌劇「ファウスト」より宝石の歌／ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」

10年８月17日～31日　■東北、北海道演奏旅行

（会場）17日秋田　18日青森　20日小樽　21日札幌　23日釧路　24日十勝　26日上砂川　28日室蘭　29日函館　30日岩手　31日仙台
（編成）２管３３名
（指揮）尾原勝吉
（独唱）河原喜久恵
（曲目）軽騎兵／「未完成」交響曲／「新世界」交響曲／ペールギュント／美しき青きドナウ／双頭の鷲／バクダットの大守／独唱７曲／地元歌／地元校歌

昭和10年　■東京中央放送局
ＪＯＡＫよりの放送２，３回ある。　詳細不明

10年11月12日　■第１３回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）尾原勝吉
（曲目）資料なく詳細不明

11年12月１日　■第１４回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）モギレフスキー（ソプラノ）関　種子
（曲目）ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」
ソプラノ独唱…プッチーニ作曲歌劇「ラ・ボエーム」よりミュゼッタのワルツ、モーツァルト作曲歌劇「フィガロの結婚」よりケルビーノの詠唱、同作曲歌劇「魔笛」より夜の女王の詠嘆調
ベートーヴェン作曲ヴァイオリン協奏曲
※モギレフスキー急病の為ポーラックが代演。

12年11月25日　■第１５回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）尾原勝吉
（独唱）松原　操（ハープ）渡辺　順
（曲目）ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲
シューベルト作曲軍隊行進曲
ソプラノ独唱…レハール作曲「メリー・ウィドー」より、露營の歌、リューランス作曲「ミネトンカの湖畔にて」
ハイドン作曲交響曲「玩具」
ビゼー作曲「アルルの女」第１、第２組曲

13年11月14日　■第１６回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）巌本メリーエステル＝巌本真理のオーケストラ伴奏でのデビュー　（メゾソプラノ）竹内　幸
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第７番
メゾソプラノ独唱…サン＝サーンス作曲歌劇「サムソンとデリラ」より君が御聲に我心は開く、カプア作曲「オー・ソレ・ミオ」、梁田貞作曲「晝の夢」
ロッシーニ作曲「セビリアの理髪師」序曲
ブルッフ作曲ヴァイオリン協奏曲第１番
ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「お前同志」

14年11月20日　■第１７回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）尾原勝吉

（ヴァイオリン）田中富貴子　（ソプラノ）滝田菊江
（曲目）ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲
ベートーヴェン作曲交響曲第３番「英雄」
ソプラノ独唱…ヴェルディ作曲歌劇「椿姫」より乾杯の歌、シューベルト作曲「セレナード」、多忠亮作曲「宵待草」
モーツァルト作曲ヴァイオリン協奏曲第５番

昭和14年12月７日　**■東京大学音楽連盟**
（会場）日比谷公会堂
（指揮）小船幸次郎、岡本敏明、服部　正
（曲目）ブラスバンド＝七大学校歌集／懐かしの郷里／アルビヘの挨拶／雷神
（36名）
オーケストラ＝グリンカ作曲「ルスランとリュドミラ」
（65名）　ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」
合唱８曲（64名）

15年12月１日　**■第１８回定期演奏会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ピアノ）藤田晴子　（ソプラノ）滝田菊江
（曲目）ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲
ベートーヴェン作曲交響曲第８番
ソプラノ独唱…モーツァルト作曲歌劇「フィガロの結婚」よりケルビーノの詠唱、成田為三作曲「濱邊の唄」、キアラ作曲「ラ・スパニョラ」
ベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲第５番「皇帝」

16年６月14日　**■第１９回定期演奏会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉　（合唱指導）鳴海匡純
（ソプラノ）井口小夜子　（合唱）管弦楽団合唱団
（曲目）グノー作曲バレエ音楽「ファウスト」より
男声合唱５曲
シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」
ソプラノ独唱…佐藤長助作曲「月夜の御祭」「雉の子」
トマ作曲歌劇「ミニヨン」より「君を知るや南の国」
シベリウス作曲交響詩「フィンランディア」

16年６月26日　**■明治大学管弦楽団・吹奏楽団拡充記念合同演奏会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ソプラノ）南部タカネ
（曲目）第一部吹奏楽…双頭の鷲／金と銀／勝利の父
第二部合唱と管弦楽…グノー作曲バレエ組曲「ファウスト」より／男声合唱４曲
第三部管弦楽と独唱…シューベルト作曲未完成／ソプラノ独唱３曲／シベリウス作曲「フィンランディア」

16年11月９日　**■第２０回定期演奏会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉　（合唱指揮）鳴海匡純
（ヴァイオリン）巌本メリーエステル
（独唱）小森智恵子、鳴海匡純　（男声合唱）管弦楽団合唱団
（曲目）男声合唱…ニグロ民謡／日本民謡
ベートーヴェン作曲ヴァイオリン協奏曲
ビゼー作曲「カルメン」第１、第２組曲

昭和17年６月14日　**■第２１回定期演奏会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（独唱）長門美保、鳴海信輔
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第７番
近衛秀麿編曲「越天楽」
ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「皇帝円舞曲」
テナー独唱…山田耕筰作曲「この道」「宵待草」
ヴェルディ作曲歌劇「椿姫」より「前奏曲」「ああ、そは彼の人か」「乾杯の歌」

17年７月　**■志田総長謝恩演奏会**
（会場）不明
（指揮）尾原勝吉
（曲目）シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」
ビゼー作曲「アルルの女」
ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」

17年　**■千葉県人会**
資料なく詳細不明

17年12月６日　**■第２２回定期演奏会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（独唱）長門美保
（曲目）ビゼー作曲「アルルの女」第１，第２組曲
ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「美しき青きドナウ」
ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲
独唱…「荒城の月」「かごかき」

18年３月　**■ブラスバンド演奏会**（40名編成）
（会場）不明
（指揮）尾原勝吉
（曲目）ヴェルディ作曲歌劇「椿姫」
バラ幻想曲／六段の調／旧友

18年４月11日　**■演奏会名不明**
（会場）宇都宮公会堂
（指揮）尾原勝吉
（ソプラノ）井口小夜子
（曲目）シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」
ビゼー作曲「アルルの女」
ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「美しき青きドナウ」
旧友／独唱曲

18年６月13日　**■第２３回定期演奏会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（独唱）長門美保、永田絃次郎
（曲目）ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「ウィーンの森の物語」
独唱（永田絃次郎）ヴェルディ作曲歌劇「リゴレット」より「女心の歌」／柳田貞作曲「晝の夢」
二重唱プッチーニ作曲歌劇「ラ・ボエーム」より「花の歌」
独唱（長門美保）多忠亮作曲「宵待草」／橋本國彦作曲「田植え歌」
ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」

昭和18年７月10日　■陸軍病院慰問
（指揮）尾原勝吉
（曲目）未完成／美しき青きドナウ／旧友／他

18年７月14日　■明大の面目高揚と学内諸行事へ出演の労に対し、志田総長より赤坂「幸楽」に招待される。

18年９月　■第２４回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第８番
タイケ作曲「旧友」
スッペ作曲「軽騎兵」
ヨハン・シュトラウス作曲「皇帝円舞曲」／他

21年６月22日　■演奏会名不明
（会場）ＮＨＫ第２スタジオ
（指揮）芥川也寸志、清水　脩
（曲目）チャイコフスキー名曲集、混声合唱、フルート独奏（相沢）

21年９月29日　■演奏会名不明
（会場）福島県三春町
（指揮）遠藤　公
（曲目）モーツァルト作曲交響曲第４０番よりメヌエット
「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
チャイコフスキー名曲の回想
「しかられて」等アレンジ物数曲

21年11月１日　■明大祭
（会場）不明
（曲目）室内楽

21年11月３日　■明大祭
（会場）不明
（指揮）遠藤　公
（曲目）室内オケ

21年12月７日
８日　■第２５回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）江藤俊哉（ソプラノ）滝田菊江
（曲目）チャイコフスキー原曲明治大学音楽研究部編曲名曲の回想
ヨハン・シュトラウス作曲「皇帝円舞曲」
メンデルスゾーン作曲ヴァイオリン協奏曲
ソプラノ独唱…キアラ作曲「ラスパニヨラ」、カプア作曲「オー・ソレ・ミオ」、ベートーヴェン作曲「自然に於ける神の栄光」、ヴェルディ作曲歌劇「椿姫」より乾杯の歌
シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」

23年１月24日　■演奏会名不明
（会場）明治大学記念館
（曲目）室内楽（鎌田、熊谷、後藤、山内）

23年６月26日　■予科祭
（会場）不明
（曲目）室内楽

昭和23年６月27日　■予科祭（35名編成）
（会場）不明
（指揮）遠藤　公
（曲目）シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」
ビゼー作曲「カルメン」組曲／他

23年11月13日　■第２６回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）渡辺暁雄
（曲目）ヨハン・シュトラウス作曲「ウイーンの森の物語」
シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」
ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」

24～25年資料なく不明

26年10月　■演奏会名不明
（会場）沼津市
（指揮）浦田　弘
（曲目）ボワエルディ作曲「バクダットの大守」／他

26年12月７日　■第２７回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ソプラノ）團　瑛子　（合唱団）明治大学合唱団
（曲目）シベリウス作曲交響詩「フィンランディア」
ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「芸術家の生涯」
明治大学合唱団…５曲（指揮；寶井眞一）
ソプラノ独唱…４曲（ピアノ伴奏；奈良洋子）
ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」

27年１月　■東京六大学音楽リーグ戦
（会場）静岡市公会堂
（指揮）浦田　弘
（曲目）シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」
ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「芸術家の生涯」
玩具の行進曲

27年３月　■新入生歓迎大会
（会場）不明
（出演）カルテット（山口、水口、坂倉、石坂）
（曲目）モーツァルト

27年10月　■和泉祭
（会場）不明
（指揮）不明
（曲目）ボワエルディ作曲「バクダットの大守」
作曲家不明弦楽セレナーデ

27年11月　■大学祭
（会場）明治大学記念館
（出演）ピアノトリオ（森、坂倉、石坂）
（曲目）不明

27年12月13日　■第２８回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）岩淵龍太郎　（ソプラノ）川内澄江

（曲目）ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲
ヴェルディ作曲歌劇「椿姫」より乾杯の歌、ああそは彼の人か
ベートーヴェン作曲「ロマンス」ト長調、ヘ長調
ベートーヴェン作曲交響曲第７番

昭和28年５月６日　**■新入生歓迎大会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）不明
（曲目）チャイコフスキー作曲「白鳥の湖」
シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」

28年５月10日　**■４団体音楽会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）バクダットの大守／芸術家の生涯／白鳥の湖／他

28年７月　**■岩井学園慰問**（千葉県岩井合宿中）
（指揮）尾原勝吉
（曲目）バクダットの大守／童謡／他

28年10月５日　**■演奏会名不明**（資料に毎日新聞の記載）
（会場）不明
（指揮）遠藤　公
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第３番「英雄」より第２楽章
（30名編成）

28年10月18日　**■和泉祭**
（会場）明治大学和泉校舎
（指揮）遠藤　公
（曲目）ヨハン・シュトラウス作曲「皇帝円舞曲」
チャイコフスキー作曲「白鳥の湖」
フォスター名曲集／他

28年10月24日　**■身延高校演奏会**（山梨県）
（会場）身延高校講堂
（指揮）遠藤　公
（曲目）午前、午後の部
「運命」第１楽章／フォスター名曲集／ワルツ「南国のばら」／「エグモント」序曲／白鳥の湖／未完成／他
夜の部
「ロマンス」ト長調／皇帝円舞曲／ワルツ「芸術家の生涯」／「未完成」交響曲／他

28年11月５日　**■大学祭**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「美しき青きドナウ」

28年11月14日　**■演奏会名不明**（資料に「六大学交歓」の記載がある。）
（会場）東京大学講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）不明

28年11月20日　**■第２９回定期演奏会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉

（ヴァイオリン）植野豊子
（曲目）ロッシーニ作曲「セビリアの理髪師」序曲
ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「美しき青きドナウ」
ブルッフ作曲ヴァイオリン協奏曲第１番
ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」

昭和28年12月19日　**■六大学交響楽団結成第１回定期演奏会**
（会場）日比谷公会堂
（指揮）尾原勝吉、中山冨士男
（ピアノ）野邊地勝久
（曲目）ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲
高田三郎作曲「ファンタジーとフーガ」
ベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲第５番「皇帝」
ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」

29年２月　**■関東共済組合連合大会**
（会場）共済会館
（指揮）坂倉暢男
（曲目）皇帝円舞曲／バクダットの大守／未完成／他

29年３月24日　**■六大学オケ連**
（会場）不明
（指揮）遠藤　公
（曲目）白鳥の湖／芸術家の生涯／バクダットの大守／未完成

29年３月31日　**■六大学オケ連**
（会場）不明
（指揮）遠藤　公
（曲目）白鳥の湖／芸術家の生涯／バクダットの大守／未完成

29年４月11日　**■六大学オケ連**
（会場）不明
（指揮）遠藤　公
（曲目）運命／「セビリアの理髪師」序曲／美しき青きドナウ／春の声／バクダットの大守／未完成

29年７月17日～８月４日　**■東北、北海道演奏旅行**
（会場）18日鶴岡　19日本荘　20日秋田　21日青森　22日函館
23日室蘭　25日札幌　26日神威、歌志内　27日上砂川
28日旭川　30日北見　31日網走　１日美幌　４日帯広
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）尾原　恒
（曲目）「セビリアの理髪師」序曲／白鳥の湖／「ロマンス」ト長調、ヘ長調／美しき青きドナウ／運命……Ａプロ
「軽騎兵」序曲／白鳥の湖／チゴイネルワイゼン／ワルツ「春の声」「南国のばら」／未完成　……Ｂプロ

29年10月　**■和泉祭**
（会場）明治大学和泉校舎
（指揮）尾原勝吉
（曲目）「軽騎兵」序曲／美しき青きドナウ／白鳥の湖

29年11月７日　**■大学祭（洞爺丸追悼演奏会）**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）尾原　恒
（曲目）「セビリアの理髪師」序曲／美しき青きドナウ／チゴイネルワイゼン／白鳥の湖／運命

昭和29年11月22日　■第３０回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）植野豊子
（曲目）ハイドン作曲交響曲第９２番「オックスフォード」
ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「ウィーンの森の物語」
ラロ作曲スペイン交響曲
イッポリトフ＝イワーノフ作曲組曲「コーカサスの風景」

30年５月１日～４日　■東北演奏旅行
（会場）１日白河　２日三春　４日仙台
（指揮）尾原勝吉、遠藤　公
（ヴァイオリン）尾原　恒
（曲目）「セビリアの理髪師」序曲／美しき青きドナウ／シンフォニックジャズ／白鳥の湖／チゴイネルワイゼン／「ロマンス」ト長調、ヘ長調／運命／他

30年７月13日～27日　■近畿、中国地方演奏旅行
（会場）13日静岡　14日武豊　15日半田　16日四日市、津
18日松阪　19日大阪　20日京都　21日豊岡　22日鳥取
23日松江　24日雲出　26日下関　27日宇部
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）尾原　恒
（曲目）「セビリアの理髪師」序曲／アルルの女第２組曲／チゴイネルワイゼン／「ロマンス」ヘ長調／運命／他

30年10月23日　■和泉祭
（会場）明治大学和泉校舎
（指揮）不明
（曲目）不明

30年11月６日　■大学祭
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）不明
（曲目）不明

30年11月29日　■第３１回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）福井（浦川）宜也
（曲目）モーツァルト作曲「後宮よりの逃走」序曲
ベートーヴェン作曲ヴァイオリン協奏曲
箕作秋吉作曲「芭蕉紀行集」
ヨハン・シュトラウス作曲「皇帝円舞曲」
モーツァルト作曲交響曲第４１番「ジュピター」

31年７月11日～31日　■東北、北海道演奏旅行
（会場）12日鶴岡　13日本荘　14日秋田　16日八戸　18日室蘭
20日苫小牧　21日札幌　22日歌志内　23日深川　24日美幌
25日網走　26日北見　28日釧路　31日函館
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）尾原　恒
（曲目）「アルルの女」第２組曲／未完成／ウィーンの森の物語／皇帝円舞曲／メンデルスゾーンVn協奏曲／フィンランディア／他

31年10月21日　■和泉祭

（会場）明治大学和泉校舎
（指揮）不明
（曲目）不明

昭和31年12月４日　■第３２回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）外山　滋
（曲目）グリンカ作曲「ルスランとリュドミラ」序曲
近衛秀麿編曲「越天楽」
メンデルスゾーン作曲ヴァイオリン協奏曲
ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」

32年７月12日～20日　■中部・北陸演奏旅行
（会場）12日甲府　13日小諸　15日越中大門　16日富山
17日金沢　18日京都　19日松阪　20日半田
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）尾原　恒
（曲目）水上の音楽／未完成／皇帝円舞曲／白鳥の湖／メンデルスゾーンVn協奏曲／運命／他

32年12月２日　■第３３回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」
ベートーヴェン作曲交響曲第８番
ボロディン作曲「イーゴリ公」よりダッタン人の踊り

33年５月22日　■第３４回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）ロッシーニ作曲歌劇「セビリアの理髪師」序曲
ヴェルディ作曲歌劇「椿姫」第一幕前奏曲
ヨハン・シュトラウス作曲「美しき青きドナウ」
チャイコフスキー作曲組曲「白鳥の湖」
シュトラウス作曲「ラデツキー行進曲」
ヘンデル作曲組曲「水上の音楽」より
シューベルト作曲交響曲第８番「未完成」
ヴェルディ作曲歌劇「トロバトーレ」よりアンヴィル・コーラス
イッポリトフ＝イワーノフ作曲「コーカサスの風景」より酋長の行進

33年12月９日　■第３５回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（フルート）菅井源太郎
（曲目）モーツァルト作曲歌劇「偽の女庭師」序曲
モーツァルト作曲フルート協奏曲第２番ニ長調
カバレフスキー作曲組曲「道化師」
チャイコフスキー作曲交響曲第６番「悲愴」

34年６月30日～７月20日　■東北・北海道演奏旅行
（会場）１日鶴岡　２日酒田　３日本荘　４日秋田　５日青森
６日弘前　８日長万部　９日室蘭　10日札幌
11日12日歌志内　13日遠軽町　14日北見　15日網走
16日美幌　18日釧路　20日帯広

（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）尾原　恒　（ピアノ）森元雄子
（曲目）水上の音楽／皇帝円舞曲／グリーグpf協奏曲／ブルッフVn協奏曲／運命／カルメン組曲／他

昭和34年11月24日
■第３６回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）外山　滋　（語り）荘司美代子
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第７番
ブルッフ作曲ヴァイオリン協奏曲第１番
プロコフィエフ作曲「ピーターと狼」
ベルリオーズ作曲「ファウストの劫罰」よりハンガリヤ行進曲

35年７月11日～26日
■山陰・九州演奏旅行
（会場）12日松江　13日出雲　14日浜田　16日江津　17日下関　18日佐賀　19日長崎　21日柳川　22日大牟田　23日川内　25日宮崎　26日延岡
（指揮）尾原勝吉
（フルート）菅井源太郎
（曲目）カルメン組曲／美しき青きドナウ／白鳥の湖／運命／モーツァルトF1協奏曲第２番／ラデツキー行進曲／他

35年12月６日
■第３７回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）二宮夕美
（曲目）リスト作曲交響詩「前奏曲」
ベートーヴェン作曲ヴァイオリン協奏曲
ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」

36年７月不明～16日
■東北・北海道演奏旅行
（会場）不明　５日本荘　不明　８日弘前　９日長万部　不明　11日ワニシ　12日旭川　不明　14日遠軽　15日北見　16日美幌
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）館野晶子
（曲目）「軽騎兵」序曲／ベートーヴェンVn協奏曲／アルルの女／ベートーヴェン交響曲第８番／他

36年11月28日
■第３８回定期演奏会
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）久保陽子
（曲目）ベルリオーズ作曲「ローマの謝肉祭」序曲
メンデルスゾーン作曲ヴァイオリン協奏曲
ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」
ワーグナー作曲「ニュルンベルクの名歌手」前奏曲

37年11月26日
■第３９回定期演奏会
（会場）日本青年館
（指揮）尾原勝吉
（ピアノ）野島　稔
（曲目）ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲
グリーグ作曲ピアノ協奏曲
ベートーヴェン作曲交響曲第８番
チャイコフスキー作曲「スラブ行進曲」

昭和38年７月２日～12日
■東北・北海道演奏旅行
（会場）２日秋田　４日函館　５日長万部　６日札幌　７日室蘭　８日帯広　９日遠軽　10日美幌　11日網走　12日釧路
（指揮）尾原勝吉
（フルート）毛塚隆之
（曲目）フィンランディア／カルメン組曲／モーツァルトF1協奏曲／新世界より／他

38年12月４日
■第４０回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（ピアノ）池本純子
（曲目）シベリウス作曲交響詩「フィンランディア」
ベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲第５番「皇帝」
ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」

39年６月19日
■ポピュラーコンサート
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）未完成／ハンガリア舞曲第５番／鍛冶屋のポルカ／トランペット吹きの子守歌／シンコペーテッドクロック／ドナウ川のさざ波／ペールギュント／フィンランディア／他

39年11月20日
■第４１回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）徳永二男
（曲目）シベリウス作曲組曲「カレリア」
ヨハン・シュトラウス作曲ワルツ「芸術家の生涯」
ベルリオーズ作曲「ファウストの刧罰」よりラコッツィー行進曲
モーツァルト作曲ヴァイオリン協奏曲第５番
ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」

40年６月
■ポピュラーコンサート
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）「エグモント」序曲／皇帝円舞曲／南太平洋／マイフェアレディ／他

40年７月４日～18日
■東北・北海道演奏旅行
（会場）５日本荘　６日秋田　７日弘前　８日長万部　９日室蘭　10日小樽　11日12日札幌　13日旭川　14日美幌　15日北見　16日網走　17日釧路　18日帯広
（指揮）尾原勝吉
（曲目）「エグモント」序曲／皇帝円舞曲／運命／未完成／南太平洋／マイフェアレディ／ポルカ「狩」／他

40年12月４日
■明治大学混声合唱団第１４回定期演奏会
（会場）不明
（指揮）小林研一郎
（曲目）フォーレ作曲「レクイエム」作品48

40年12月20日
■第４２回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（ピアノ）神谷郁代

（曲目）ベートーヴェン作曲「プロメテウスの創造物」序曲
ベートーヴェン作曲交響曲第７番
ラフマニノフ作曲ピアノ協奏曲第２番
ハチャトリアン作曲「ガイーヌ」第１組曲より

昭和41年５月22日　**■明治大学音楽団体連合会第２回演奏会**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）「アルルの女」組曲第２番／ハンガリー舞曲第５番

41年６月30日　**■第１回５大学合同演奏会**
（会場）虎ノ門ホール
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）海野義雄
（共演校）一橋大、東京工業大、東京医科歯科大、御茶の水女子大
（曲目）ブラームス作曲大学祝典序曲
シベリウス作曲交響詩「フィンランディア」
チャイコフスキー作曲ヴァイオリン協奏曲
ブラームス作曲交響曲第４番

41年11月20日　**■第４３回定期演奏会**
（会場）虎ノ門ホール
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）森ゆう子
（曲目）ベートーヴェン作曲「フィデリオ」序曲
ベートーウェン作曲ヴァイオリン協奏曲
チャイコフスキー作曲交響曲第５番
ビゼー作曲「カルメン」第１組曲よりトレアドーレ

41年12月12日　**■明治大学混声合唱団第１５回定期演奏会**
（会場）神田共立講堂
（指揮）村上康明
（曲目）モーツァルト作曲「レクイエム」ニ短調

42年８月19日～９月４日　**■東北・北海道演奏旅行**
（会場）19日福島　20日会津若松　21日酒田　22日羽後本庄
23日秋田　24日八戸　25日弘前　27日函館　28日室蘭
29日小樽　30日札幌　31日旭川　１日北見　２日美幌
（指揮）尾原勝吉
（曲目）チャイコフスキー交響曲第５番／フィンランディア／サウンドオブミュージック／南平洋／白鳥の湖／未完成／他

42年11月29日　**■第４４回定期演奏会**
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（ピアノ）前島園子
（曲目）シベリウス作曲組曲「カレリア」より行進曲
ロッシーニ作曲歌劇「セビリアの理髪師」序曲
ベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲第５番「皇帝」
ベートーヴェン作曲交響曲５番「運命」

43年３月３日　**■ハイスクールコンサート**（主催：民音）
（会場）渋谷公会堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）サウンドオブミュージック／南太平洋／マイフェアレディ／シンコペーテッドクロック／他

昭和43年４月20日　**■新入生歓迎会**
（会場）明治大学和泉校舎
（指揮）尾原勝吉
（曲目）ハンガリア舞曲第５番／ポルカ「狩」／プレリュードとフーガ／白鳥の湖／ドレミの歌／他

43年６月28日　**■ポピュラーコンサート**
（会場）明治大学記念館講堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）杉山　茂
（曲目）エグモント序曲／おもちゃの交響曲／ベートーヴェン「ロマンス」／チゴイネルワイゼン／金と銀／ウィーンの森の物語／ポルカ「狩」／「ベンハー」序曲／他

43年10月10日　**■明治大学音楽団体連合会第４回演奏会**
（会場）神田共立講堂
（曲目）モーツァルト作曲クラリネット五重奏曲

43年11月11日　**■第４５回定期演奏会**
（会場）虎ノ門ホール
（指揮）尾原勝吉
（曲目）ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲
ボロディン作曲交響詩「中央アジアの草原にて」
Ｊ．Ｓ．バッハ作曲管弦楽組曲第３番
ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」
ワーグナー作曲「ニュルンベルクの名歌手」前奏曲

44年８月17日～31日　**■東北・北海道演奏旅行**
（会場）18日横手　19日新庄　20日米沢　21日本庄　23日能代
25日函館　26日室蘭　28日原の町　29日古川　30日水戸
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）杉山　茂
（曲目）「オベロン」序曲／メンデルスゾーンVn協奏曲／新世界より／ペルシャの市場にて／ポルカ「狩」／ラデツキー行進曲／他

44年11月24日　**■第４６回定期演奏会**
（会場）虎ノ門ホール
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）杉山　茂
（曲目）ウェーバー作曲歌劇「オベロン」序曲
メンデルスゾーン作曲ヴァイオリン協奏曲
ブラームス作曲交響曲第１番
ドヴォルザーク作曲スラブ舞曲

45年４月26日　**■ポピュラーコンサート**
（会場）神田共立講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）春の声／「カレリア」組曲より行進曲／芸術家の生涯／スラブ舞曲／アルルの女組曲／ペルシャの市場にて／他

45年12月６日　**■第４７回定期演奏会**
（会場）虎ノ門ホール
（指揮）尾原勝吉
（メゾソプラノ）西　明美
（曲目）ブラームス作曲「悲劇的序曲」
ドビュッシー作曲「小組曲」

マーラー作曲「さすらう若人の歌」
フランク作曲交響曲ニ短調

昭和46年８月19日～29日
■東北演奏旅行
（会場）19日白河　20日鶴岡　21日秋田　22日大館　23日本荘
25日水沢　26日気仙沼　27日塩釜　28日水戸
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）杉山　茂
（曲目）「フィデリオ」序曲／「カレリア」組曲／ブルッフVn協奏曲／運命／スラブ舞曲／フィンランディア／マイフェアレディ／アラビアのロレンス／他

46年10月
■明治大学音楽団体連合会演奏会
資料なく詳細不明

46年10月
■昭和学院女子短期大学学園祭
資料なく詳細不明

46年10月
■鉄道学園文化祭
資料なく詳細不明

46年10月
■上智大学「荒鷲の集い」
資料なく詳細不明

46年11月22日
■第４８回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（ヴァイオリン）杉山　茂
（曲目）ベートーヴェン作曲「フィデリオ」序曲
ブルッフ作曲ヴァイオリン協奏曲第１番
チャイコフスキー作曲交響曲第６番「悲愴」

47年6 月17日
18日
■和泉祭
（会場）明治大学和泉校舎
（指揮）不明
（曲目）カルメン前奏曲／王宮の花火／ハンガリア舞曲第５番／おもちゃのシンフォニー／他

47年６月23日
■６月コンサート
（会場）都市センターホール
（指揮）尾原勝吉
（曲目）ヘンデル作曲組曲「水上の音楽」
オネゲル作曲「夏の牧歌」
カバレフスキー作曲組曲「道化師」
プロコフィエフ作曲「ピーターと狼」
ワーグナー作曲「ニュルンベルクの名歌手」前奏曲
ラヴェル作曲「亡き王女のためのパヴァーヌ」

47年12月９日
■第４９回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）スメタナ作曲交響詩「モルダウ」
ハイドン作曲交響曲第100番「軍隊」
ブラームス作曲交響曲第４番

48年６月25日
■尾原勝吉第九交響曲演奏会
（会場）東京郵便貯金ホール

（指揮）尾原勝吉
（合唱指揮）辻　正行
（共演校）東京工業大、東京医科歯科大、御茶の水女子大、聖心女子大
（ソプラノ）日比野静子　（アルト）西　明美
（テノール）近藤允弘　（バリトン）竹中治利
（合唱）クールクロア
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第９番「合唱付」

昭和48年８月23日～29日
■東北・信州演奏旅行
（会場）24日鶴岡　25日羽後本庄　28日長野
（指揮）尾原勝吉
（曲目）「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲／未完成／悲愴／他

48年12月22日
■第５０回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）モーツァルト作曲交響曲第３９番
小山清茂作曲「管弦楽のための木挽歌」
ブラームス作曲交響曲第２番
※５０回記念レコードを東芝ＥＭＩの協力で作成

49年１月16日
■明治大学交響楽団創立５０周年記念祝賀会
（会場）東京駅大丸ルビーホール
※尾原勝吉先生御夫妻金婚式祝賀会を兼ねる

49年６月22日
■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（ホルン）千葉　馨
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第８番
ワーグナー作曲「ジークフリートの葬送行進曲」
モーツァルト作曲ホルン協奏曲第３番
スメタナ作曲交響詩「わが祖国」より高い城、ボヘミアの森と牧場から

49年10月
■明治大学音楽団体連合会演奏会
資料なく詳細不明

49年11月30日
■第５１回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）フンパーディンク作曲歌劇「ヘンゼルとグレーテル」序曲
モーツァルト作曲交響曲４１番「ジュピター」
シベリウス作曲交響曲第２番

50年６月19日
■５大学ジョイントコンサート
（会場）日比谷公会堂
（指揮）尾原勝吉
（共演校）東京工業大、東京医科歯科大、御茶の水女子大、聖心女子大
（曲目）チャイコフスキー作曲幻想序曲「ロミオとジュリエット」
チャイコフスキー作曲組曲「くるみ割り人形」
ショスタコーヴィチ作曲交響曲第５番

50年８月25日～30日
■東北演奏旅行
（会場）26日鶴岡　27日秋田　28日山形　29日塩釜　30日北上

（指揮）河地良智
（曲目）マイスタージンガー／ラデツキー行進曲／新世界より／
運命／他

昭和50年10月10日　■明治大学音楽団体連合会第１０回演奏会
（会場）神田共立講堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）ラデツキー行進曲／運命／シンコペーテッドクロック／他

50年12月22日　■第５２回定期演奏会
（会場）東京郵便貯金ホール
（指揮）尾原勝吉
（ファゴット）前田信吉
（曲目）ブラームス作曲「悲劇的序曲」
ヴィヴァルディ作曲ファゴット協奏曲イ短調
ブルックナー作曲交響曲第４番「ロマンティック」

51年６月14日　■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）河地良智
（ヴァイオリン）水野佳子
（曲目）チャイコフスキー作曲「スラブ行進曲」
ブルッフ作曲ヴァイオリン協奏曲第１番
ブラームス作曲交響曲第４番

51年10月11日　■明治大学音楽団体連合会第１１回演奏会
（会場）神田共立講堂
（指揮）芳賀道保
（曲目）タイプライター／ウェストサイドストーリー／他

51年10月21日　■第２回ジョイント第九交響曲演奏会
（会場）日比谷公会堂
（指揮）尾原勝吉
（合唱指揮）佐藤公春
（共演校）東京工業大、東京医科歯科大、御茶の水女子大
（ソプラノ）金矢　香　　（アルト）青木道子
（テノール）川村敬一　　（バリトン）高橋大海
（合唱）都民合唱団、日本フィルハーモニー合唱団、東京学芸
大学混声合唱団、東京医科歯科大学合唱団／他
（曲目）ベートーヴェン作曲序曲「レオノーレ」第３番
ベートーヴェン作曲交響曲第９番「合唱付」

52年１月14日　■第５３回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）尾原勝吉
（曲目）リスト作曲交響詩「前奏曲」
シベリウス作曲組曲「カレリア」
チャイコフスキー作曲交響曲第５番

52年７月９日　■尾原勝吉先生名誉指揮者就任祝賀会
（会場）白金迎賓館

52年８月17日～26日　■東北演奏旅行
（会場）18日柴田　19日塩釜　20日古川　22日泉　23日本庄
24日能代　25日長井
（指揮）久保田　孝
（曲目）エグモント序曲／未完成／悲愴／ラデツキー行進曲／ペ
ルシャの市場にて／運命／花のワルツ／他

昭和52年10月９日　■明治大学音楽団体連合会第１２回演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）久保田　孝
（曲目）ラデツキー行進曲／ペルシャの市場にて／宮城民謡より
斉太郎節／他

52年12月16日　■第５４回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）久保田　孝
（バリトン）野中匡雄
（曲目）モーツァルト作曲歌劇「魔笛」序曲
マーラー作曲「さすらう若人の歌」
シベリウス作曲交響曲第２番

53年６月10日　■尾原勝吉先生叙勲祝賀会演奏会
（会場）白金迎賓館
（指揮）尾原勝吉、末永隆一
（曲目）運命／ポルカ「狩」／威風堂々／他

53年６月29日　■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）山岡重信
（曲目）ヴェルディ作曲歌劇「シチリア島の夕べの祈り」序曲
シューマン作曲交響曲第４番
ブルックナー作曲交響曲第３番「ワーグナー」

53年10月10日　■明治大学音楽団体連合会第１３回演奏会
（会場）日本教育会館
（指揮）堀江威光
（曲目）「ツァラトゥストラはかく語り」より／スターウォーズ

53年10月29日　■上尾小学校全館落成記念式典
（会場）上尾小学校体育館
（指揮）堀江威光
（曲目）ラデツキー行進曲／白鳥の湖／フィンガルの洞窟／他

53年11月25日　■第５５回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）久保田　孝
（曲目）メンデルスゾーン作曲序曲「フィンガルの洞窟」
ストラヴィンスキー作曲舞踊組曲「火の鳥」（1919年版）
ブラームス作曲交響曲第３番
ブラームス作曲ハンガリア舞曲第６番

54年５月11日　■マーラー交響曲第９番特別演奏会
（会場）浅草公会堂
（指揮）久志本涼
（共演校）東京工業大、東京医科歯科大、御茶の水女子大
（曲目）マーラー作曲交響曲第９番

54年６月10日　■ピアノ発表会協奏曲伴奏
（会場）銀座ヤマハホール

54年８月21日～27日　■北海道演奏旅行
（会場）23日旭川　25日小樽　26日函館
（指揮）小出雄聖
（曲目）「魔弾の射手」序曲／運命／新世界より／他

昭和54年12月28日
■第５６回定期演奏会
（会場）新宿文化センター
（指揮）白柳昇二
（曲目）ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲
プロコフィエフ作曲バレエ組曲「ロメオとジュリエット」
ブラームス作曲交響曲第４番

55年６月27日
■６月コンサート
（会場）調布市市民福祉会館グリーンホール
（指揮）白柳昇二
（曲目）ニコライ作曲「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲
ベートーヴェン作曲交響曲第８番
ラフマニノフ作曲交響曲第２番
プロコフィエフ作曲「三つのオレンジへの恋」より行進曲

55年10月11日
■明治大学音楽団体連合会第１４回演奏会
（会場）日本教育会館
（指揮）不明
（曲目）不明

55年12月24日
■第５７回定期演奏会
（会場）虎ノ門ホール
（指揮）白柳昇二
（曲目）ワーグナー作曲歌劇「ローエングリーン」第３幕への前奏曲
ワーグナー作曲楽劇「ジーグフリート」より森のささやき
ブルックナー作曲交響曲第５番（原典版）

56年８月22日～31日
■東北演奏旅行
（会場）23日浦戸島　23日24日塩釜　25日気仙沼　27日八戸
28日鮫　30日秋田
（指揮）白柳昇二
（曲目）フィンランディア／カルメン第１組曲／運命／ラデツキー行進曲／他

56年９月13日
■尾原勝吉先生追悼演奏会
（会場）日本教育会館大ホール
（指揮）石井善明
（出演）明治大学、東京工業大学、一橋大学、東京医科歯科大学、御茶の水女子大学、聖心女子大学、各ＯＢ・ＯＧ
（曲目）ベートーヴェン作曲交響曲第３番「英雄」
チャイコフスキー作曲交響曲第５番
ヨハン・シュトラウス作曲「狩」「鍛冶屋」

56年12月22日
■第５８回定期演奏会
（会場）荒川区民会館
（指揮）白柳昇二
（ヴァイオリン）徳永二男
（曲目）ムソルグスキー作曲交響詩「禿山の一夜」
チャイコフスキー作曲ヴァイオリン協奏曲
ムソルグスキー作曲（ラヴェル編曲）組曲「展覧会の絵」

57年６月22日
■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）白柳昇二
（メゾソプラノ）菊池由子　（テノール）黒田晋也
（曲目）ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲

ビゼー作曲「カルメン」よりオペラ形式による抜粋
ブラームス作曲交響曲第２番
ブラームス作曲ハンガリア舞曲第５番

昭和57年10月11日
■明治大学音楽団体連合会第１６回演奏会
（会場）日仏会館
（指揮）不明
（曲目）ヴィヴァルディ作曲「四季」より春／他

57年10月26日
■明治中学・高校創立７０周年音楽祭
（会場）九段会館
（指揮）田代俊文
（曲目）ショスタコーヴィチ作曲「祝典序曲」／ハンガリア舞曲第５・６番／チャイコフスキー作曲交響曲第５番

57年12月８日
■第５９回定期演奏会
（会場）杉並公会堂
（指揮）三石精一
（曲目）ショスタコーヴィチ作曲「祝典序曲」
ドビュッシー作曲「小組曲」
チャイコフスキー作曲交響曲第５番
ドヴォルザーク作曲スラブ舞曲第２番

58年６月21日
■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）田代俊文
（オルガン）島田麗子
（曲目）シベリウス作曲組曲「カレリア」
ベートーヴェン作曲交響曲第１番
サン＝サーンス作曲交響曲第３番「オルガン付」
ヨハン・シュトラウス作曲ポルカ「雷鳴と電光」

58年12月14日
■第６０回定期演奏会
（会場）荒川区民会館
（指揮）三石精一
（曲目）グノー作曲歌劇「ファウスト」よりバレエ音楽抜粋
マーラー作曲交響曲第１番「巨人」

59年６月20日
■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）田代俊文
（ナレーター）鈴木良伸
（曲目）ワーグナー作曲「ニュルンベルクの名歌手」前奏曲
プロコフィエフ作曲「ピーターと狼」
ブラームス作曲交響曲第４番

59年９月５日～８日
■新潟演奏旅行
（会場）６日７日長岡
（指揮）田代俊文
（曲目）ハンガリア舞曲第１、３、５、６番／マイスタージンガー／ブラームス作曲交響曲第４番／他

59年12月19日
■第６１回定期演奏会
（会場）新宿文化センター
（指揮）田代俊文
（曲目）コープランド作曲「エル・サロン・メヒコ」
フォーレ作曲（ラボー編曲）組曲「ドリー」
シベリウス作曲交響曲第２番

昭和60年６月15日
■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）田代俊文
（曲目）フンパーディンク作曲「ヘンゼルとグレーテル」序曲
ドリーブ作曲バレー組曲「シルヴィア」
ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」

60年10月10日
■明治大学音楽団体連合会第１９回演奏会
（会場）日本教育会館
（指揮）不明
（曲目）シンコペーテッドクロック／皇帝円舞曲／他

60年12月９日
■第６２回定期演奏会
（会場）練馬文化センターホール
（指揮）本名徹二
（曲目）ヴェルディ作曲歌劇「ナブッコ」序曲
プーランク作曲バレエ音楽「牝鹿」
チャイコフスキー作曲交響曲第６番「悲愴」

61年６月４日
■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）本名徹二
（曲目）ニコライ作曲歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲
ムソルグスキー作曲「禿山の一夜」
ドヴォルザーク作曲交響曲第８番

61年12月15日
■第６３回定期演奏会
（会場）練馬文化センターホール
（指揮）本名徹二
（ファゴット）前田信吉
（曲目）ワーグナー作曲歌劇「リエンツィ」序曲
ウェーバー作曲ファゴット協奏曲ヘ長調
ショスタコーヴィチ作曲交響曲第５番

62年６月10日
■６月コンサート
（会場）調布グリーンホール
（指揮）本名徹二
（曲目）シベリウス作曲交響詩「フィンランディア」
ブリテン作曲組曲「ソワレ・ミュージカル」
チャイコフスキー作曲交響曲第５番

62年10月10日
■明治大学音楽団体連合会第２１回演奏会
（会場）日本都市センター
（指揮）佐瀬一夫
（曲目）美しき青きドナウ／ラデツキー行進曲／他

62年10月17日
■大田区大森第五小学校音楽教室
（会場）大森第五小学校講堂
（指揮）不明
（曲目）フィンランディア／アイネ・クライネ／シンコペーテッドクロック／他

62年11月４日
■鴻巣市私立幼稚園ＰＴＡ連合演奏会
（会場）鴻巣市市民会館
（指揮）不明
（曲目）フィンランディア／アイネ・クライネ／シンコペーテッドクロック／他

昭和62年12月14日
■第６４回定期演奏会
（会場）五反田簡易保険ホール
（指揮）本名徹二
（合唱指導）菅原寿郎
（ソプラノ）宮野麻紀　（アルト）落合知美
（テノール）菅原寿郎　（バリトン）佐藤泰弘
（合唱）明治大学交響楽団第９合唱連合
（曲目）ワーグナー作曲「ニュルンベルクの名歌手」前奏曲
ベートーヴェン作曲交響曲第９番「合唱付」

63年６月20日
■６月コンサート
（会場）荒川区民会館
（指揮）本名徹二
（曲目）ブラームス作曲「大学祝典序曲」
メンデルスゾーン作曲劇音楽「真夏の夜の夢」
ドヴォルザーク作曲交響曲第９番「新世界より」

63年９月４日
～７日
■東北演奏旅行
（会場）４日白石　６日相馬
（指揮）本名徹二
（ピアノ）佐藤今日子
（曲目）大学祝典序曲／モーツァルトpf協奏曲第２１番／新世界より／他

63年12月26日
■第６５回定期演奏会
（会場）新宿文化センター
（指揮）本名徹二
（曲目）ドビュッシー作曲「小組曲」
チャイコフスキー作曲幻想序曲「ロメオとジュリエット」
プロコフィエフ作曲交響曲第７番「青春」

平成１年６月９日
■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）栗田博文
（曲目）サン＝サーンス作曲歌劇「サムソンとデリラ」よりバッカナール
レスピーギ作曲組曲「鳥」
ブラームス作曲交響曲第１番
ブラームス作曲ハンガリア舞曲第５番

１年12月10日
■第６６回定期演奏会
（会場）昭和女子大学人見記念講堂
（指揮）新通英洋
（曲目）ドビュッシー作曲「民謡を主題としたスコットランド風行進曲」
フォーレ作曲（ラボー編曲）組曲「ドリー」
プロコフィエフ作曲バレエ組曲「ロメオとジュリエット」第１第２組曲より抜粋

２年６月８日
■６月コンサート
（会場）杉並公会堂
（指揮）新通英洋
（曲目）ショスタコーヴィチ作曲「祝典序曲」
シベリウス作曲交響曲７番
ベートーヴェン作曲交響曲第５番「運命」
ヨハン・シュトラウス作曲ポルカ「雷鳴と電光」

平成２年９月５日
～９日
■新潟・富山演奏旅行
（会場）６日高岡　７日富山　８日長岡
（指揮）新通英洋・小田学
（曲目）ショスタコーヴィチ作曲「祝典序曲」／運命／シベリウス作曲交響曲第７番／雷鳴と電光／カルメン／他

２年12月24日
■第６７回定期演奏会
（会場）新宿文化センター
（指揮）新通英洋
（ピアノ）佐藤美保子
（曲目）ベルリオーズ作曲序曲「ローマの謝肉祭」
プーランク作曲ピアノとオーケストラのための協奏曲
ブラームス作曲交響曲第２番
ブラームス作曲ハンガリア舞曲第１番

３年６月７日
■６月コンサート
（会場）北とぴあさくらホール
（指揮）新通英洋
（曲目）ボロディン作曲歌劇「イーゴリ公」よりダッタン人の踊り
シャブリエ作曲「田園組曲」
チャイコフスキー作曲交響曲第６番「悲愴」

３年10月６日
■ピアノ研究室つぼみ会３０周年記念コンサート
（会場）銀座ヤマハホール
（指揮）不明
（曲目）ピアノ協奏曲の伴奏

３年12月11日
■第６８回定期演奏会
（会場）川口総合文化センターリリアメインホール
（指揮）渡邉一正
（曲目）オネゲル作曲交響的運動「パシフィック２３１」
ファリャ作曲バレエ音楽「三角帽子」
ブラームス作曲交響曲第４番

４年６月12日
■６月コンサート
（会場）練馬文化センター
（指揮）長田雅人
（曲目）ラヴェル作曲「古風なメヌエット」
チャイコフスキー作曲バレエ音楽「白鳥の湖」より
ショスタコーヴィチ作曲交響曲第５番
ユーマン作曲（ショスタコーヴィチ編曲）２人でお茶を

４年11月３日
■江東区民文化祭
（会場）江東区文化センター
（指揮）杉山　茂
（曲目）モーツァルト作曲Vn協奏曲／同FlとHarp協奏曲／同pf協奏曲第２０番

４年11月29日
■全日本大学オーケストラ大会
（会場）東京芸術劇場大ホール
（指揮）長田雅人
（曲目）マーラー作曲交響曲第１番「巨人」第４楽章

４年12月６日
■第６９回定期演奏会
（会場）昭和女子大学人見記念講堂
（指揮）長田雅人
（ソプラノ）吉武由子

（曲目）ヴェルディ作曲歌劇「運命の力」序曲
ワーグナー作曲楽劇「トリスタンとイゾルデ」より第１幕前奏曲、愛の死
マーラー作曲交響曲第１番「巨人」
Ｒ．シュトラウス作曲楽劇「ばらの騎士」よりオックス男のワルツと三重唱

平成５年６月３日
■６月コンサート
（会場）北とぴあさくらホール
（指揮）長田雅人
（曲目）リスト作曲ハンガリー狂詩曲第２番
ハチャトリアン作曲舞踊組曲「ガイーヌ」より
ドヴォルザーク作曲交響曲第８番
グローフェ作曲「ミシシッピ」組曲より

５年９月２日
～８日
■富山演奏旅行
（会場）４日新湊　５日富山　６日７日入善
（指揮）小林幸人
（曲目）ハンガリー狂詩曲第２番／「ガイーヌ」より／ドヴォルザーク作曲交響曲第８番／ミシシッピ組曲／他

５年10月３日
■明治大学交響楽団ＯＢ会総会
（会場）明治大学創立100周年記念大学会館
※ＯＢ会組織の充実と役員選出

５年12月10日
■第７０回定期演奏会
（会場）Bunkamura オーチャードホール
（指揮）福田一雄
（曲目）サン＝サーンス作曲交響詩「死の舞踏」
チャイコフスキー作曲バレエ組曲「眠りの森の美女」より
ブルックナー作曲交響曲第４番「ロマンティック」（ノヴァーク版）
マスカーニ作曲「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲

〔備　考〕下記の活動については省略しました

＊明治大学入学式典、卒業式典への列席

＊明治大学各学園祭への参加

＊各セクションによる演奏会等

＊青少年音楽祭（ジュネス）への参加

＊合宿や各種レクリエーション

＝ＯＢの思い出＝

■澤田　健（Ｖｎ；昭和29年卒）

周知の通りＭ響の歴史は古い。戦争で中断があり、私達が入団の頃は丁度復興期であった。部員はかろうじて、10～15名位で、弦が多く腕前の方も本格的にやった人はごく少なかった。コンサートはＮ響のエキストラが要所々々に入り、他大学、古い先輩等、常連の応援で立派な演奏をしていた。尾原先生の顔と、当時のマネージャー（木元・筒井両氏）の力に拠る所が大であったと言える。演奏会は記念館が主であった。確か「新世界」をやった時はステージが狭く、教室から教壇と机を運び込み、せり出しを作った事があり、終るまでくずれ落ちないかと冷や汗をかいた事もあった。譜面も先輩の手書のものか、皆でスコアーから手書で起こしたものが多かったが、私は３年の時ライブラリアンをやっていたので、定期近くなると楽譜の写譜で、徹夜をした事がよくあった。

日頃は部員が少なく、練習もこま切れになったり、限られた楽器の音しか聴いていない事が多いので、いざゲネプロとなると、すごい音がして震え上がる事があり、オーケストラをやって良かったなと、幸せな気分になった。この時の皆ののぼせ上がった顔は忘れられない。本番が終ると、エキストラ代の入った封筒を配って走り廻った（人数が多いので大変だった）。

指揮は尾原先生以外ではやったことがなかったが、大変粘り強く指導してくれた。練習の人が少いと不機嫌で、笑顔はめったに見られなかったが、本番近くなりメンバーが多くなって来ると、次第に明るくなって来たのを覚えている。Ｎ響のメンバーでも有名人を良くエキストラに連れて来てくれたが、カッチャンには誰でもが一目置いていた。何と言っても酒の入った時が最高で、日頃見た事も無い、ニコニコ顔で御機嫌になった。

当時の部室は記念館の５階右奥で、合唱団も同居していた。今どうなっているか分らないが、部室の看板（板に筆書きのもの）は、私が父に書いてもらって立てたものである。オーケストラのシンボルマークも部内で色々検討したが、良いものが無かったので、坂下の記章屋（名は忘れた）にこちらの原稿を元に作ってもらった。

合宿は内房の岩井の民宿であった。練習も勿論やったが、海水浴、野球、ナンパ、夜は酒が出て、筒井マネージャーが宴会部長で賑やかにやった。夜、漁師の舟を底の栓が抜いてあるのも知らず、沖に漕ぎ出し、沈没寸前陸に戻ったこともあった。翌日は村中で大騒ぎになった。

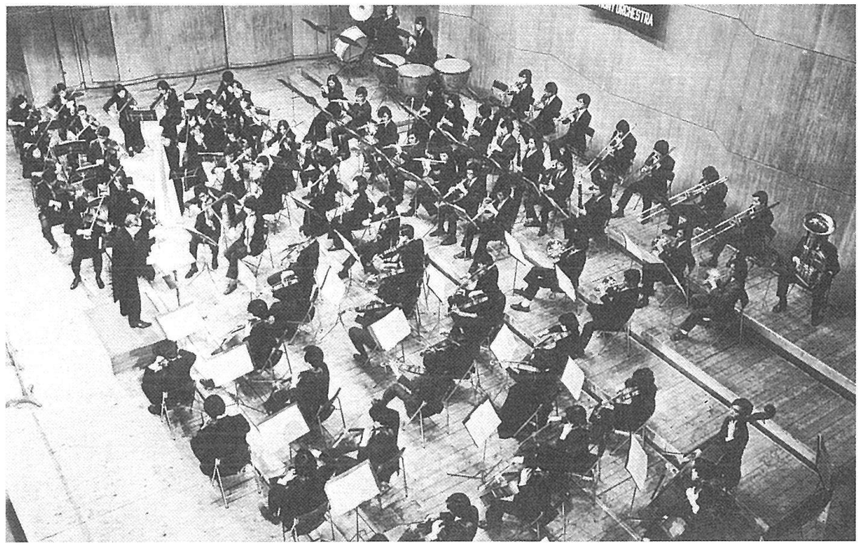
小学校の音楽教室もやった。長野県野尻湖近くで、故緒方先輩の所縁の土地であった。夜は村人の盆踊りの中に入り、子供達とも仲良くなった。当時は部費も無く、これ以外に旅行の記憶はない。

部の楽器はティンパニー一対とコントラバス１台だけだった。いずれもステージの上のスペースに置いていた。譜面台もあったが、大抵は演奏会近くなると、下倉楽器やマンクラへ借りに行った。

私達は、自分達だけで演奏会を開くのではなく、エキストラの力を借りて、少しでも良い演奏をしたいと願っていたと思う。戦後の復興という使命感みたいなものがあったのではないか。そのため、演奏だけではない広い色々な経験が出来た。人員が少なかったので比較的まとまって活動していたと思う。

我々も含め、先輩達も又ある時期までの後輩も、尾原先生がいたから一定の水準で続けて来れたのでしょう。又、木元・筒井以後のオケラ経営が上手（努力したからでもあるが）だったこともあり、色々な舞台をセットしてあげて、その都度先生も喜んでいたと思う。このことも忘れないでいて欲しいと思っている。

記　録／資　料



第49回定期演奏会（昭和47年12月９日）

歴代総長／学長／部長

年度	総　長	学　長	部　長
T12		富田鉄太郎	
T13		横田秀雄	
T14		横田秀雄	
S 1		横田秀雄	
S 2		横田秀雄	
S 3		横田秀雄	林　久吉
S 4		横田秀雄	林　久吉
S 5		横田秀雄	林　久吉
S 6		横田秀雄	林　久吉
S 7	横田秀雄		林　久吉
S 8	横田秀雄		林　久吉
S 9	鵜沢総明		林　久吉
S10	鵜沢総明		林　久吉
S11	鵜沢総明		林　久吉
S12	鵜沢総明		林　久吉
S13	木下友三郎		林　久吉
S14	木下友三郎		林　久吉
S15	志田鉀太郎		林　久吉
S16	志田鉀太郎		林　久吉
S17	志田鉀太郎		林　久吉
S18	鵜沢総明		林　久吉
S19	鵜沢総明		林　久吉
S20	鵜沢総明		林　久吉
S21	近藤民雄		林　久吉
S22	近藤民雄		林　久吉
S23	近藤民雄		林　久吉
S24	鵜沢総明		林　久吉
S25	鵜沢総明		林　久吉
S26	鵜沢総明	春日井　薫	林　久吉
S27	鵜沢総明	春日井　薫	林　久吉
S28	鵜沢総明	小島　憲	林　久吉
S29	鵜沢総明	小島　憲	林　久吉
S30	鵜沢総明	小島　憲	林　久吉
S31	松岡熊三郎	松岡熊三郎	林　久吉
S32	松岡熊三郎		林　久吉
S33	松岡熊三郎	武田　孟	林　久吉

年度	総　長	学　長	部　長
S34	松岡熊三郎	武田　孟	林　久吉
S35	佐々木吉郎	小出廉二	林　久吉
S36	佐々木吉郎	小出廉二	林　久吉
S37	佐々木吉郎	小出廉二	林　久吉
S38	佐々木吉郎	小出廉二	林　久吉
S39	武田　孟	小出廉二	林　久吉
S40	武田　孟	小出廉二	林　久吉
S41	武田　孟	小出廉二	林　久吉
S42	武田　孟	中川富弥	奥隅栄喜
S43	春日井　薫	中川富弥	奥隅栄喜
S44	春日井　薫	中川富弥	奥隅栄喜
S45	春日井　薫	中川富弥	奥隅栄喜
S46	春日井　薫	中川富弥	奥隅栄喜
S47	小牧正道	小牧正道	奥隅栄喜
S48	小牧正道	小牧正道	奥隅栄喜
S49	中川富弥	斎藤正直	奥隅栄喜
S50	中川富弥	斎藤正直	奥隅栄喜
S51	武田　孟	斎藤正直	奥隅栄喜
S52	麻生平八郎	斎藤正直	奥隅栄喜
S53	麻生平八郎	斎藤正直	奥隅栄喜
S54	麻生平八郎	斎藤正直	奥隅栄喜
S55	小島　憲	山本進一	奥隅栄喜
S56	小島　憲	山本進一	奥隅栄喜
S57	小島　憲	山本進一	奥隅栄喜
S58	小島　憲	山本進一	奥隅栄喜
S59	島田正郎	山本進一	鈴木義夫
S60	島田正郎	山本進一	鈴木義夫
S61	島田正郎	山本進一	鈴木義夫
S62	島田正郎	山本進一	鈴木義夫
S63	島田正郎	木村　礎	鈴木義夫
H 1	島田正郎	木村　礎	松本　穣
H 2	島田正郎	木村　礎	松本　穣
H 3	島田正郎	木村　礎	上田　泰
H 4	宮崎繁樹	岡野加穂留	上田　泰
H 5	宮崎繁樹	岡野加穂留	上田　泰

歴代幹事長／コンサートマスター

周年	年度	幹事長	コンサートマスター
	T12		
1	T13		
2	T14		
3	S 1		
4	S 2		
5	S 3		
6	S 4		
7	S 5		
8	S 6		
9	S 7		
10	S 8		
11	S 9		
12	S10		
13	S11		
14	S12		
15	S13		
16	S14		
17	S15		
18	S16		
19	S17		
20	S18		
21	S19		
22	S20		
23	S21		
24	S22		
25	S23		
26	S24		
27	S25		
28	S26	浦田　弘	坂倉暢男
29	S27		坂倉暢男
30	S28	澤田　健	山口　清
31	S29	筒井正樹	水口達也
32	S30	長谷川尚美	榊　善勝
33	S31	長谷川尚美	菊池幸男
		丹羽宗接	福井康裕
34	S32	折美成夫	山下忠治

周年	年度	幹事長	コンサートマスター
35	S33	岡野弘志	松浦晴彦
36	S34	川俣　允	稲垣　收
37	S35	牛尾尚義	稲垣　收
38	S36	赤羽　毅	松島一匡
39	S37	高橋邦寿	脇坂正毅
40	S38	小田島　弘	渡辺　卓
41	S39	武本　毅	渡辺　卓
42	S40	宇田川栄司	山本栄一
43	S41	増永浩司	山本栄一
44	S42	成川　渉	増永浩司
45	S43	岩田一弥	杉山　茂
46	S44	小野　学	杉山　茂
47	S45	渡部敏雄	法月ゆき子
48	S46	土井晴夫	市川　徹
49	S47	佐藤　拓	根本哲夫
50	S48	宮下　博	根本哲夫
51	S49	住田　洋	宮田　健
52	S50	兵藤　透	小室　盟
53	S51	倉茂英樹	坂本　昌
54	S52	高橋幸秀	秋山真人
55	S53	丹野英図	秋山真人
56	S54	成毛啓重	安田健一
57	S55	小林　斉	安田健一
58	S56	石本英昭	遠藤一彦
59	S57	石崎浩二	竹内　昭
60	S58	御所脇和幸	竹内　昭
61	S59	加藤雅司	岡野伸一
62	S60	清水　孝	岡田　健
63	S61	山形真生	篠塚義弘
64	S62	松井靖彦	高木経夫
65	S63	桑原智人	佐藤俊明
66	H 1	山田　剛	藤崎真澄
67	H 2	水谷　剛	佐藤　寛
68	H 3	山岸雅広	小野弘達
69	H 4	池田光秋	石川　清
70	H 5	長嶺賢自	水野敏行

定期演奏会記録

回数	公演日	会場	指揮
1	大正12年６月24日	帝大基督教青年会館	和田小太郎
2	14年５月17日	上野自治会館	和田小太郎
3	15年12月４日	明治大学４０番教室	山口常光
4	昭和３年６月９日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
5	３年12月２日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
6	４年６月30日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
7	６年10月16日	日本青年館	井田富之
8	７年６月17日	明治大学記念館講堂	井田富之
9	７年11月４日	日比谷公会堂	尾原勝吉
10	８年６月２日	日本青年館	尾原勝吉
11	８年10月26日	日本青年館	尾原勝吉
12	９年11月20日	日本青年館	尾原勝吉
13	10年11月12日	日本青年館	尾原勝吉
14	11年12月１日	日本青年館	尾原勝吉
15	12年11月25日	日本青年館	尾原勝吉
16	13年11月14日	日本青年館	尾原勝吉
17	14年11月20日	日本青年館	尾原勝吉
18	15年12月１日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
19	16年６月14日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
20	16年11月９日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
21	17年６月14日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
22	17年12月６日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
23	18年６月13日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
24	18年９月不明	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
25	21年12月７日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
26	23年11月13日	明治大学記念館講堂	渡辺暁雄
27	26年12月７日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
28	27年12月13日	明治台学記念館講堂	尾原勝吉
29	28年11月20日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
30	29年11月22日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
31	30年11月29日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
32	31年12月４日	明治台学記念館講堂	尾原勝吉
33	32年12月２日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
34	33年５月22日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
35	33年12月９日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉

回数	公演日	会場	指揮
36	昭和34年11月24日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
37	35年12月６日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
38	36年11月28日	明治大学記念館講堂	尾原勝吉
39	37年11月26日	日本青年館	尾原勝吉
40	38年12月４日	杉並公会堂	尾原勝吉
41	39年11月20日	杉並公会堂	尾原勝吉
42	40年12月20日	杉並公会堂	尾原勝吉
43	41年11月20日	虎ノ門ホール	尾原勝吉
44	42年11月29日	杉並公会堂	尾原勝吉
45	43年11月11日	虎ノ門ホール	尾原勝吉
46	44年11月24日	虎ノ門ホール	尾原勝吉
47	45年12月６日	虎ノ門ホール	尾原勝吉
48	46年11月22日	杉並公会堂	尾原勝吉
49	47年12月９日	杉並公会堂	尾原勝吉
50	48年12月22日	杉並公会堂	尾原勝吉
51	49年11月30日	杉並公会堂	尾原勝吉
52	50年12月22日	東京郵便貯金ホール	尾原勝吉
53	52年１月14日	杉並公会堂	尾原勝吉
54	52年12月16日	杉並公会堂	久保田孝
55	53年11月25日	杉並公会堂	久保田孝
56	54年12月28日	新宿文化センター	白柳昇二
57	55年12月24日	虎ノ門ホール	白柳昇二
58	56年12月22日	荒川区民会館	白柳昇二
59	57年12月８日	杉並公会堂	三石精一
60	58年12月14日	荒川区民会館	三石精一
61	59年12月19日	新宿文化センター	田代俊文
62	60年12月９日	練馬文化センター	本名徹二
63	61年12月15日	練馬文化センター	本名徹二
64	62年12月14日	五反田簡易保険ホール	本名徹二
65	63年12月26日	新宿文化センター	本名徹二
66	平成１年12月10日	昭和女子大学人見記念講堂	新通英洋
67	２年12月24日	新宿文化センター	新通英洋
68	３年12月11日	川口総合文化センター	渡邉一正
69	４年12月６日	昭和女子大学人見記念講堂	長田雅人
70	５年12月10日	オーチャードホール	福田一雄

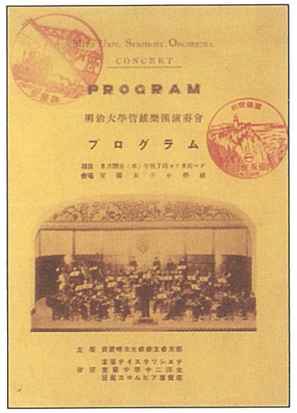
共演ソリスト

ソリスト	楽　器	公　演　日	公　演　名
田中宣子	声楽	昭和3年6月9日	第4回定期演奏会
沢崎アキ子	声楽	3年6月9日	第4回定期演奏会
佐藤美子	声楽	3年12月2日	第5回定期演奏会
尾原勝吉	ヴァイオリン	3年12月2日	第5回定期演奏会
平井美奈子	声楽	6年10月16日	第7回定期演奏会
松原　操	声楽	7年6月17日	第8回定期演奏会
松原　操	声楽	7年9月	信州地方演奏旅行
尾原勝吉	ヴァイオリン	7年9月	信州地方演奏旅行
平井美奈子	声楽	7年11月4日	第9回定期演奏会
尾原勝吉	ヴァイオリン	7年11月4日	第9回定期演奏会
井上信子	ピアノ	8年6月2日	第10回定期演奏会
平井美奈子	声楽	8年6月2日	第10回定期演奏会
高　玉枝	ヴァイオリン	8年10月26日	第11回定期演奏会
松原　操	声楽	8年10月26日	第11回定期演奏会
中村淑子	声楽	9年11月20日	第12回定期演奏会
遠見豊子	ピアノ	9年11月20日	第12回定期演奏会
河原喜久恵	声楽	10年8月	東北・北海道演奏旅行
ポーラック	ヴァイオリン	11年12月1日	第14回定期演奏会
関　種子	声楽	11年12月1日	第14回定期演奏会
松原　操	声楽	12年11月25日	第15回定期演奏会
渡辺　順	ハープ	12年11月25日	第15回定期演奏会
巌本真理	ヴァイオリン	13年11月14日	第16回定期演奏会
竹内　幸	声楽	13年11月14日	第16回定期演奏会
田中富貴子	ヴァイオリン	14年11月20日	第17回定期演奏会
滝田菊江	声楽	14年11月20日	第17回定期演奏会
藤田晴子	ピアノ	15年12月1日	第18回定期演奏会
滝田菊江	声楽	15年12月1日	第18回定期演奏会
井口小夜子	声楽	16年6月14日	第19回定期演奏会
南部タカネ	声楽	16年6月26日	管弦楽団／吹奏楽団拡充記念
巌本真理	ヴァイオリン	16年11月9日	第20回定期演奏会
小森智恵子	声楽	16年11月9日	第20回定期演奏会
鳴海匡純	声楽	16年11月9日	第20回定期演奏会
長門美保	声楽	17年6月14日	第21回定期演奏会
鳴海信輔	声楽	17年6月14日	第21回定期演奏会
長門美保	声楽	17年12月6日	第22回定期演奏会

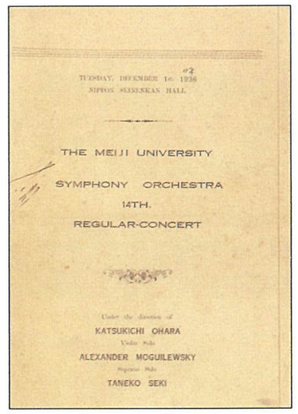
ソリスト	楽　器	公　演　日	公　演　名
井口小夜子	声楽	昭和18年4月11日	宇都宮公演
長門美保	声楽	18年6月13日	第23回定期演奏会
永田絃次郎	声楽	18年6月13日	第23回定期演奏会
江藤俊哉	ヴァイオリン	21年12月7日	第25回定期演奏会
滝田菊江	声楽	21年12月7日	第25回定期演奏会
團　瑛子	声楽	26年12月7日	第27回定期演奏会
川内澄江	声楽	27年12月13日	第28回定期演奏会
岩淵龍太郎	ヴァイオリン	27年12月13日	第28回定期演奏会
植野豊子	ヴァイオリン	28年11月20日	第29回定期演奏会
尾原　恒	ヴァイオリン	29年7月	東北・北海道演奏旅行
尾原　恒	ヴァイオリン	29年11月7日	大学祭（洞爺丸追悼演奏会）
植野豊子	ヴァイオリン	29年11月22日	第30回定期演奏会
尾原　恒	ヴァイオリン	30年5月	東北演奏旅行
尾原　恒	ヴァイオリン	30年7月	近畿・中国地方演奏旅行
福井宜也	ヴァイオリン	30年11月29日	第31回定期演奏会
尾原　恒	ヴァイオリン	31年7月	東北・北海道演奏旅行
外山　滋	ヴァイオリン	31年12月4日	第32回定期演奏会
尾原　恒	ヴァイオリン	32年7月	中部・北陸演奏旅行
菅井源太郎	フルート	33年12月9日	第35回定期演奏会
尾原　恒	ヴァイオリン	34年6月	東北・北海道演奏旅行
森元雄子	ピアノ	34年6月	東北・北海道演奏旅行
外山　滋	ヴァイオリン	34年11月24日	第36回定期演奏会
荘司美代子	ナレーション	34年11月24日	第36回定期演奏会
菅井源太郎	フルート	35年7月	山陰・九州演奏旅行
二宮夕美	ヴァイオリン	35年12月6日	第37回定期演奏会
館野晶子	ヴァイオリン	36年7月	東北・北海道演奏旅行
久保陽子	ヴァイオリン	36年11月28日	第38回定期演奏会
野島　稔	ピアノ	37年11月26日	第39回定期演奏会
毛塚隆之	フルート	38年7月	東北・北海道演奏旅行
池本純子	ピアノ	38年12月4日	第40回定期演奏会
徳永二男	ヴァイオリン	39年11月20日	第41回定期演奏会
神谷郁代	ピアノ	40年12月20日	第42回定期演奏会
森ゆう子	ヴァイオリン	41年11月29日	第43回定期演奏会
前島園子	ピアノ	42年11月29日	第44回定期演奏会
杉山　茂	ヴァイオリン	43年6月28日	ポピュラーコンサート

ソリスト	楽　器	公　演　日	公　演　名
杉山　茂	ヴァイオリン	昭和44年８月	東北・北海道演奏旅行
杉山　茂	ヴァイオリン	44年11月24日	第46回定期演奏会
西　明美	声楽	45年12月６日	第47回定期演奏会
杉山　茂	ヴァイオリン	46年８月	東北演奏旅行
杉山　茂	ヴァイオリン	46年11月22日	第48回定期演奏会
千葉　馨	ホルン	49年６月22日	６月コンサート
前田信吉	ファゴット	50年12月22日	第52回定期演奏会
水野佳子	ヴァイオリン	51年６月14日	６月コンサート
野中匡雄	声楽	52年12月16日	第54回定期演奏会
徳永二男	ヴァイオリン	56年12月22日	第58回定期演奏会
菊池由子	声楽	57年６月22日	６月コンサート
黒田晋也	声楽	57年６月22日	６月コンサート
島田麗子	オルガン	58年６月21日	６月コンサート
鈴木良伸	ナレーション	59年６月20日	６月コンサート
前田信吉	ファゴット	61年12月15日	第63回定期演奏会
宮野麻紀	声楽	62年12月12日	第64回定期演奏会
落合知美	声楽	62年12月12日	第64回定期演奏会
菅原寿郎	声楽	62年12月12日	第64回定期演奏会
佐藤泰弘	声楽	62年12月12日	第64回定期演奏会
佐藤今日子	ピアノ	63年９月	東北演奏旅行
佐藤美保子	ピアノ	平成２年12月24日	第67回定期演奏会
吉竹由子	声楽	４年12月６日	第69回定期演奏会

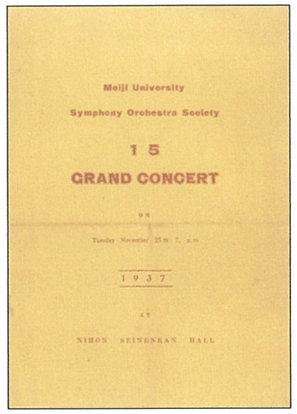
プログラムにみる七十年



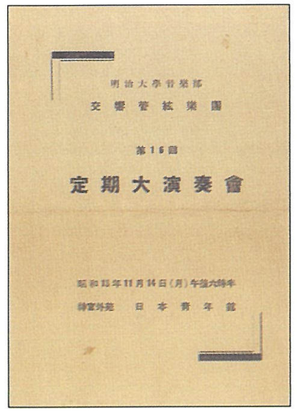
■S10；東北・北海道演奏旅行



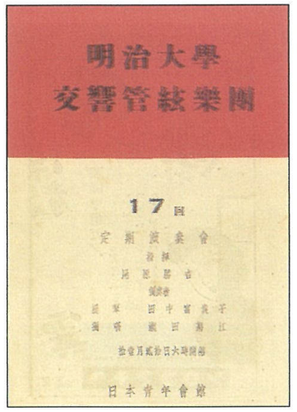
■S11；第14回定期演奏会



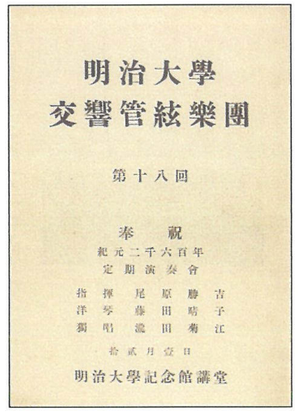
■S12；第15回定期演奏会



■S13；第16回定期演奏会

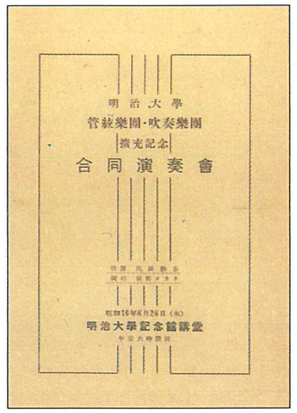


■S14；第17回定期演奏会



■S15；第18回定期演奏会

■S16；第19回定期演奏会

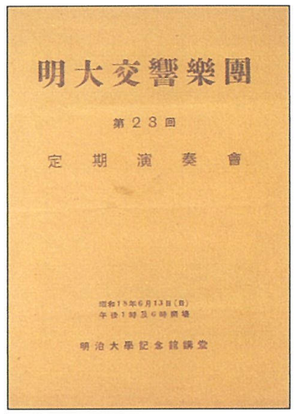


■S16；管弦楽団／吹奏楽団拡充記念

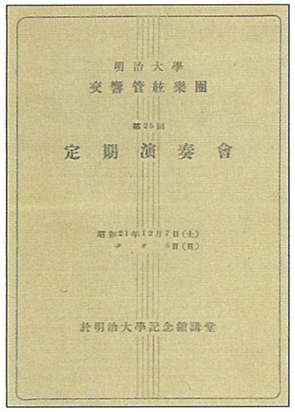
■S16；第20回定期演奏会

S17；第21回定期演奏会

S17；第22回定期演奏会

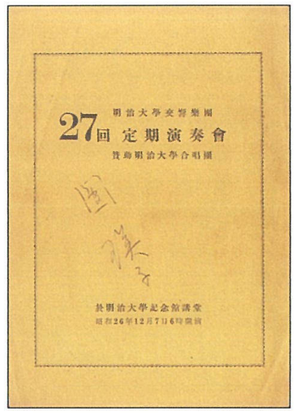


S18；第23回定期演奏会



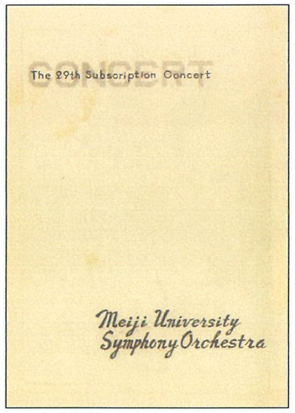
S21；第25回定期演奏会

S23；第26回定期演奏会



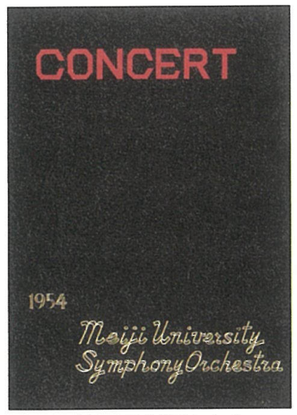
S26；第27回定期演奏会

S27；第28回定期演奏会

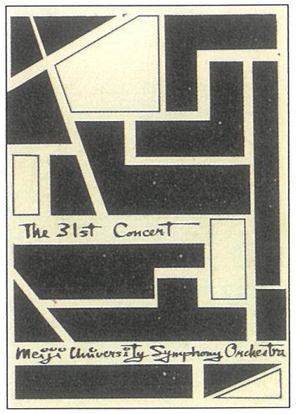


S28；第29回定期演奏会

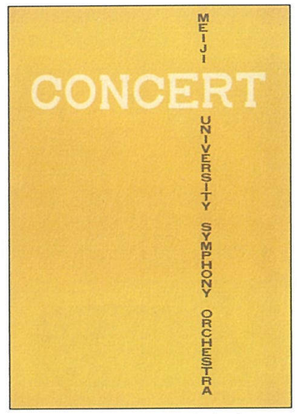
S28；六大学交響楽団第1回定期演奏会



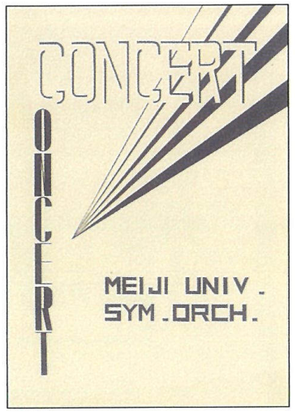
S29；第30回定期演奏会



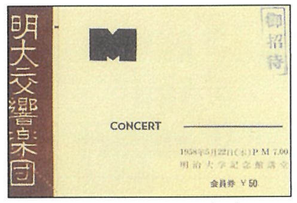
S30；第31回定期演奏会



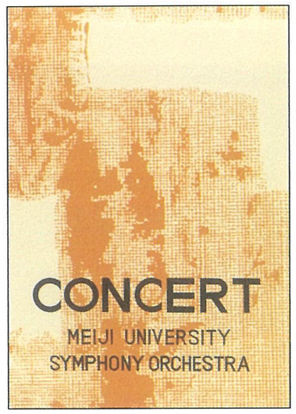
S31；第32回定期演奏会



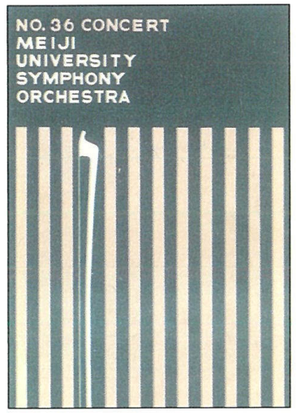
S32；第33回定期演演奏会



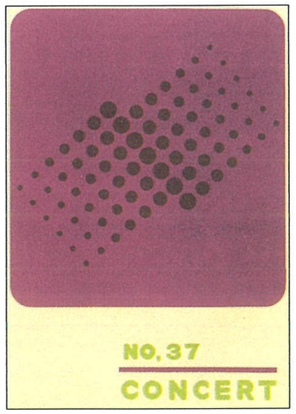
S33；第34回定期演奏会



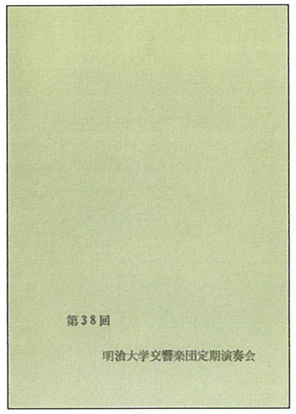
S33；第35回定期演奏会



S34；第36回定期演奏会



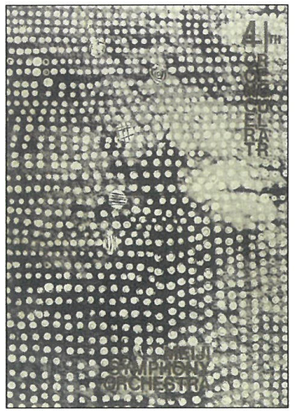
S35；第37回定期演奏会



S36；第38回定期演奏会

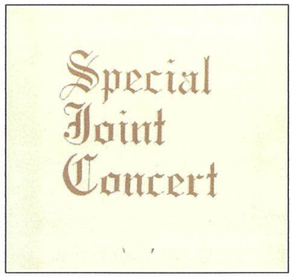
S37；第39回定期演奏会

S38；第40回定期演奏会



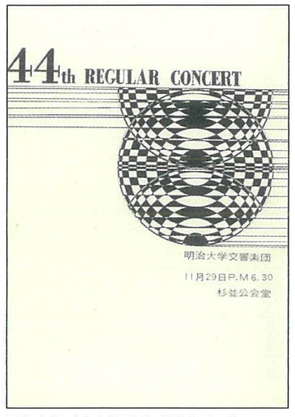
S39；第41回定期演奏会

S40；第42回定期演奏会

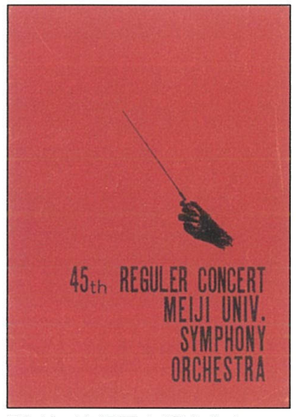


S41；五大学ジョイント

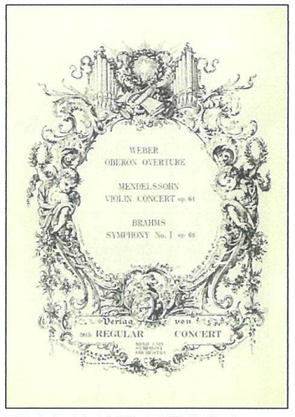
S41；第43回定期演奏会



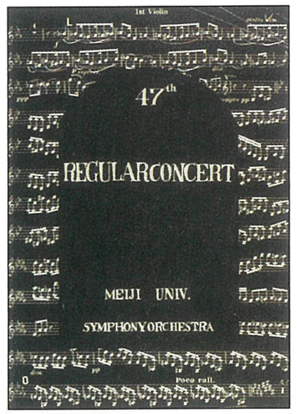
S42；第44回定期演奏会



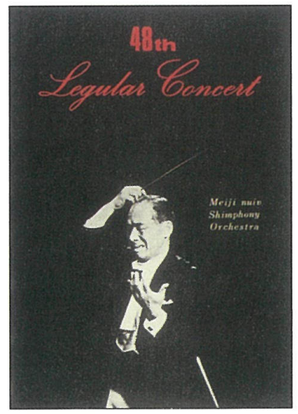
S43；第45回定期演奏会



S44；第46回定期演奏会



S45；第47回定期演奏会

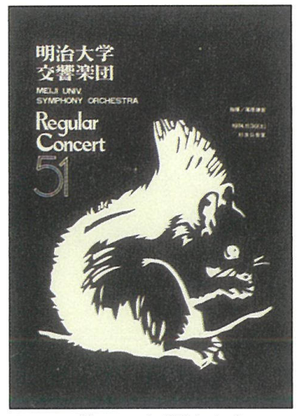


S46；第48回定期演奏会

S47；第49回定期演奏会

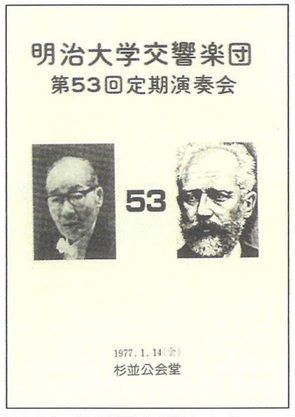
S48；五大学ジョイント

S48；第50回定期演奏会

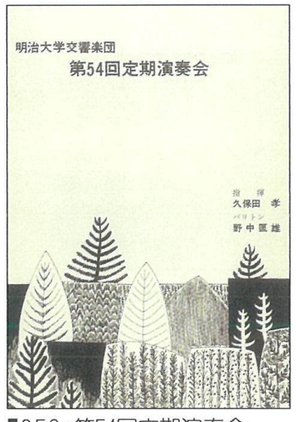


S49；第51回定期演奏会

S50；第52回定期演奏会



S52；第53回定期演奏会



S52；第54回定期演奏会

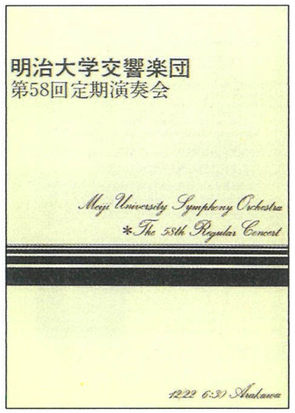
■S53；第55回定期演奏会

■S54；マーラー交響曲第9番特別演奏会

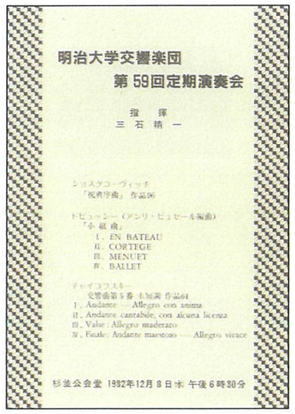
■S54；第56回定期演奏会

■S55；第57回定期演奏会

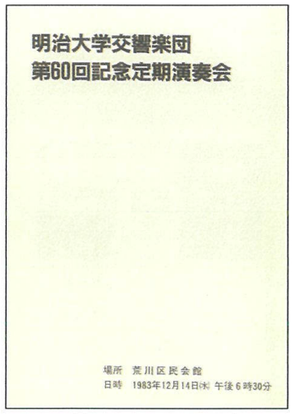
■S56；尾原先生追悼演奏会



■S56；第58回定期演奏会

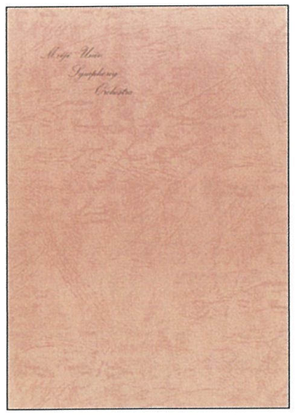


■S57；第59回定期演奏会

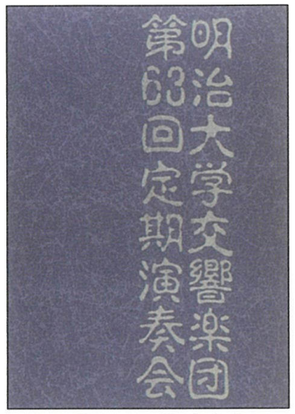


■S58；第60回定期演奏会

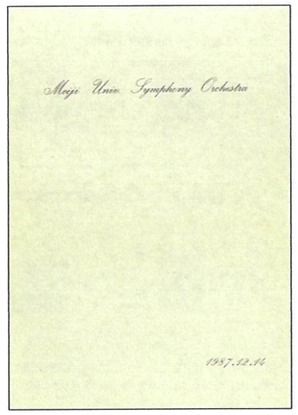
■S59；第61回定期演奏会



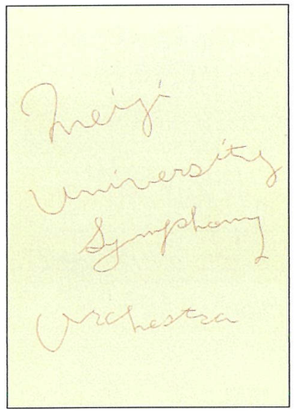
■S60；第62回定期演奏会



■S61；第63回定期演奏会

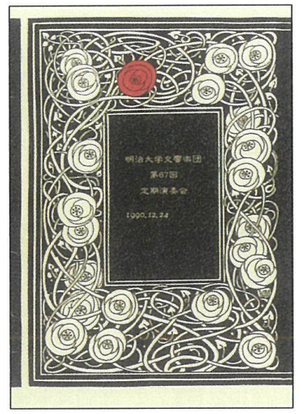


■S62；第64回定期演奏会

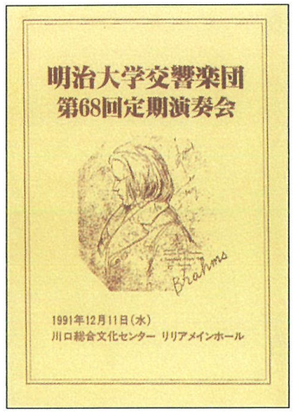


■S63；第65回定期演奏会

■H1；第66回定期演奏会

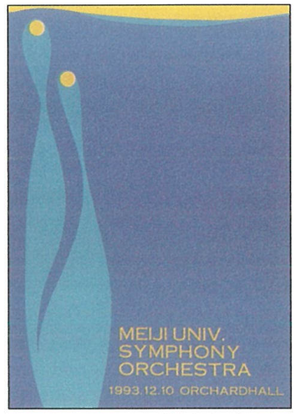


■H2；第67回定期演奏会



■H3；第68回定期演奏会

■H4；第69回定期演奏会



■H5；第70回定期演奏会

演奏旅行の変遷

■近畿・中国地方演奏旅行（昭和30年７月13日～７月28日）　※参加人員：47名

《１日目》　東京▬▬▬静岡／静岡市公会堂／静岡市公会堂／宿泊
8:30　12:33　14:00開演　18:00開演

《２日目》　静岡▬▬▬武豊／武豊小学校講堂／武豊━━━半田／宿泊
7:19　12:08　13:00開演

《３日目》　半田小学校講堂／半田小学校講堂／半田小学校講堂／宿泊
10:00開演　14:00開演　18:00開演

《４日目》　半田▬▬▬四日市／四日市中部西小学校講堂┼┼┼┼┼津新町／津市公民館／宿泊
9:08　12:23　13:00開演　18:00開演

《５日目》　津新町▬▬▬松阪／宿泊

《６日目》　松阪劇場／松阪劇場／宿泊
13:00開演　19:00開演

《７日目》　松阪▬▬▬天王寺／大阪中央公会堂／宿泊
8:24　12:16　18:00開演

《８日目》　大阪▬▬▬京都／弥栄会館／宿泊
11:00　11:35　18:00開演

《９日目》　京都▬▬▬豊岡／豊岡小学校講堂／豊岡小学校講堂／宿泊
6:55　11:09　13:00開演　19:00開演

《10日目》　豊岡▬▬▬鳥取／遷喬小学校講堂／遷喬小学校講堂／宿泊
7:54　10:19　13:00開演　18:00開演

《11日目》　鳥取▬▬▬松江／松江市公会堂／松江市公会堂／宿泊
8:02　11:39　13:30開演　19:00開演

《12日目》　松江▬▬▬出雲／出雲市第二中学校／宿泊
11:39　12:28　19:00開演

《13日目》　出雲▬▬▬川棚温泉／宿泊

《14日目》　川棚温泉▬▬▬下関／梅光女学院講堂／宿泊
14:35　15:23　19:00開演

《15日目》　下関▬▬▬西宇部━━━宇部／渡辺翁記念館／宿泊
13:39　14:46　18:00開演

《16日目》　現地解散

■東北・北海道演奏旅行（昭和42年８月19日～９月４日）　※参加人員：70名

《１日目》　上野▬▬▬福島／福島市公会堂／宿泊
8:35　13:29　18:30開演

《２日目》　福島▬▬▬会津若松／若松市民会館／宿泊
9:35　13:26　18:30開演

《３日目》　会津若松▬▬▬酒田／酒田市民会館／宿泊
7:46　16:01　19:00開演

《４日目》　酒田▬▬▬本荘／音楽教室／音楽教室／由利高校講堂／宿泊
7:53　9:35　10:30開演 13:30開演 18:30開演

《５日目》　本荘▬▬▬秋田／秋田県民会館／宿泊
9:41　10:44　18:30開演

《６日目》　秋田▬▬▬八戸／八戸市民会館／宿泊
7:33　13:29　18:30開演

《７日目》　八戸▬▬▬弘前／弘前市民会館／宿泊
9:19　14:30　18:30開演

《８日目》　弘前▬▬▬青森┈┈┈函館／宿泊

《９日目》　函館／ＨＢＣホール／宿泊
18:30開演

《10日目》　函館▬▬▬室蘭／室蘭文化センター／宿泊
8:16　15:29　18:30開演

《11日目》　室蘭━━━小樽／音楽教室／小樽市民会館／宿泊
8:00　14:30開演 18:00開演

《12日目》　小樽━━━札幌／道新ホール／宿泊
10:00　18:30開演

《13日目》　札幌━━━旭川／音楽教室／音楽教室／旭川市公会堂／宿泊
8:30　11:00開演 13:00開演 18:30開演

《14日目》　旭川━━━上川／音楽教室／上川━━━北見／北見市民会館／宿泊
8:30　10:00開演　18:30開演

《15日目》　北見━━━美幌／音楽教室／美幌中学校講堂／宿泊
9:00　14:00開演 18:00開演

《16日目》　美幌━━━札幌▬▬▬函館┈┈

《17日目》　┈┈┈青森▬▬▬上野

▬▬▬ 列車移動
┼┼┼┼ 電車移動
━━━ バス移動
┈┈┈ 船舶移動

■東北演奏旅行（昭和56年８月22日～８月31日）　※参加人員：75名

《１日目》　上野▬▬▬本塩釜……浦戸／宿泊

《２日目》　浦戸／音楽教室……塩釜／塩釜商工会議所ホール／宿泊
10:00開演　19:00開演

《３日目》　塩釜／音楽教室／塩釜▬▬▬気仙沼／宿泊
10:00開演　13:40　16:46

《４日目》　気仙沼／音楽教室／気仙沼市民会館／宿泊
13:00開演 19:00開演

《５日目》　気仙沼▬▬▬本八戸／宿泊

《６日目》　八戸／音楽教室／音楽教室／宿泊
10:30開演 14:30開演

《７日目》　本八戸▬▬▬鮫／音楽教室／鮫▬▬▬秋田／宿泊
8:02　8:23　9:30開演　12:01　19:02

《８日目》　秋田／リハーサル／宿泊

《９日目》　秋田／秋田市文化会館／宿泊
17:30開演

《10日目》　秋田▬▬▬上野

＝ＯＧの思い出＝

■上野（守屋）あやの（Vla；昭和59年卒）

昭和56年の東北演奏旅行は、２年生という気楽な立場からか一生忘れられない思い出となっています。

旅行の２日目大きな台風が東北地方を縦断し影響をまともに受けてしまいました。丁度浦戸での音楽教室のリハーサル中最も激しい風雨に見舞われ、小学校の生徒の家でも被害が出たため音教は中止となり、僅かに登校していた数人の生徒の前で一曲弾いただけでした。その日は塩釜市内での演奏会が予定されていました。島からのフェリーは台風の余波で欠航していましたが、私達の為に運行して頂き、荒波を覚悟して船に乗ったのを覚えています。舳先に乗せたティンパニーが波をかぶったり大変でした。３日目も又大変。東北本線が被害を受け運休。三陸海岸に沿ったローカル線で夜遅くまでかかって、気仙沼の宿へ着きました。途中「まえやち」という単線の無人駅では赤トンボの大群を追いかけ、皆でのんびりと電車を待ちました。やっと来た電車は２～３両編成の小さなもの。私達のお陰で満員となってしまい、地元の人もびっくり。車中ではトランプをしながら、小川を真っ赤に染めながら山に陽が入って行くのを眺めたり貴重な体験でした。

■演奏旅行スナップ三態

（昭和７年信州演奏旅行　岩村田小学校にて）

（昭和30年近畿・中国地方　半田小学校にて）

（昭和42年東北・北海道　秋田県民会館にて）

交響楽団が離島訪問
明大の90人、浦戸桂島を

松島湾に浮かぶ塩釜市の離島、浦戸桂島に、19日、明治大学のオーケストラが渡って演奏する。アマチュアとはいえ、団員90人を抱える本格的なオーケストラが島に渡るのは初めて。島の小、中学生はもちろん、大人たちも演奏会の日を心待ちしている。

この催しは、民主音楽協会（民音、姉小路公経代表理事）が48年から行なっている「民音学校コンサート」の一環として開かれる。オーケストラは明大交響楽団（高橋幸秀団長、団員90名）。同協会は48年から毎年、全国の小、中、高校、特に直接、ナマの楽団の演奏を聞く機会の少ない学校の児童、生徒を対象に演奏旅行をしており、これまで４年間で七百校近くの学校で演奏している。県内では48年桃生郡雄勝町の雄勝小、中学校など６校を訪れたのをはじめ51年には宮城郡宮城町の大倉小、中学校など14校を訪れている。

当日の演奏会は、桂島の塩釜市立浦戸第二小学校（石森元彦校長、児童数60名）体育館で、午前10時から１時間の予定で開催される。同校児童の他、寒風沢島の浦戸一小、野々島の浦戸中の各児童、生徒約二百人と、浦戸地区四島の父兄5,60人も船で桂島に渡って演奏を聴く。

演奏曲目は、「ラデツキー行進曲」「眠りの森の美女」「運命」１楽章等４曲。演奏の合間には楽器の紹介もある。

――― 昭和52年８月14日読売新聞より

■東北・北海道演奏旅行日誌（昭和34年夏）

【第１日目；６月30日】　皆、なかなか来ない。夜８時半迄に全員上野駅に集合。10時丁度、無事出発。車中穏か、少々１、２年生等が寝つかぬ様子。

【第２日目；７月１日】　小雨。朝、車中にて弁当をとる。11時49分鶴岡に着く。校友の出迎えを受け、全員、荘内ホテルへ落ちつく。昼食後４時迄自由行動だが、努めて睡眠をとらす。４時半、バスにて会場、鶴岡北高校へ行き、会場練習をす。６時、軽食をとり、７時開演。演奏は少々まずい。昨夜の不眠の為か。これではいけない。客数千五百（推定）。９時半夕飯。10時半消灯す。

【第３日目；７月２日】　大雨。10時鶴岡を発ち、11時半、酒田に着く。校友の出迎えを受け、都ホテルへ落ちつく。昼食後バスにて、掾成小学校へ行き、２時より音楽教室。６時軽食をとり、７時より一般。昨日とはうって変わって好演、好評。会場の雨漏りがひどい。客数千七、八百（推定）10時夕飯。11時消灯。

【第４日目；７月３日】　曇。10時酒田を発つ。酒田校友の好意に由り、名物最中の差し入れ有り、全員感謝しながらいただく。11時半本荘に着く。芸術協会の出迎えを受け、バスにて本荘旅館に落ちつく。昼食後本荘中学に向かい、音楽教室を行ない、５時に軽食をとる。７時一般ステージ。聴衆千人位。好評。特にピアノ協奏曲が良い。９時半夕飯。地元校友の好意に因り、全員ビールにありつく。

【第５日目；７月４日】　曇。９時半芸術協会、校友会に見送られながら本荘を発つ。10時半秋田へ着く。校友会、芸術協会の出迎えを受け、バスにて、今野旅館へ落ち着く。昼食後徒歩にて会場、県立記念館へ向かい、音楽教室後地元合唱団と会場練習を行ない、６時軽食。ベース故障の為20分遅れて開演。聴衆約二千。好演好評。合唱団とも親睦を持つ。夕飯後校友会の好意により全員ビールにありつく。

【第６日目；７月５日】　曇。秋田校友、芸術協会、合唱団と再会を約し、９時半急行津軽にて秋田を発ち、大館で駅弁をとり、午後１時青森へ着く。校友の出迎えを受け、バスで直ちに会場、県立体育館へ。２時より開演。聴衆約五千。汽車の疲れが懸念されたが、その様な事もなく好評。終演後自由行動をとる。校友の好意により、林檎を２箱いただく。全員一生懸命食べたが、食べきれず明日備品として一緒に持って行く事にする。

【第７日目；７月６日】　晴。校友会の見送りを受けながら、９時半弘前へ向かう。10時半芸術協会の出迎えの中へ着く。バスで弘前ホテルへ行き、昼食後弘前女学院にて音楽教室。全員張り切る。５時軽食をとった後、７時東奥義塾にて一般の部開演。聴衆約千四、五百。会場が礼拝堂のせいかヘンデルの水上の音楽が誠に神聖に響く。北に岩木山、西に弘前城を仰ぎ、その感益々深し。

【第８日目；７月７日】　曇。芸術協会の見送りを受けて、８時車中の人となる。９時過ぎ再び青森に着き、ただちに青函連絡船へ乗り込む。船は羊蹄丸だ。出船の際の蛍の光のメロディーに少々感傷される人達もある事だろう。イルカの群に見送られ、本州ともしばらくお別れである。船中の食堂にて、それぞれ昼食をとり、２時過ぎ函館に着く。１時間の待ち合わせで、長万部へ向かう。６時半、校友、教育委員会、音楽鑑賞会の出迎えの中に無事到着す。ただちに、あづま、昇龍、大盛旅館にそれぞれ落ちつく。今夜は演奏がないので皆くつろぐ。早速名物カニ料理が出た。待ってました！

【第９日目；７月８日】　大雨。10時よりあづま旅館広間にて、リハーサルを行なう。昼食後長万部高校にて音楽教室。軽食の後、７時より一般の部開演す。雨にも拘らず約一千人の聴衆を集む。此町の一千人と云えば全人口の一割強である。生の音楽は初めてという人々がほとんどである。此に我々の演奏旅行の意義があるのだ。終演後、聴衆の一人が名物の毛ガニを50匹近く持って来てくれた。我々多いに感謝す。又、長万部高校報道、音楽部からインタヴューを受ける。少々照れ臭かったが、此に明大文化の何たるや、多いに啓蒙した。

【第10日目；７月９日】　晴。８時過ぎ長万部を発ち、10時半室蘭へ着く。校友会の出迎えを受け、本多旅館に落ちつく。昼食後、成徳中学校にて音楽教室を行う。終演後校友の好意により、水族館に遊ぶ。５時軽食後バスで会場、清水ケ丘高校へ向う。７時開演。聴衆約一千余。演奏極めて良好。

【第11日目；７月10日】　曇。８時半室蘭を発ち、11時苫小牧で乗換え、１時札幌へ着く。ただちに宿舎、札幌児童センターへ向う。昼食後広間にてリハーサル。ＮＨＫのスタジオへ向う。カルメン組曲、アンダンテカンタービレを録音す。プロデューサーより「札幌放送管弦楽団より上手」とのお褒めの言葉をいただく。第一放送〔夢のハーモニー〕という番組で、電波に乗せる由。久々の大都会に、三々五々街に散る。

【第12日目；７月11日】　９時半札幌を発ち、12時砂川で乗換え、12時半歌志内へ着く。市会の出迎えを受け、ただちに神威小学校へ向う。音楽教室、一般の部と行う。地元児童合唱団とも共演す。今日、明日の両日は一切を市が負担し、入場は無料との事。ファゴット、ベース等は珍しい楽器として、人気を一身に集める。終演後バスにて宿舎、労働会館へ向う。

【第13日目；７月12日】　晴。今日は移動がないので皆のんびりする。昼食後、音楽教室を歌志内中学校にて行ない、７時の夜の部の開演を待つ。夜の部の聴衆約千五百。演奏良好。特にフルート協奏曲が好評だ。終演後、市会の好意により、ビールを御馳走になる。市長さんの挨拶があり、来年も是非来て欲しいとの事。

【第14日目；７月13日】　曇。７時歌志内市長さんに見送られながら遠軽へ向う。７時半砂川で準急「はまなす」に乗換え、１時遠軽へ着く。校友、鑑賞会の出迎えを受けて、柳川旅館へ落ちつく。昼食後ただちに遠軽劇場にて音楽教室。軽食後７時より一般の部開演す。演奏極めて良好。聴衆約千五百。この地は今年高校が丸焼けになったとか。その復興資金募集という事で行なわれたが、大概その目的も達したとか。皆でハッカ畠を見にいった。其の産出量日本の７割。

【第15日目；７月14日】　晴。８時半遠軽を発ち北見に向う。10時半校友会出迎えの中に到着。北見旅館に落ちつく。昼食後、富士見女学院にて音楽教室。全員張切る。後ＮＨＫのスタジオへ入り録音をとる（フルート協奏曲、アンダンテカンタービレ、トーイシンフォニー、ピッチカートポルカ等）。旅館へ帰り軽食後夜の部の会場、西高校体育館へ向う。演奏は尻上がりに好調。聴衆約千五百。終演後校友会の好意によりビール、アイスクリーム等が差入れらる。感謝！

【第16日目；７月15日】　雨。11時北見を発ち網走へ向う。12時過ぎ網走に着き校友の出迎えを受る。校友会の好意により、ただちにバスにて網走湖に遊ぶ。湖畔荘にて昼食をとり、原生花園に行く者、天都山へ行く者、それぞれ。５時、網走旅館にて軽食をとり、バスにて会場、労働会館へ向う。好演好評。聴衆約千五六百。演奏中オーボエ吹きが腹痛を起こす。演奏に支障なし。演奏後直ちに医者へ行く。寝冷えと分りホット胸をなで下ろす。

【第17日目；７月16日】　晴。９時半網走を発ち、10時過ぎ美幌へ着く。校友、青年会議所の出迎えを受け、美幌館へ落ちつく。小学校にて音楽教室。軽食の後、夜の部７時に開演す。病人全快。２，３日前から、朝夕ひどく冷える故。全員に再三注意を与う。

【第18日目；７月17日】　晴。校友、青年会議所の好意により、９時半、貸切バスで阿寒へ向った。

美幌峠、屈斜路湖、砂湯、川湯、摩周湖で遊びながら夕６時、湖畔、くまや旅館へ着く。当地婦人会の出迎えは予定外の事。『御高名はかねがね、是非々々、本当の、少しでも良い、当地の人達に一度生のオーケストラを見せてもらいたい、聴かせて欲しい。』との要望に、８時から付近、阿寒小学校で臨時演奏す。後程、当婦人会より『聞かせていただいたお礼です』とビールをいただく。全員御機嫌うるわし。

【第19日目；７月18日】　曇。お昼過ぎ、昨日のバスにて、釧路へ向う。市内へ入ると、校友の出迎えを受け４時過ぎ、清風荘へ入る。軽食後、バスにて公会堂へ向う。７時開演。演奏は北海道で最高の出来栄え。好評。此演奏会、市社会福祉施設所の後援もあったので、金二千五百円也の寄付をしてくる。僅かですが…。終演後校友会の好意により、ビール、ジュース等いただく。感謝！
この日の聴衆約二千との事。

【第20日目；７月19日】　晴。校友会の見送る中を９時、帯広へ向う。12時半帯広へ着く。校友会、十勝毎日新聞社の出迎えを受け、東広園へ落ちつく。今日は演奏なし。おみやげをまとめる者等、皆それぞれ、明日の最後に備える。

【第21日目；７月20日】　晴。朝はのんびりする。昼食後、音楽教室を行なう。ベース、ファゴットは相変わらず人気がある。軽食後公会堂へ向う。７時開演。聴衆約二千。会場にてＮＨＫの録音をとる。アンコールを終った時、全員感激す。コンサートマスターが握手を求めてやって来た。皆思い々々に手を握り合う。終演後、校友会の好意によりビールをいただく。感涙にむせびつつ。全日程が終ったのだ。何もかも終った。しかも何一つ事故もなく、僅かの病人こそあれ大事に至らず、無事が何より喜ばしい。
銘々はそれぞれの帰途についた。
校友諸先輩、いろいろお世話になりました。団員諸君、一致協力してくれた事、二重、三重に感謝す！
林先生、尾原先生それから学生課の方々の並々ならぬ御協力、御指導に深く頭を垂れ、感謝の意を表しつつ筆を置く。

筆　者　岡　野　弘　志

東北・北海道演奏旅行（昭和31年７月札幌）

■長岡特別演奏会及び音楽教室詳細（昭和59年）

【目　　的】①地方公演を通じて、クラシック音楽の普及を計り、多くの人達と交流を深め、同時に母校明治大学の名を広め、その活動の一環を認識してもらう。
②幅広い活動により、団員の音楽活動に対する使命感を深く認識せしめ、それにより、団員自身の人格形成において重要な経験の一つとする。

【日　　程】　昭和59年９月５日（水）～９月８日（土）

【場　　所】　（６日）市立大島小学校、市立坂之江小学校各体育館
（７日）長岡市立劇場

【宿　　泊】　「東泉閣」長岡市柏町２－３－11

【主　　催】　新潟県明治大学校友会長岡支部

【後　　援】　長岡市教育委員会

【費　　用】　３万円前後

【行動予定】

①９月４日（火）合奏終了後、楽器、大荷物トラックへ。各自荷物を持って記念館へ。

②９月５日（水）
AM11:30 全員御茶の水駅警察側集合
PM 1:34 急行「佐渡３号」上野発
PM 5:38 長岡着
PM 6:00 ホテル入り
PM 7:00 夕食
PM 8:00 ミーティング

③９月６日（木）
AM 8:00 朝食
AM 9:30 ホテル発
AM10:00 市立大島小着セッティング
AM10:45 開演
AM11:45 終演リセッティング
PM 0:00 大島小発
PM 0:30 市立坂之江小着セッティング
PM 0:45 軽食
PM 1:45 開演
PM 2:45 終演
PM 3:00 坂之江小発
PM 3:30 ホテル着

④９月７日（金）
AM 7:30 朝食
AM 8:45 ホテル発
AM 9:00 ホール着セッティング
AM10:00 リハーサル開始
PM 0:00 リハーサル終了軽食
PM 1:20 市立東中学校、関原中学校、大住中学校生徒入場
PM 1:30 開演
PM 2:00 休憩
PM 2:40 終演、休憩
PM 3:15 リハーサル
PM 4:15 リハーサル終了食事
PM 5:50 着替え完了、チューニング
PM 6:00 開場
PM 6:30 開演
PM 8:30 終演リセッティング
PM 9:30 ホール発
PM10:00 ホテル着
PM10:30 打ち上げ

⑤９月８日（土）
AM 8:00 朝食
PM 0:26 急行「よねやま」長岡発
PM 4:30 上野着
PM 4:45 学校着
PM 5:30 解散

＝ＯＢの思い出＝

■水口達也（Ｖｎ；昭和30年卒）

昭和26年頃はまだ銀座、新宿、上野、渋谷、神田あたりには露天商が並んで、アメリカのチョコレート、チューインガムにキャンディそしてキャメルとかラッキーストライクという洋モク等を賑々しく並べて我々を誘惑した。当時の苦しい学生生活のなかで、クラシックのクラブ活動はとても難しいことであった。しかし海外からはメニューインの来日、ジャック・ティボーが来日途中の飛行機事故で遭難、またＮＢＣオーケストラの改称された、シンフォニー・オブ・ジ・エアが大編成で日本公演をしたことなどナマの復活ぶりが思い出される。カラヤンが来日したときに、まだ日比谷にあったＮＨＫに尾原先生に連れられて、１スタの金魚鉢で初めての若々しいカラヤンを目の前で聞くことができたのも懐かしい。

現在とはまさに隔世の感があるが、それなりにＭオケ生活は今日までの自分に大きな影響を持つ。殊に、昭和29年（1954年）夏の東北・北海道演奏旅行メモを読むと、当時の運営状況、不便な交通事情など様子が読み取れて興味深いものがある。どの会場もほぼ満員の盛況で全行程を無事に終えた。総員は40名（トラ18名）であったが、当時としては実に規模の大きな演奏旅行を実現できた。内外にわたってこれをよくまとめあげた筒井正樹代表の活躍ぶりが忘れられない。役員は筒井代表の他、コンマス…水口、渉外（運輸）…今野、会計…榊、庶務…山口、ライブラリー…内田、宿舎内…横山、備品…北川、衛生…小林。日程は７月17日～８月５日の21日間。本公演15回。音楽教室５回。他に刑務所慰問、ＮＨＫ放送等がある。

この旅行中で、尾原先生のプロとしての厳しい姿勢を表す一つの事件があった。――前半のスケジュールも順調にこなし、７月25日の札幌市公民館でのステージを前にしていた時主催の幹部から、六大学ジャズコンサートで札幌に来ていた、明大のクラブをステージに呼びたいという提案がなされた。日頃あの温厚な勝ちゃんがここで激怒し、提案を断ってからもなだめるのに苦労して、なんとか開演にこぎつけた。ご都合主義をとてもきらう純粋な人であったし、ここでは先生の、プロとしての厳しい態度を強くみせつけられた一件であった。

■小沼俊男（Ｃｌａ；昭和36年卒）

昭和34年夏、演奏旅行最後の会場は北海道帯広の十勝会館だった。古い木造の建物だった。ステージには、ＮＨＫのマイクロフォンが何本か立っていた。ラジオの音楽番組収録のためである。恒さんのメンコンのカデンツァに入ると間もなく「ポー」という蒸気機関車の汽笛が飛び込んできた。近くの操車場からだった。尾原先生の苦笑が今も私の瞼に残っている。演奏終了後ＮＨＫの人から放送料と書いた袋を受け取った。赤字覚悟の演奏旅行だったので、額はともかく有り難かった。この汽笛入りメンコンは我々が東京へ戻ってから帯広ローカルで放送されたようだ。２年後、私はＮＨＫに入局した。そして赴任したのが、何と帯広だった。放送料を手渡してくれたチーフ・アナウンサーが上司だった。また、その時のミキサーは組合の委員長で、まもなく両氏からしごかれる日々が続くことになる。何とか独り立ち出来るようになった昭和39年冬、後輩が演奏旅行の企画を持って来た。今度は受入れの側に立った。帯広には、タイミングよく鉄筋のホールが落成していた。しかし経費が高く、その上、地方でのクラシック音楽愛好者はごく一握りということで、帯広開催が危ぶまれたが、結局、校友会は私の顔を立ててくれた。それからは仕事そっちのけでチケットを売り歩いた。その夏オケの一行は室蘭から夜行でやって来た。宿泊費節約のための強行軍である。疲労困憊の様子だったが、演奏は評判がよかった。あれから30年、先日帯広放送局出身者の飲み会～オベリベリ会～が開かれ、明大オケ演奏会の思い出話に暫し時を忘れた。

全団員名簿

第64回定期演奏会（昭和62年12月14日）

明治大学交響楽団全団員

氏名	パート	学部
■大正13年卒		
尾原勝吉 𠮟	Vn	商
菊地雙三郎	Cla	
■大正14年卒		
資料なく不明		
■昭和1年卒		
資料なく不明		
■昭和2年卒		
資料なく不明		
■昭和3年卒		
資料なく不明		
■昭和4年卒		
伴　宗一 𠮟	Vn	法
樋口（中川）亮 𠮟	Vn	法
■昭和5年卒		
高椋秀夫	Trp	商
守屋徹太郎 𠮟		
■昭和6年卒		
資料なく不明		
■昭和7年卒		
井田富之	Vn	法
板橋義夫	Vn	法
中島久雄 𠮟	Trp	商
■昭和8年卒		
赤塚　修	Fl	政
高岩健雄		政
中村吉雄	Vn	政
村田英二	Vn	商

氏名	パート	学部
八束博實	Vn	政
■昭和9年卒		
金山伸義 𠮟	Trp	
菊地行雄 𠮟	Per	商
佐治　茂 𠮟	Per	政
関島秀一郎	Cb	
高津欣吾	Vn	
田辺憲実	Cla	商
前野繁雄 𠮟	Cb	商
米沢喜正	Vn	商
■昭和10年卒		
大島喜一	Per	商
三浦正夫	Trp	商
■昭和11年卒		
石井　準 𠮟	Vn	政
岡田和夫 𠮟	Vla	商
木村喜三	Vn	法
児島敏彦	Vn	政
下村（杉浦）計介 𠮟	Fg	商
中西芳文 𠮟	Vn	商
新村　浩	Vla	
■昭和12年卒		
小倉　朗	Hr	文
■昭和13年卒		
伊藤秀雄	Cla	商
大前　保	Trb	
大和田富蔵 𠮟	Trb	
北村一郎 𠮟	Cla	商
嵯峨　進	Trb	政
仲吉良秀 𠮟	Trb	
谷本忠義	Vn	商
武市二郎 𠮟	Fl	法

氏名	パート	学部
都田敬典 𠮟	Vc	文
中西　伝		
原　弘一 𠮟	Vla	商
■昭和14年卒		
大倉謹次 𠮟	Per	
小藤　清	Vn	
津石　晶 𠮟	Vn	
八田　卓 𠮟	Trp	
■昭和15年卒		
金田元秀	Ob	商
草場章久	Vn	法
山中千代夫 𠮟	Vn	
裕川雅雄	Vn	商
■昭和16年卒		
榎本晃一郎 𠮟	Vla	商
緒方推隆	Vc	政
成島正次	Per	商
山崎忠一	Cb	政
■昭和17年卒		
岡村繁雄	Trp	政
鈴木英一 𠮟	Vn	商
津森繁雄	Fg	商
■昭和18年卒		
依田尚之	Vc	商
遠藤　公 𠮟	Fl	文
大槻一雄	Trp	商
須山　勇	Hr	法
中田（奥山）芳松	Cla	商
中村国夫	Fl	
西田茂広 𠮟	Vn	商
八木一雄	Trb	

氏名	パート	学部
■昭和19年卒		
大島邦明	Trp	法
岡田二郎	Ob	法
川見禎洪	Fl	商
島田栄吉	Vn	法
福原淳夫	Cla	商
■昭和20年卒		
資料なく不明		
■昭和21年卒		
寺田和夫	Per	法
野田　納	Trb	商
■昭和22年卒		
堺　邦雄	Cla	商
富田美千代	Pf	嬉
八幡瑛一	Trp	政
■昭和23年卒		
相沢義明	Fl	政
岡田礼二 𠮟	Vn	文
■昭和24年卒		
井田ハルミ	Vn	嬉
■昭和25年卒		
熊谷雅敏	Vn	政
斎藤智徳	Per	政
■昭和26年卒		
緒方孝太郎 𠮟	Trb	商
後藤定治	Vn	法
関　彰夫	Vc	政
桝田留治	Trp	政
山内　守	Fl	法

氏名	パート	学部
■昭和27年卒		
浦田　弘	Pf	商
片山光俊		
加藤毅一	Vn	政
鎌田彰夫	Vn	商
小菅　彰	Cb	政
小松武文	Cb	商
鈴木成治	Cla	政
浜田健二 𠮟		文
平間　新	Vc	政
山本（大内）成子	Pf	法
渡辺晴俊	Cb	政
■昭和28年卒		
石坂一雄	Vc	商
岡山礼子	Vn	商
川澄善一郎	Vn	商
坂倉暢男	Vn	商
高倉寛治	Cla	商
水野裕司 𠮟	Vn	商
■昭和29年卒		
木元尚男	Vla	商
佐野吉弘	Vn	商
澤田　健	Vn	商
塩谷一成	Vn	
永島定二	Cla	工
森　繁男	Vn	法
山下裕司 𠮟	Trp	商
吉田　耕	Vn	文
■昭和30年卒		
梅津五郎	Vn	農
浦沢正恵	Pf	短
大河原雅洪	Fl	工
北川昌孝	Vn	法
杉山　典 𠮟	Vn	法

氏名	パート	学部
筒井正樹 𠮟	Vc	商
成瀬（山口）清	Vn	政
水口達也	Vn	政
■昭和31年卒		
内田栄一	Per	商
今野和幸	Trp	農
榊　善勝	Vn	商
武石（遠田）美代子	Vn	政
三浦恵治	Vn	商
横山周平	Fg	商
■昭和32年卒		
石田　均	Cb	商
内山正則	Fl	商
大河原辰雄 𠮟		法
金子和子	Pf	文
兼利卓蔵	Vn	経
壁下　新	Vn	商
菊池幸男	Vn	法
小林　昇	Hr	商
小林幹夫	Vn	商
末武　実	Trb	文
田中光生	Vn	商
長谷川尚美	Cla	法
平野幹夫	Cb	経
若本恭二	Vn	政
渡辺文夫		政
■昭和33年卒		
丹羽宗接 𠮟	Vn	法
福井康祐	Vn	商
■昭和34年卒		
折美成夫	Trb	商
加藤　治	Vn	文
河野（柳沢）政人	Trp	工

氏　名	パート	学部
小柳　匡	Vn	法
菅井　源太郎	Fl	商
平　八郎	Trp	商
谷田　尚晟	Cla	政
長谷川　孝	Vn	工
山下　忠治	Vn	商
■昭和35年卒		
天野　勲	Vn	商
海江田　一郎	Vc	法
岡野　弘志	Vla	商
谷口　一夫	Trb	文
林田　久	Trb	商
藤本　登	Vn	政
松浦　晴彦	Vn	法
■昭和36年卒		
稲垣　收（隆三）	Vn	商
牛久保　哲男	Fl	政
海江田　勉	Vla	法
川俣　允	Hr	商
小沼　俊男	Cla	経
白井　宏	Vn	経
西野　万里	Pf	商
樋之口　靖博	Fl	政
本間　信太郎	Trb	工
村田　悦男	Trp	商
■昭和37年卒		
牛尾　尚義	Cla	商
大川　豊	Hr	政
大橋　洋元	Cla	経
根橋　徹郎	Fl	工
宮永　昌朗	Vn	商
■昭和38年卒		
赤羽　毅	Cla	商

氏　名	パート	学部
新井（平野）洋子	Vn	短
大橋（渡辺）クミ	Pf	短
醍醐（中根）五郎	Trp	文
常井　正憲	Vn	商
野口（塚田）千尋	Vn	短
信田　脩一	Fl	政
松島　一匡	Vn	政
由井　基晴	Cla	商
■昭和39年卒		
亀割　孝吉	Cb	政
楠見　勇	Cla	商
毛塚　隆之	Fl	法
庄野　泰市	Trb	工
白井　進一	Vn	文
進藤（脇坂）正毅	Vn	政
高橋　邦寿	Vn	工
田崎　豊	Cb	商
松山　未知	Vn	法
大沢　幸雄	Ob	工
■昭和40年卒		
遠藤　登志弘	Vc	工
小田島　弘	Vla	工
小俣　隆次	Vn	商
草野　道子	Pf	法
久保（杉村）久美子	Vn	文
新橋　庸雅	Trp	政
本道（関屋）亜紀子	Vn	法
竹田（高砂）由紀子	Vn	短
藤井　安穂	Vn	政
本間　次郎	Vn	法
吉村　英雄	Per	工
渡辺　卓	Vn	法
■昭和41年卒		
岡田　和明	Fl	工

氏　名	パート	学部
近江　悌二郎	Cb	法
小栗　通生		工
栗原　武文	Cla	工
鈴木　健明	Cla	工
高橋　朋勝	Ob	工
林　桃子	Vn	短
古田　清重	Vn	法
武本　毅	Trb	工
武本（田原）京子	Vn	短
吉岡　洋作	Trp	法
■昭和42年卒		
宇田川　栄司	Vn	工
小笠原　陽生	Vc	工
小林　富次郎	Trb	文
佐藤　孝子	Vn	文
隅田　正明	Trp	工
滝沢　正言	Fl	政
宮川　知津子	Vn	短
山本　栄一	Vn	商
山本（田中）恵子	Trb	短
若杉（岩渕）奈々美	Vn	文
■昭和43年卒		
尾形　正美	Cb	工
久保田　弘	Per	工
久保寺　敏郎	Vc	工
小林（田村）幸江	Vn	
滝沢（宇山）久美子	Vn	短
野地　繁樹	Trb	政
平野　泰彦	Vn	工
増永　浩司	Vn	商
■昭和44年卒		
天井　博	Vla	経
江原　健児	Trp	法
大西　義武	Trp	工

氏　名	パート	学部
岡崎　義典	Cla	工
岡田　利治	Cb	工
柏木　捷之	Vla	政
柏木（前田）幸子	Vn	商
加藤　清裕	Fl	院
片山　八十彦	Per	工
小林　和夫	Ob	文
柴崎　修二	Fg	
田熊　ゆり江	Vn	短
成川　渉	Trp	工
本堂　範剛	Trb	経
松田　一夫	Hr	経
水戸部　新太郎	Cla	政
山本　勝美	Hr	経
渡辺（藤原）磨智子	Vn	短
■昭和45年卒		
岩田　一弥	Vc	法
金坂　義徳	Per	法
喜多　佳璋	Vn	政
杉山　茂	Vn	法
松島　勝	Fl	団
矢嶋　克明	Vla	院
■昭和46年卒		
石塚　哲也	Vla	政
遠藤（松浦）啓子	Vn	政
小野　学	Vc	文
金子　健三郎	Vla	政
河合　文夫	Vn	法
川口　純一	Vn	商
北沢（長島）真由美	Vc	法
小池　和子	Vn	文
佐竹（渡辺）ますみ	Vn	短
島　巧七	Cb	商
島尻　久美子	Vla	法
薗田　栄哉	Fl	商

氏　名	パート	学部
田代　正志	Vla	政
中村　安次郎	Cla	商
古草　雅美	Vla	政
増渕　正義	Cla	工
山田（法月）ゆき子	Vn	文
■昭和47年卒		
有賀　光	Vn	商
石川　典子	Vn	短
井口　光雄	Vc	経
大谷（稲葉）由理	Vn	文
小澤　弘	Vn	文
片山（田原）永子	Vn	文
佐藤　裕嗣	Vn	農
清水　和彰	Trb	政
鈴木　譲	Hr	政
高松（遠藤）邦子	Vn	政
広瀬　克寛	Fl	商
宮腰　栄一	Trp	経
持丸　賢一	Ob	工
茂手木（丹）美佐子	Vn	法
山田　章	Fl	工
山本　滝雄	Trp	工
渡部　敏雄	Hr	商
■昭和48年卒		
青山　博	Vla	工
池田　俊郎	Per	工
市川　徹	Vn	政
大沼　広	Hr	政
加藤（植田）りみ	Fl	院
小堀　英一	Vc	経
篠原　高男	Cla	工
富岡　眞一	Cb	工
富岡　喜久江	Vn	団
土井　晴夫	Vc	農
橋本　家昭	Trb	政

氏　名	パート	学部
原　光郎	Vla	商
福田　実	Vc	工
堀越　隆一	Per	政
前田　実	Vn	文
山口　章	Vla	政
山口　明美	Vn	文
山崎　雅夫	Trp	商
山崎　康幸	Per	法
山本　悟人	Fl	文
■昭和49年卒		
蟻坂　隆	Cla	法
石綿　健二	Hr	商
大川（成田）ますみ	Cla	団
柿崎　実	Vla	工
久保　洋一	Vc	商
椎名　慎一	Fl	商
田中　淑子	Vn	短
千葉（桜井）美恵子	Vla	団
中平　正人	Cb	法
中村　聡	Fl	政
根本　哲夫	Vn	政
藤田　勲	Ob	法
増田（沢原）久美子	Vn	団
溝田（三浦）はるみ	Vn	団
森田　恒夫	Vc	農
■昭和50年卒		
五十嵐　孝信	Fl	政
石塚　昌実	Trp	文
石井　博行	Vla	法
今東　龍一	Fl	経
清光　眞木夫	Vn	商
佐々木　彰	Vc	工
佐々田　保	Cla	法
佐藤　拓	Cla	政
行方（田村）敦子	Vn	短

氏　名	パート	学部
内藤伸昭	Vla	工
中原　雅	Trp	商
中村健一	Fg	政
中村徳之	Trb	法
坂藤英明	Vc	法
槙納邦明	Fl	政
宮崎晃郎	Per	経
宮下　博	Tub	経
宮田健史（健）	Vn	商
宮田（能作）雅子	Vla	文
安川輝之	Vla	政
安川（大竹）裕子	Vla	短
綿貫（原）静子	Vla	文
■昭和51年卒		
岩立一男	Vc	経
蝦名公子	Vla	短
蝦名順子	Vla	短
狩野秀嗣	Vc	商
榊原（石森）佳代子	Fl	短
佐藤（小室）盟	Vn	文
斎藤美紀子	Cla	団
椎名（五島）京子	Fl	院
下嶋和雄	Ob	農
住田　洋	Trb	工
田中　緑	Vc	短
土屋（斉藤）美紀子	Cla	団
藤　泰治	Hr	商
富沢郁雄	Hr	商
土方貴美子	Fl	文
本間直樹	Trp	商
巷岡知行	Cla	工
矢島克亮	Vn	政
渡辺　彰	Trp	商
■昭和52年卒		
市川　智	Ob	法

氏　名	パート	学部
五十嵐　功	Fg	経
井上　章	Cb	商
大築裕信	Trp	商
北嶋健児	Vc	政
雲田（構山）美知子	Ob	文
重野　淳	Tub	政
鈴木健一	Vla	農
住吉純治	Vn	政
高橋孝造	Vc	政
武内（高野）みどり	Vla	法
手島俊明	Vc	商
天明昭男	Trb	商
殿岡（佐藤）知子	Vn	文
芳賀道保	Trb	団
兵藤　透	Hr	農
平井貴之	Fl	団
山邊（橋本）寛史	Trb	文
吉井文彦	Cb	工
吉井（長島）映子	Vn	商
■昭和53年卒		
青木（森近）和厚	Vc	政
朝川（植田）絵理	Vc	法
池亀　優	Per	政
大泉雄彦	Cla	文
小川　章	Ob	工
奥　誠一	Fl	法
倉茂英樹	Fl	商
斎藤　尚	Fl	商
榊原秀明	Fl	商
佐野（島本）みづゑ	Vn	文
庄司里美	Vc	文
鈴木誠一	Vc	団
竹下精一	Cla	政
長浜浩嗣（良美）	Trb	農
早坂和馬	Hr	工
半田文夫	Trp	農

氏　名	パート	学部
福永雅一	Trp	政
堀井信男	Fg	経
松本嘉男	Per	工
丸田厚子	Vc	法
山本（平山）公子	Vn	短
■昭和54年卒		
朝倉晴彦	Vla	政
池田憲幸	Vla	商
菊岡明良	Cb	法
久保田　尚	Vc	政
紺野　猛	Cb	商
酒井圭子	Fl	商
坂部重敬	Vn	農
坂本　昌	Vn	政
坂本（川口）智子	Vn	経
志村（斎藤）節子	Vn	政
鈴木三泰	Cla	法
高橋敏彦	Vn	政
高橋幸秀	Cb	農
栃本賢一	Vn	政
中田（木村）伸子	Per	政
野崎雅彦	Vc	団
原　裕喜	Trp	経
藤村　聡	Vc	商
古谷秀晴	Vn	政
宮下（桜井）由美	Vn	文
宮野（河原崎）卓	Vla	法
宗野（村田）志保子	Cla	団
矢代修一	Per	商
山本雅弘	Trb	法
横山せつ子	Vla	文
米沢　潤	Hr	法
米良和男	Ob	商
■昭和55年卒		
秋山真人	Vn	農

氏　名	パート	学部
伊丹睦弘	Ob	政
伊藤信彦	Hr	院
岩嶋成浩	Vn	文
植田宗生	Trp	工
梅原（大原）優美子	Vn	短
大野　賢	Hr	政
笠松秀臣	Vn	政
勝見岳彦	Vc	経
金子（足立）吏己也	Trp	商
川口憲治	Hr	団
小林　信	Cb	商
小林正一	Vn	政
米野秀一	Vc	政
境田　薫	Vc	工
白鳥英之	Trp	工
高橋　晃	Cla	政
高橋亮一	Trb	経
竹井（山下）真範	Fl	経
谷口　勲	Vc	経
丹野英図	Cb	経
寺田浩之	Hr	団
戸川喜正	Vla	農
富張省三	Trp	文
萩原静也	Vn	政
濱野高行	Vn	政
樋口　彰	Vla	農
堀江威光	Vn	文
水口（渡辺）則子	Fl	文
宮道（吉野）広子	Vc	団
村上　武	Trb	政
森（箕田）克美	Vla	文
山本（牧）敦子	Vc	文
山本（菊田）多江子	Vn	文
吉田（山本）邦子	Fl	農
■昭和56年卒		
飯島彰男	Vn	文

氏　名	パート	学部
梅津公一	Ob	工
岡本　武	Cb	経
亀井玲子	Vn	文
菅野　真	Vn	政
菅野（山本）のり子	Fl	団
菊地信三	Vla	文
白岩一紀	Hr	経
Boller（杉山）ゆかり	Vla	団
杉田賢一郎	Trb	法
鈴木寿夫	Trp	商
鈴木　豊	Vc	商
田中正夫	Fl	文
高橋（秦）潤子	Cla	短
谷口克哉	Hr	工
大川（堂下）さえ子	Vn	団
長塚俊裕	Hr	政
成毛啓重	Per	文
野島一男	Hr	農
尾栢（平尾）真紀	Fl	文
丸本柳太	Vn	経
宮下富貴子	Vn	文
向井能成	Vc	文
村川（森田）郁子	Vn	文
森谷　剛	Vla	文
山田美智子	Cla	団
山本　東	Ob	工
■昭和57年卒		
今尾恵介	Per	文
宇野英人	Vc	文
遠藤英明	Vc	工
奥野　武	Trp	団
尾谷晃生	Vn	商
加藤正史	Trb	政
小林誠一	Vla	農
小林　斉	Trb	政
斎藤聡克	Cla	経

氏　名	パート	学部
佐々木敏郎	Vc	工
亀山（高橋）具美枝	Vla	文
田渡雅敏	Vn	政
野中賢輔	Hr	法
原　毅	Vn	経
松田　朗	Cb	文
丸山信之	Trp	団
宮沢久美	Cla	文
安田健一	Vn	政
山崎邦彦	Vla	工
山本（山中）祥子	Vla	文
吉村忠幸	Vla	法
渡野辺孝之	Cla	経
■昭和58年卒		
青島　宏	Vc	商
石本英昭	Hr	商
浦口拓也	Vn	文
遠藤一彦	Vn	商
大田芳彰	Vla	商
柿本正仁	Fg	工
小山菜穂美	Vn	経
佐々木厚至	Fl	法
隅田　誠	Trb	工
田里啓子	Vn	法
田村和喜子	Fl	団
高橋　靖	Trb	文
高橋（織井）由起子	Fl	商
津村芳正	Vn	商
二谷　靖	Per	政
野崎俊宏	Trp	団
長谷川　孝	Ob	商
橋本良一	Fl	政
浜野和（浜中）理恵	Fl	団
原田修明	Cb	法
松本かおり	Vn	政
三橋朋子	Vn	文

氏　名	パート	学部
茂木文置	Per	商
■昭和59年卒		
赤田良治	Tub	法
石崎浩二	Trb	文
板倉重雄	Vla	農
伊藤達行	Cla	政
上野孝志	Trp	経
上野（守屋）あやの	Vla	文
大沢研一	Vn	商
大貫健治	Vn	商
大貫（福島）かおる	Vc	文
長田敏彦	Vn	政
鎌田亨	Vn	文
神代剛太	Per	法
木島隆司	Ob	法
栗木（安原）加寿子	Vc	団
小林（木岡）久子	Vn	文
佐々木佳子	Vla	文
十字英一	Vn	政
染谷祐二	Vn	農
長谷川嘉彦	Cb	文
布施幸恵	Ob	文
不破眞	Vla	工
堀江正一𨻶	Fl	文
牧田篤典	Vc	団
守屋俊光	Fl	経
矢島（新村）玲子	Fl	文
山田（佐藤）真由美	Vn	法
山本るり	Cla	文
吉田俊哉	Cla	工
富瀬（米盛）晴乃	Vn	団
■昭和60年卒		
赤堀早苗	Cla	法
新井亨	Hr	文
荒瀬真	Hr	商

氏　名	パート	学部
岩田康雄	Vn	農
内山和郎	Trp	政
浦口（増田）奈雅子	Vn	文
江島明浩	Fg	政
江藤洋一	Vc	法
小幡創	Fl	工
上川敬子	Vn	農
川真田隆志	Vn	法
神田多恵子	Vn	短
御所脇和幸	Per	政
齋木淳	Vc	工
斉藤（鈴木）直子	Cla	団
坂田克志	Vn	文
佐藤義則	Vla	農
清水洋一	Hr	文
杉村康昭	Ob	文
鈴木三誉子	Vla	政
竹内昭	Vn	文
多田明弘	Per	経
中島（鎌田）真紀子	Fl	農
羽根佳雄	Fl	文
稗田庫子	Vn	文
東坂一正	Trb	工
日比野孝治	Cla	政
福與浩司	Vn	文
増屋徹	Vn	文
丸山博樹	Vn	文
美馬眞	Vla	政
山際道夫	Cb	経
吉田（原）多美恵	Cla	文
吉田裕一	Vn	文
■昭和61年卒		
朝倉（古幡）雅子	Fl	団
岩田（秋山）直美	Vn	団
飯嶋良太	Cb	院
上野晋一	Trp	文

氏　名	パート	学部
大蔵徹	Trb	政
大森史郎	Trb	文
大森（須貝）千枝	Hr	文
岡野伸一	Vn	法
小倉佳浩	Vn	商
垣松三千人	Hr	文
片貝民男	Trb	文
加藤雅司	Cb	商
菊地達哉	Hr	文
北嶋麻季	Vn	短
小杉一也	Vc	文
斉藤淳一	Trp	文
坂本雄一郎	Vn	文
佐藤剛	Hr	工
高野克己	Cla	文
谷村年恒	Vn	経
陳昌虎	Vn	文
冨原寿男	Hr	法
西沢洋	Vc	法
橋本秀宏	Vc	政
平山文子	Vn	法
深堀雅也	Vn	法
福田雅章	Cb	文
堀澄浩	Vc	政
丸山政一	Trb	経
山口（屋代）英久子	Vn	短
渡辺亜希子	Vla	短
渡辺慶子	Vn	文
■昭和62年卒		
赤坂幸彦	Vc	文
浅海哲也	Vn	政
池谷（中村）幸	Vla	団
潮田佳子	Cla	文
牛久保美香	Trb	法
内田早苗	Vn	団
大嶽昌弘	Vc	商

氏　名	パート	学部
岡田健	Vn	法
奥山（大隅）郁子	Vn	文
小畑靖	Fl	政
北川滋生	Fl	法
北川（伊藤）英恵	Vla	団
黒島千晶	Fl	農
小熊（松本）早千香	Per	文
塩澤喜三雄	Vc	工
清水孝	Cb	文
清水（宮内）聡子	Vc	団
白川悟志	Trp	法
高橋雅弘	Ob	法
橘裕之	Tub	経
玉手信博	Vc	政
中野道夫	Trp	法
松岡茂治	Vn	政
宮沢龍彦	Trb	工
森下（鈴木）由華子	Vn	団
藪内（田中）春美	Ob	団
山崎（岡谷）真由美	Vn	法
山田弘子	Cla	文
山本薫	Fg	文
山本泰寛	Vla	法
渡辺隆行	Trb	工
渡辺（今田）淑子	Per	団
■昭和63年卒		
浅田浩二	Trb	工
安東敦子	Vn	商
出口文教	Trp	農
出口雅一	Trp	農
伊与部十奈美	Vn	団
植田薫	Hr	団
大内雅之	Ob	法
大竹（森元）みゆき	Per	短
大渕徹平	Ob	農
尾崎由美子	Vn	短

氏　名	パート	学部
近藤（大庭）香緒里	Fl	工
坂内暢彦	Cla	文
斎藤（戸井田）東美	Fl	経
佐瀬一夫	Tub	文
篠塚義弘	Vn	文
関戸学	Vn	商
竹岡（島崎）麻里	Vn	文
中嶋美佳	Hr	文
南雲仁	Hr	政
名取哲郎	Hr	商
林田健	Cb	商
三苫由木子	Vn	法
宮内裕美子	Fl	団
村山美紀	Vc	経
本橋由紀	Hr	短
両角千香子	Vla	団
藪内重康	Vla	商
山形真生	Fg	政
吉田聖子	Vn	文
吉田ひかる	Vn	政
■平成元年卒		
相川みどり	Cla	団
阿曽克也	Trb	法
新井崇史	Vn	農
有馬淳一郎	Per	政
安西弘幸	Vla	文
稲葉恵子	Hr	短
江野弘幸	Vla	文
遠藤和典	Cb	政
金井武敏	Cb	工
近藤憲二郎	Hr	文
佐藤剛	Vc	法
篠田恵留子	Vc	団
高木経夫	Vn	法
高橋徹	Vc	政
田村健二	Fl	農

氏　名	パート	学部
樋渡慶一郎	Vla	文
前佳代子	Fl	団
松井靖彦	Cla	法
松浦まゆみ	Fl	団
松岡祥樹	Fl	工
宮崎秀紀	Trb	農
村山夏子	Vn	短
森岡裕子	Per	法
横山睦	Per	政
■平成2年卒		
石川尚	Cb	法
板谷裕子	Ob	短
内村麻里子	Vn	法
大木茂男	Vla	文
大光（石原）聡美	Fl	工
香川篤史	Trb	工
岸田尚子	Vla	農
桑原智人	Hr	工
河内英昭	Trp	法
公地弥基子	Vc	農
斎藤博之	Vn	文
斎藤芳郎	Trp	法
佐藤俊明	Vn	法
末平一俊	Hr	文
末吉真紀	Hr	文
杉本直子	Fl	政
鈴木理知子	Vn	法
鈴木幸子	Fl	団
大楽佐和子	Vla	短
高木肇子	Fl	農
武山純一郎	Vla	団
鶴見恒	Vc	法
寺田尚子	Vn	短
豊嶋哲志	Vc	文
徳武康子	Ob	経
長山進吾	Vn	商

氏　名	パート	学部
野口園恵	Vn	文
原田一世	Per	法
松茂方幸	Fl	農
宮重春美	Fl	農
棟保琴絵	Cla	工
茂木正人	Cla	団
森　真弓	Vn	文
百瀬陽子	Per	農
吉田尚史	Trb	法
吉田（増田）夏生	Cb	団
藁谷修一	Vc	文
■平成３年卒		
阿部良子	Ob	短
石本瑞奈	Trp	法
江川美佳	Hr	団
大谷奈緒子	Vla	商
勝山淳子	Vc	政
門池享輔	Vla	農
門脇恭子	Vn	政
藏田真由美	Per	団
斎藤政憲	Cb	経
桜井浩司	Trb	経
佐野晶子	Vc	団
白井理子	Ob	工
田口信一	Vc	政
武部明子	Vc	法
坪井重隆	Hr	工
永須智子	Cla	法
西　朝子	Per	文
藤崎真澄	Vn	工
松澤めぐみ	Vn	文
松本美奈	Fl	団
村上智恵	Cla	文
村椿雅史	Vla	政
山田　剛	Hr	農

氏　名	パート	学部
■平成４年卒		
安部佐和子	Per	短
雨宮ひろみ	Cla	文
猪瀬　聡	Vc	工
一ノ宮和之	Trb	法
宇佐見佳代子	Cla	団
大場琢哉	Vn	工
小田　学	Fl	政
加藤千春	Vn	法
木原茂夫	Vn	農
小沼　諭	Hr	商
小松　晃	Cla	農
小森茂代	Vla	法
坂井洋介	Vn	政
佐々木章浩	Vn	工
佐藤　寛	Vn	法
芝崎千秋	Trp	団
杉本雄一	Vc	経
須藤陽子	Hr	団
高木俊也	Trb	政
高橋康介	Hr	文
千葉　圭	Vla	法
冨塚康彦	Cb	文
永瀬郁子	Vn	文
中原淳一郎	Cb	経
永山由明	Cb	工
西村明宏	Vn	農
野口朝子	Cla	農
野島淳一	Vn	工
野田直子	Per	文
花沢　晶	Cla	団
福村寛史	Fg	工
古川克子	Ob	工
本田直樹	Trb	文
松田理枝	Vc	文
水木理大	Trb	法
水谷　剛	Vn	工

氏　名	パート	学部
宮島克幸	Hr	団
宮村峰子	Hr	短
村尾夏子	Trp	短
山口圭子	Fl	団
■平成５年卒		
阿部　崇	Fg	政
阿部健俊	Hr	理
荒野靖子	Vn	政
石井浩一	Cla	文
石橋　亨	Hr	団
石原竹彦	Vn	文
井村京子	Trp	理
上渕知美	Vn	文
江平充子	Trb	政
逢坂禅哉	Fl	政
小野弘達	Vn	政
甲斐いずみ	Vn	文
金子三紀	Vn	文
金子　亮	Per	文
鎌田裕一郎	Tub	法
上東直木	Vc	農
北村公義	Vn	農
木原綾子	Fl	文
久保桂子	Fl	商
久保山　直	Vc	法
小波友恵	Fl	団
小林　猛	Cb	政
小林未央	Vn	法
澤山義紀	Vn	理
清水香代子	Trp	団
下間敬子	Ob	政
関口典代	Vc	文
高窪剛輔	Vla	法
田中理津	Vn	文
田辺広太郎	Vn	農
寺口慎吾	Ob	文

氏　名	パート	学部
土肥清子	Vla	文
中村康子	Vn	文
原田久俊	Vla	団
三浦克仁	Trp	理
山岸雅広	Hr	法
山下さおり	Fl	商
■現団員４年生		
赤沢俊子	Vn	政
秋元美弥子	Cl	法
池田光秋	Fg	経
池羽章子	Vn	法
石川　清	Vn	法
榎戸寧子	Vn	文
江間　郁	Fl	政
大西哲史	Trp	商
織田千穂	Vn	農
片桐浩司	Cb	農
金子洋資	Hr	商
河南周作	Hr	経
栗山卓也	Per	商
強崎　睦	Trp	政
小島　啓	Vc	理
小林　功	Trb	法
小林威之	Trb	農
佐藤奈美子	Fg	文
沢川有平	Vla	経
下川良子	Vn	法
白石一弘	Trp	政
末崎綾子	Vla	文
須釜　敦	Trb	理
杉村高次	Hr	文
関　考一	Vn	政
高木　繁	Fg	理
高坂陽子	Cb	文
高橋精二	Vc	法

氏　名	パート	学部
土屋朋之	Hr	農
長野美千代	Vla	農
中村洋一	Vc	法
西崎　誠	Cla	理
野田剛生	Cla	法
芳我朋子	Hr	文
早川邦彦	Hr	理
洞沢美佳	Vla	団
本間葉子	Per	経
松本良平	Trb	理
森　智里	Vn	商
八代　慎	Ob	経
安井里子	Cb	団
矢ノ下順子	Trb	商
矢橋牧名	Fl	団
山崎奈都美	Trb	法
山本美野里	Vn	文
■現団員３年生		
青木俊一	Trb	法
浅見亜希子	Fl	団
穴吹文乃	Vn	文
石川正史	Vn	法
市丸靖子	Fl	文
岩崎和美	Trp	理
上野　崇	Vn	法
上原　学	Cb	商
榎　信太郎	Cla	政
遠藤淳史	Trb	法
遠藤一成	Ob	政
大野順子	Vn	文
小木曽　淳	Trp	政
桐井和久	Per	理
国分尚子	Vn	文
児島法子	Vn	文
菅原まき子	Vla	政
鈴木正子	Fl	文

氏　名	パート	学部
関谷淳子	Vn	商
田原亜紀	Trb	経
中澤喜之	Tub	農
中塚和孝	Trb	理
永原雅史	Vla	商
長嶺賢自	Trb	理
長山　睦	Tub	団
平原陽子	Vc	経
広瀬和哉	Ob	政
藤原　徹	Cb	理
藤原伸子	Ob	文
本間丈雄	Vn	政
水野敏行	Vn	法
皆川由紀江	Vn	農
望月威秀	Hr	商
本炭智恵	Cla	文
■現団員２年生		
浅里純也	Vn	理
東　俊介	Per	政
阿部裕之	Vc	文
池田かほる	Vn	文
石井　浩	Ob	団
石川一郎	Trb	法
伊藤浩一	Tub	文
稲沢　卓	Vn	商
井上智弘	Ob	理
宇井真由子	Vn	短
内木英史	Vn	商
浦辺靖子	Per	短
畝　典子	Vc	文
黄色和子	Vla	文
岡本和子	Vn	文
北村まこ	Vla	短
木下　薫	Fg	農
久保井　誠	Trb	文
佐藤友紀	Vn	政

氏　名	パート	学部
品川　智子	Per	文
杉山　　巧	Vn	文
高橋　由起	Trp	短
田中　紀子	Cb	政
坪内　理恵子	Trb	短
中村　哲也	Vc	法
縄野　聡子	Vn	短
橋爪　無量	Trp	法
久角　恵一	Cla	法
本田　哲也	Trb	政
牧野　かおり	Vla	短
本村　文香	Hr	団
山川　卓哉	Hr	団
山田　史子	Ob	政
吉野　元章	Hr	文
脇野　幸太郎	Cla	法
■現団員１年生		
赤津　正彦	Ob	政
秋葉　大介	Trb	理
新井　暢子	Ob	農
井手　利英	Fg	理
宇賀村　泰弘	Vn	理
梅村　朋子	Vn	文
大江　摩弥子	Vn	商
大須賀　厚子	Trp	経
大谷　研太郎	Cla	農
大部　裕次	Fg	団
落合　　徹	Cla	商
小野崎　　博	Trb	農
柿沼　千束	Fg	団
加治　典子	Vn	商
加藤　匠平	Trb	理
蒲田　　明	Cb	政
北山　尚子	Vn	法
久保　貴徳	Hr	団
久保村　華子	Vla	農

氏　名	パート	学部
栗原　由香里	Fl	文
小谷　奈緒子	Fl	農
後藤　活代	Fl	団
今野　祥子	Fl	商
桜沢　あや子	Per	団
佐藤　香織	Vn	政
佐藤　純子	Fl	短
嶋田　幸恵	Vn	農
清水　克益	Vn	商
白木　信一郎	Cb	法
新庄　孝雄	Vn	政
水津　美穂	Cla	文
杉山　拓己	Trb	商
鈴木　克明	Vla	団
鈴木　瑞枝	Hr	農
高橋　聖子	Vn	政
高橋　典子	Vn	理
竹村　尚人	Tub	文
立川　なぎさ	Fl	文
田中　正行	Trb	法
玉城　　健	Trp	団
田原　由紀子	Vn	法
東田　友紀	Ob	文
津田　　歩	Cb	法
土井　貴由	Vla	団
土井　ルミ子	Vn	法
内藤　玲子	Vla	文
中台　一博	Per	法
中村　太一	Cb	農
西脇　恵子	Vn	短
野村　直子	Vla	農
橋浦　のぞみ	Vn	理
藤田　壮一郎	Tub	団
藤村　　綾	Fl	短
古市　正昭	Vc	政
前田　圭介	Cla	文
松崎　喜政	Trb	政

氏　名	パート	学部
三上　泰史	Vn	政
三皷　誠司	Cla	理
森　　千春	Fl	団
諸江　健一郎	Trb	経
安田　宏史	Vn	法
矢葺　幸光	Vla	農
横山　久美子	Fl	文
吉木　聡子	Vn	団
若林　理子	Vn	団

〔略 称 の 説 明〕

■パートに関する略称

Vn	ヴァイオリン
Vla	ビオラ
Vc	チェロ
Cb	コントラバス
Fl	フルート
Ob	オーボエ
Cla	クラリネット
Fg	ファゴット
Hr	ホルン
Trp	トランペット
Trb	トロンボーン
Tub	チューバ
Per	パーカッション
Pf	ピアノ

■学部に関する略称

法	法学部
商	商学部
政	政治経済学部
文	文学部
経	経営学部
工	工学部
理	理工学部
農	農学部
短	短期大学
女専	女子専門部
院	大学院
団	団友

■その他に関して

故	物故者
（　）	旧姓・旧名

ＪＯＣＫスタジオでのラジオ放送　（昭和９年７月）

明治大学交響楽団七十年史

編集協力

治　藤
弘　田
男　口
也　井
祐　田
男　橋
郎　島
匡　見
勇　本
一　田
弘　野
学　丸
一　本
人　坂
隆　綿
二　下
博　辺
章　島
明　江
光　尾
介　田
明　貫
治　野
の　脇
幸　所
一　藤
孝　水
香　熊
健　早
幸　千
子　弘
人　恵
剛　留
樹　智
広　直
弘　雅
自　一
　　賢

定　繁
達　康
悦　徹
徹　一
一　栄
　　賢
　　悟
　　健
　　俊
　　威
　　恵
　　修
　　健
　　あや
　　和
　　淳

後　小
浦　持
森　山
水　蟻
福　石
村　宮
根　渡
松　手
楠　堀
山　今
久　原
保　大
　　上
　　御
　　斉
　　清
　　小
　　林
　　安
　　篠
　　桑
　　山
　　本
　　山
　　白
　　長

〔その他多数のOBより資料提供あり〕

OB会会長

木元尚男

OB会副会長

岡野弘志

OB会監事

長谷川尚美

平野幹夫

OB会理事長

杉山　茂

OB会理事

本間次郎

成川　渉

岡崎義典

中村徳之

坂部重敬

菅野　真

白川悟志

発　　行　明治大学交響楽団OB会

事 務 局　東京都江東区大島2-20-15

電話 03-3681-9646

印　　刷　有限会社 精密印刷

表紙design　菊池　薫

表紙photo　溝口清秀

表紙violin　Sanctus Seraphin (Venezia)

―― 平成7年1月15日 ――

70years of Meiji University Symphony Orchestra

明治大学交響楽団OB会